

第2次甲州市総合計画中間見直しに関する 市民アンケート調査結果報告書

令和5年2月

目次

1 調査の目的.....	1
2 調査の実施概要.....	1
3 調査結果	2
F 1 回答者の性別	2
F 2 回答者の年齢	2
F 3 回答者の居住地区.....	3
F 4 回答者の職業	4
F 5 回答者の勤務先・通学先	5
F 6 回答者の居住歴.....	6
F 7 回答者の世帯構成.....	6
問 1 あなたは、甲州市の暮らしやすさについて、全体的にみてどのように感じていますか。 (○は1つ)	7
問 2 あなたは、これからも甲州市に住み続けたいと思いますか。(○は1つ)	9
問 2 - 1 問 2 で「どちらかというに住みたくない」または「住みたくない」と回答した方に 伺います。甲州市に住みたくないと思う主な理由はなんですか。(○は1つ)	11
問 3 甲州市に定住したいと思う人を増やすために、どのような取り組みが必要だと思いま すか。(○はいくつでも)	14
問 4 まちづくりに関する(1)～(32)の項目について、①満足度と②重要度をお答えください。	17
問 4 - 1 問 4 の項目のうち、特に他の分野より優先した方がよい(重要度が高い)と思う項 目を、重要だと思うものから順番に3つ選んで、(1)～(32)の番号を記入してください。	30
問 5 あなたは、健康づくり施策について、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。 (○は2つまで)	32
問 6 あなたは、保健・医療対策について、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。 (○は2つまで)	34
問 7 あなたは、高齢者が安心して暮らせる社会を築くため、どのようなことに力を入れるべ きだと思いますか。(○は2つまで)	36
問 8 あなたは、障害のある方が地域でいきいきと暮らすために、どのようなことに力を入れ るべきだと思いますか。(○は2つまで)	39
問 9 少子化が急速に進行していますが、あなたは「少子化」問題をどのように捉えています か。(○は1つ)	42
問10 あなたは、保育や子育て支援、少子化対策の施策を充実していくために、どのようなこ とに力を入れるべきだと思いますか。(○は3つまで)	44
問11 あなたは、環境保全対策について、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。 (○は3つまで)	47

問12	あなたは、市の農林業を振興するために、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(○は3つまで)	50
問13	あなたは、市の商工業を振興するために、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(○は3つまで)	53
問14	あなたは、市の観光振興のために、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(○は3つまで)	56
問15	あなたのまわりの身近な生活環境を改善しようとする場合、どのような施設の整備が必要だと思いますか。(○は3つまで)	59
問16	あなたは、学校教育の充実のために、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(○は3つまで)	62
問17	あなたは、生涯学習活動や社会教育、社会人の学び直しを推進するために、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(○は3つまで)	65
問18	あなたは、生涯スポーツ活動をより活発にしていくために、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(○は2つまで)	67
問19	あなたは、災害に強いまちづくりのために、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(○は3つまで)	70
問20	市の発展には計画的な土地利用の推進が必要となりますが、今後、どのような用途の土地を優先的に整備していくことが必要だと思いますか。(○は2つまで)	73
問21	あなたは、甲州市及びその周辺では、どのような道路、交通手段が必要だと思いますか。(○は2つまで)	76
問22	あなたは、男女共同参画社会を形成するために、どのような取り組みが必要だと思いますか。(○は3つまで)	78
問23	あなたは、市内外との地域間交流について、今後どのような取り組みが必要だと思いますか。(○は2つまで)	81
問24	あなたは、市政にどの程度関心がありますか。(○は1つ)	83
問25	あなたは、市民の声がどの程度行政に反映されていると思いますか。(○は1つ)	85
問26	あなたは、市政に意見を言う機会や手段について十分だと思いますか。(○は1つ)	87
問27	あなたは、市政に関する情報をどのように入手していますか。(○は2つまで)	89
問28	あなたは、自分の本来の仕事とは別に、地域や社会のために時間や労力・技術などを無償で提供する地域活動やボランティア活動などに、現在参加していますか。また、今後参加したいと思いますか。(○は1つ)	91
問28-1	問28で「現在何らかの活動に参加しており、今後も続けたい」または「現在は活動に参加していないが、今後は参加したい」と回答した方に伺います。あなたは、今どのような活動に参加していますか、または参加したいと思いますか。(○は2つまで)	93
問29	あなたは、ICT（情報通信技術）の発展、DX（デジタル技術の浸透によるより良い生活への変革）の推進などにより進む社会の変化に対応するため、甲州市において今後どのような取り組みが必要だと思いますか。(○は2つまで)	96

問30	あなたは、SDGsについて知っていますか。(○は1つ)	99
問31	SDGsを推進していくためには、どのような取り組みが必要だと思いますか。(○は2つまで)	101
問32	あなたは、人口減少を背景に行財政が厳しさを増す中、甲州市において今後どのような行政運営における取り組みが必要だと思いますか。(○は2つまで)	103
問33	あなたは、今後のまちづくりについて、甲州市をどのような特色のあるまちにするべきだと思いますか。(○は3つまで)	105
問34	最後に、市の行政に望むことやまちづくりについてのご意見がありましたら、率直なお考えをお聞かせください。(自由記述)	108
資料編	(アンケート調査票)	122

1 調査の目的

本調査は、「第2次甲州市総合計画」の中間見直しに当たって、これまでのまちづくりに関する評価や、今後における市民ニーズを把握することを目的に実施した。

2 調査の実施概要

項目	内容
対象者	市民（満16歳以上の市内在住者）
調査数	1,000人（年齢、性別、地区を考慮の上、住民基本台帳から無作為抽出） ※上記に加え、本市のHP上でWEB調査を実施
調査方法	郵送による配付・回収およびWEB回答
調査時期	令和4年6月24日～7月7日
回答数	524人 うち郵送回答 492人（回答率49.2%） WEB回答 32人

（参考）

項目	今回調査（令和4年6月）	前回（計画策定時）調査（平成28年9月）
対象者	市民（満16歳以上の市内在住者）	市民（満18歳以上の市内在住者）
調査数	1,000人＋WEB調査	3,000人
調査方法	郵送による配付・回収およびWEB回答	郵送による配付・回収
回答数	524人 うち郵送回答 492人（回答率49.2%） WEB回答 32人	1,015人（回答率33.8%）

アンケート結果中の記号等について

（S A）・・・単一回答(Single Answer)の略。選択回答は1項目のみ。

（M A）・・・複数回答(Multi Answer)の略。回答する選択肢の数に制限がある場合がある。

n・・・回答者数(number)を表す。「n=100」は、回答者数が100人ということ。

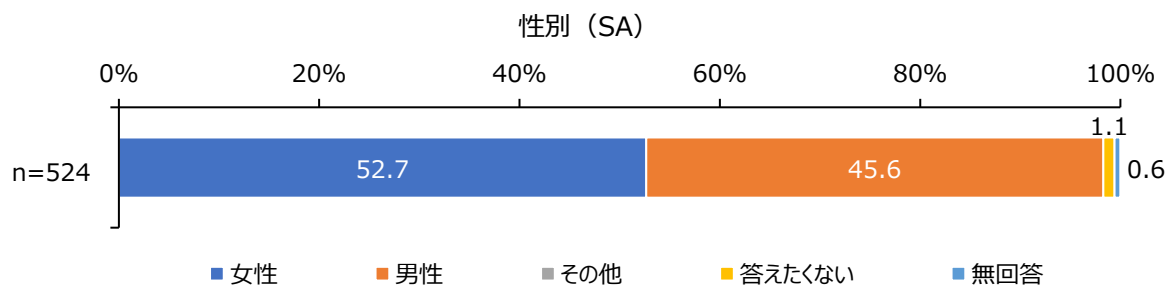
※アンケート結果の数値は小数点第2位を四捨五入しており、単一回答であっても合計が100%にならない場合がある。

※複数回答の場合は合計値が100%にならない場合がある。

3 調査結果

F1 回答者の性別

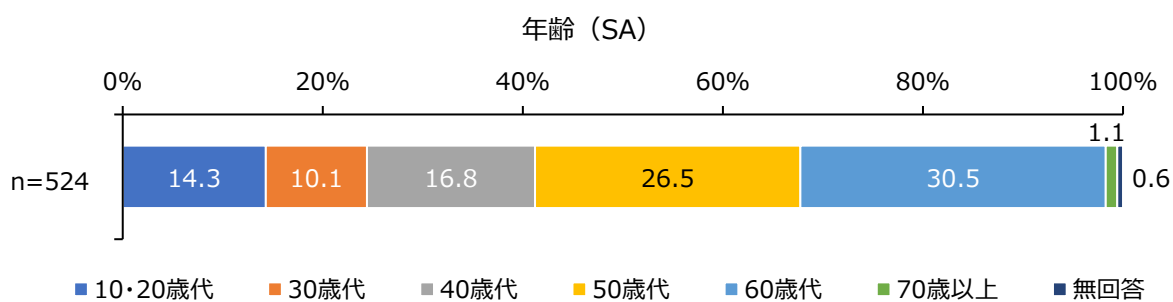
回答者の性別について、女性が52.7%、男性が45.6%となった。



	n	%
女性	276	52.7
男性	239	45.6
その他	0	0.0
答えたくない	6	1.1
無回答	3	0.6
	524	100.0

F2 回答者の年齢

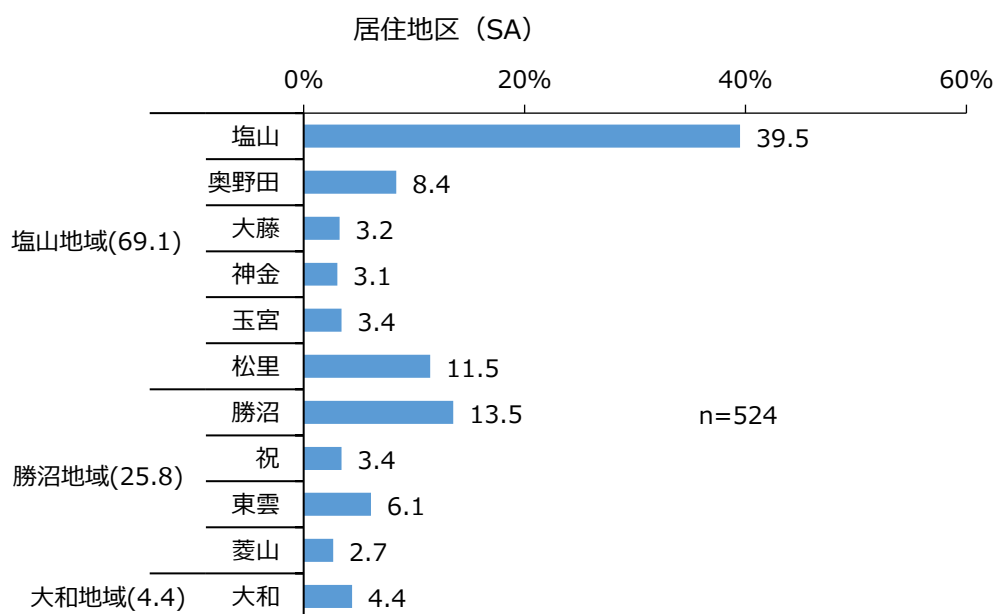
回答者の年齢について、10・20歳代が14.3%、30歳代が10.1%、40歳代が16.8%、50歳代が26.5%、60歳代が30.5%、70歳以上が1.1%となった。



	n	%
10・20 歳代	75	14.3
30 歳代	53	10.1
40 歳代	88	16.8
50 歳代	139	26.5
60 歳代	160	30.5
70 歳以上	6	1.1
無回答	3	0.6
	524	100.0

F3 回答者の居住地区

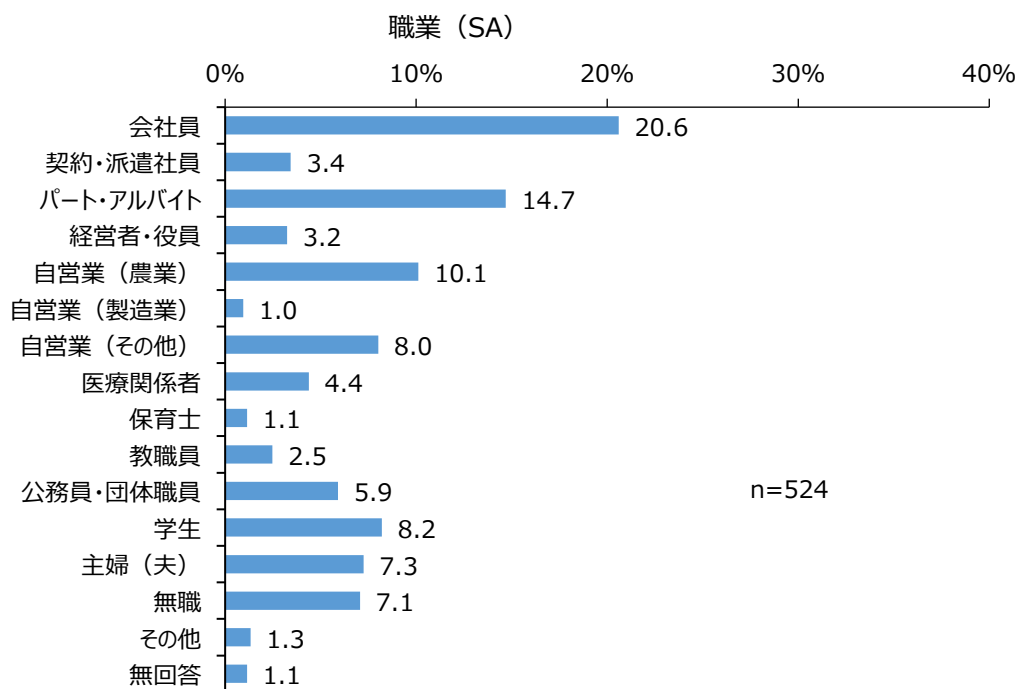
回答者の居住地区について、「塩山」が39.5%と最も高く、次いで「勝沼」が13.5%、「松里」が11.5%となった。



	n	%
塩山	207	39.5
奥野田	44	8.4
大藤	17	3.2
神金	16	3.1
玉宮	18	3.4
松里	60	11.5
勝沼	71	13.5
祝	18	3.4
東雲	32	6.1
菱山	14	2.7
大和	23	4.4
無回答	4	0.8
	524	100.0

F4 回答者の職業

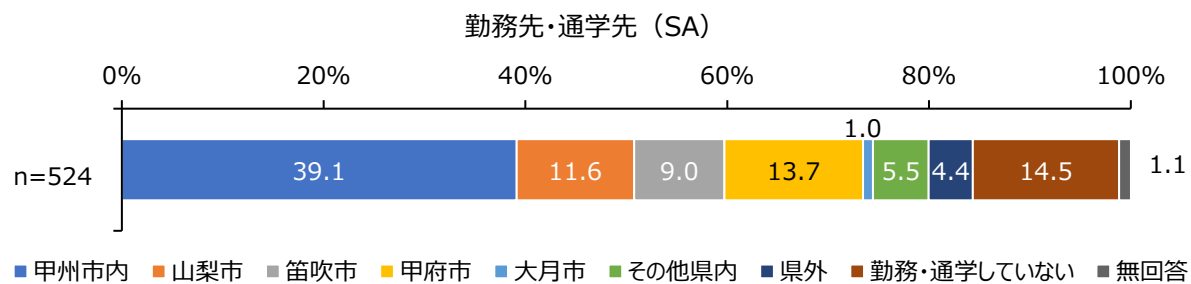
回答者の職業について、「会社員」が20.6%と最も高く、次いで「パート・アルバイト」が14.7%、「自営業（農業）」が10.1%となった。



	n	%
会社員	108	20.6
契約・派遣社員	18	3.4
パート・アルバイト	77	14.7
経営者・役員	17	3.2
自営業（農業）	53	10.1
自営業（製造業）	5	1.0
自営業（その他）	42	8.0
医療関係者	23	4.4
保育士	6	1.1
教職員	13	2.5
公務員・団体職員	31	5.9
学生	43	8.2
主婦（夫）	38	7.3
無職	37	7.1
その他	7	1.3
無回答	6	1.1
	524	100.0

F 5 回答者の勤務先・通学先

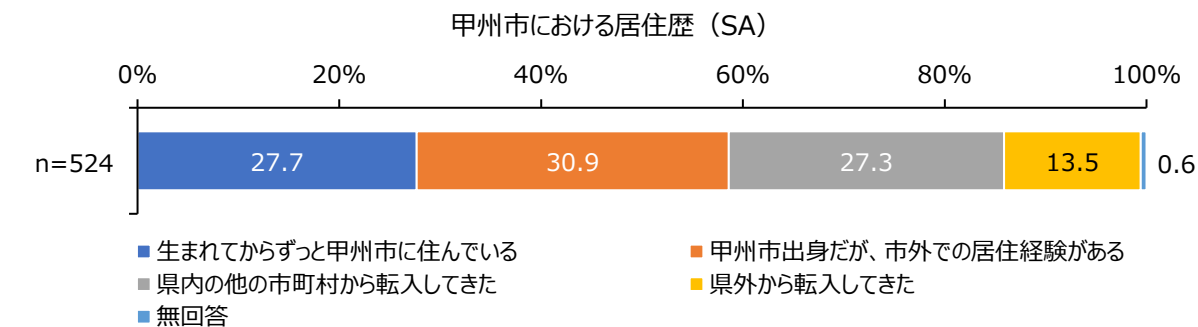
回答者の勤務先・通学先について、「甲州市内」が39.1%と最も高く、次いで「勤務・通学していない」が14.5%、「甲府市」が13.7%となった。



	n	%
甲州市内	205	39.1
山梨市	61	11.6
笛吹市	47	9.0
甲府市	72	13.7
大月市	5	1.0
その他県内	29	5.5
県外	23	4.4
勤務・通学していない	76	14.5
無回答	6	1.1
	524	100.0

F6 回答者の居住歴

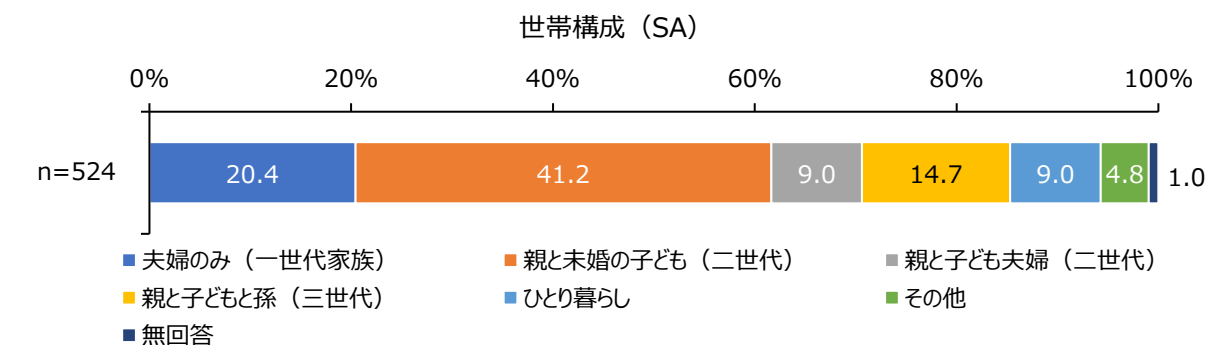
回答者の居住歴について、「甲州市出身だが、市外での居住経験がある」が30.9%と最も高く、次いで「生まれてからずっと甲州市に住んでいる」が27.7%、「県内の他の市町村から転入してきた」が27.3%となった。



	n	%
生まれてからずっと甲州市に住んでいる	145	27.7
甲州市出身だが、市外での居住経験がある	162	30.9
県内の他の市町村から転入してきた	143	27.3
県外から転入してきた	71	13.5
無回答	3	0.6
	524	100.0

F7 回答者の世帯構成

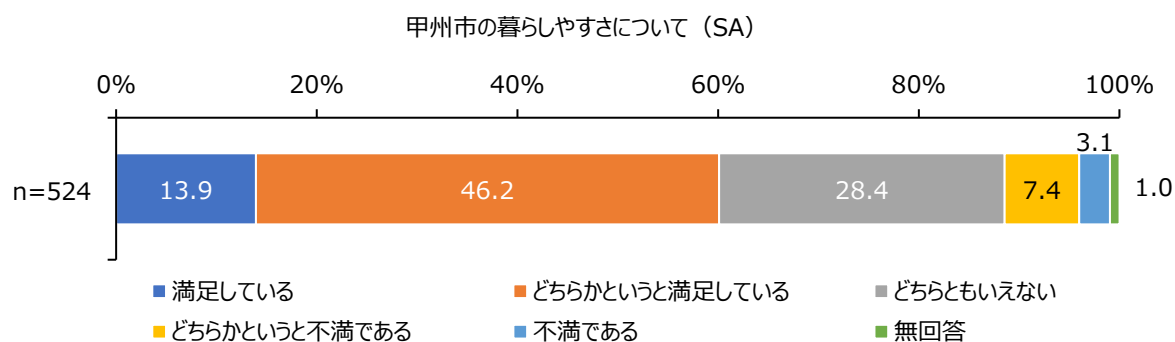
回答者の世帯構成について、「親と未婚の子ども（二世代）」が41.2%と最も高く、次いで「夫婦のみ（一世代家族）」が20.4%、「親と子どもと孫（三世代）」が14.7%となった。



	n	%
夫婦のみ（一世代家族）	107	20.4
親と未婚の子ども（二世代）	216	41.2
親と子ども夫婦（二世代）	47	9.0
親と子どもと孫（三世代）	77	14.7
ひとり暮らし	47	9.0
その他	25	4.8
無回答	5	1.0
	524	100.0

問1 あなたは、甲州市の暮らしやすさについて、全体的にみてどのように感じていますか。
(〇は1つ)

甲州市の暮らしやすさについて、「満足している」と「どちらかという満足している」を合わせた『満足』が60.1%となっている。「どちらかという不満である」と「不満である」を合わせた『不満』は10.5%であった。



	n	%
満足している	73	13.9
どちらかという満足している	242	46.2
どちらともいえない	149	28.4
どちらかという不満である	39	7.4
不満である	16	3.1
無回答	5	1.0
	524	100.0

前回調査からの変化

『満足』が2.2ポイント増え、『不満』が3.2ポイント減少となった。

(%)

	今回 (A) (n=524)	前回 (B) 平成 28 年 (n=1,015)	比較変化 (A-B)
満足している	13.9	13.4	0.5
どちらかという満足している	46.2	44.5	1.7
どちらともいえない	28.4	27.2	1.2
どちらかという不満である	7.4	10.8	-3.4
不満である	3.1	2.9	0.2
『満足』	60.1	57.9	2.2
『不満』	10.5	13.7	-3.2

属性別の傾向

性別では、『満足』について、女性が63.1%、男性が57.3%となっており、女性の方が『満足』が高くなっている。

年齢別では、30代の『満足』が71.7%と最も高くなっている。

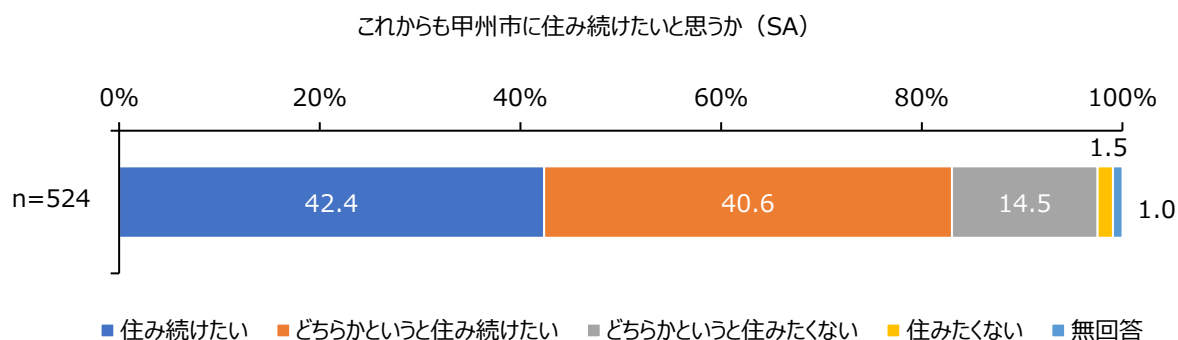
(%)

		『満足』			『不満』		
		満足 している	どちらかという 満足している	どちらとも いえない	どちらかという 不満である	不満 である	無回答
性別	女性(n=276)	12.0	51.1	26.1	7.2	2.5	1.1
	男性(n=239)	16.3	41.0	31.0	7.9	3.8	0.0
	その他(n=0)	-	-	-	-	-	-
	答えたくない(n=6)	16.7	33.3	50.0	0.0	0.0	0.0
年齢	10・20 歳代(n=75)	17.3	45.3	25.3	8.0	4.0	0.0
	30 歳代(n=53)	13.2	58.5	17.0	7.5	3.8	0.0
	40 歳代(n=88)	12.5	43.2	38.6	4.5	1.1	0.0
	50 歳代(n=139)	10.8	43.9	31.7	8.6	4.3	0.7
	60 歳代(n=160)	16.9	45.6	25.6	8.1	2.5	1.3
	70 歳以上(n=6)	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0
居住 地区	塩山地域(n=362)	13.3	49.4	26.5	7.7	2.8	0.3
	勝沼地域(n=135)	15.6	42.2	31.1	6.7	3.0	1.5
	大和地域(n=23)	17.4	21.7	43.5	8.7	8.7	0.0
居住 歴	市内居住のみ (n=145)	17.9	40.0	32.4	7.6	1.4	0.7
	市外居住経験 (n=162)	12.3	50.6	25.3	7.4	4.3	0.0
	県内から転入 (n=143)	13.3	48.3	28.7	6.3	2.8	0.7
	県外から転入 (n=71)	11.3	46.5	26.8	9.9	4.2	1.4

※市内居住のみ＝生まれてからずっと甲州市に住んでいる、市外居住経験＝甲州市出身だが、市外での居住経験がある

問2 あなたは、これからも甲州市に住み続けたいと思いますか。(〇は1つ)

これからも甲州市に住み続けたいかについては、「住み続けたい」と「どちらかというに住み続けたい」を合わせた『住み続けたい』が83.0%となっており、「どちらかというに住みたくない」と「住みたくない」を合わせた『住みたくない』は16.0%となった。



	n	%
住み続けたい	222	42.4
どちらかというに住み続けたい	213	40.6
どちらかというに住みたくない	76	14.5
住みたくない	8	1.5
無回答	5	1.0
	524	100.0

前回調査からの変化

『住み続けたい』が2.6ポイント減少し、『住みたくない』が2.4ポイント増加となった。

(%)

	今回 (A) (n=524)	前回 (B) 平成 28 年 (n=1,015)	比較変化 (A-B)
住み続けたい	42.4	44.8	-2.4
どちらかというに住み続けたい	40.6	40.8	-0.2
どちらかというに住みたくない	14.5	11.4	3.1
住みたくない	1.5	2.2	-0.7
『住み続けたい』	83.0	85.6	-2.6
『住みたくない』	16.0	13.6	2.4

属性別の傾向

年齢別でみると、30歳代以上は『住み続けたい』が8割以上となっているが、10・20歳代においては65.3%となっている。

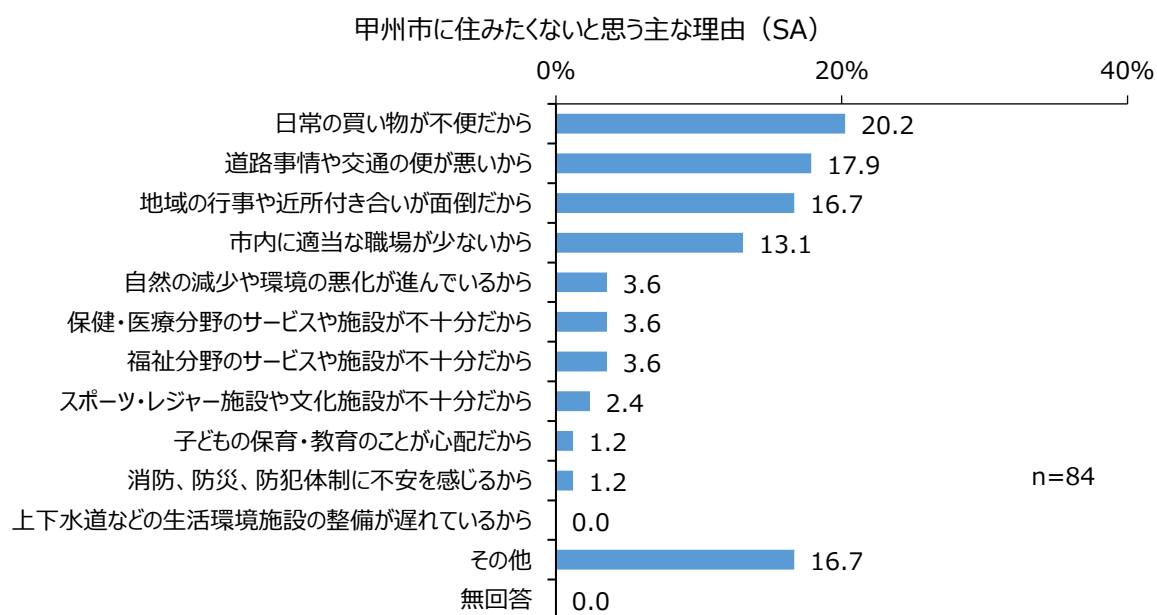
居住歴別では、県外から転入してきた人において、「住み続けたい」が唯一3割を下回っている。

(%)

		『住み続けたい』		『住みたくない』		無回答
		住み続けたい	どちらかという 住み続けたい	どちらかという 住みたくない	住みたくない	
性別	女性(n=276)	39.5	43.5	15.6	1.4	0.0
	男性(n=239)	47.3	37.2	13.0	1.3	1.3
	その他(n=0)	-	-	-	-	-
	答えたくない(n=6)	0.0	50.0	33.3	16.7	0.0
年齢	10・20 歳代(n=75)	25.3	40.0	30.7	4.0	0.0
	30 歳代(n=53)	49.1	39.6	9.4	1.9	0.0
	40 歳代(n=88)	40.9	47.7	10.2	1.1	0.0
	50 歳代(n=139)	38.1	42.4	16.5	1.4	1.4
	60 歳代(n=160)	52.5	36.3	10.0	0.6	0.6
	70 歳以上(n=6)	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
居住地区	塩山地域(n=362)	43.4	39.2	14.6	2.2	0.6
	勝沼地域(n=135)	43.0	43.0	13.3	0.0	0.7
	大和地域(n=23)	30.4	47.8	21.7	0.0	0.0
居住歴	市内居住のみ (n=145)	46.9	37.9	13.1	2.1	0.0
	市外居住経験 (n=162)	48.8	36.4	13.0	0.0	1.9
	県内から転入 (n=143)	38.5	45.5	14.0	2.1	0.0
	県外から転入(n=71)	28.2	46.5	22.5	2.8	0.0

問２－１ 問２で「どちらかというに住みたくない」または「住みたくない」と回答した方に伺います。甲州市に住みたくないと思う主な理由は何ですか。（○は１つ）

問２で『住みたくない』とした人に対し、その理由を尋ねたところ、「日常の買い物が不便だから」が20.2%と最も高く、次いで「道路事情や交通の便が悪いから」が17.9%、「地域の行事や近所付き合いが面倒だから」が16.7%となっている。



	n	%
日常の買い物が不便だから	17	20.2
道路事情や交通の便が悪いから	15	17.9
地域の行事や近所付き合いが面倒だから	14	16.7
市内に適当な職場が少ないから	11	13.1
自然の減少や環境の悪化が進んでいるから	3	3.6
保健・医療分野のサービスや施設が不十分だから	3	3.6
福祉分野のサービスや施設が不十分だから	3	3.6
スポーツ・レジャー施設や文化施設が不十分だから	2	2.4
子どもの保育・教育のことが心配だから	1	1.2
消防、防災、防犯体制に不安を感じるから	1	1.2
上下水道などの生活環境施設の整備が遅れているから	0	0.0
その他	14	16.7
無回答	0	0.0
	84	100.0

前回調査からの変化

上位の4項目について、順位は異なるものの項目は前回と同じとなった。なお、全体的にポイントが減少しているが、前回と選択可能数が異なる（前回：2つ→今回：1つ）ことによるものである。

(%)

	今回 (A) (n=84)	前回 (B) 平成 28 年 (n=138)	比較変化 (A-B)
日常の買い物が不便だから	20.2	26.8	-6.6
道路事情や交通の便が悪いから	17.9	39.1	-21.2
地域の行事や近所付き合いが面倒だから	16.7	27.5	-10.8
市内に適当な職場が少ないから	13.1	31.9	-18.8
自然の減少や環境の悪化が進んでいるから	3.6	4.3	-0.7
保健・医療分野のサービスや施設が不十分だから	3.6	13.8	-10.2
福祉分野のサービスや施設が不十分だから	3.6	7.2	-3.6
スポーツ・レジャー施設や文化施設が不十分だから	2.4	10.9	-8.5
子どもの保育・教育のことが心配だから	1.2	10.9	-9.7
消防、防災、防犯体制に不安を感じるから	1.2	0.7	0.5
上下水道などの生活環境施設の整備が遅れているから	0.0	9.4	-9.4

属性別の傾向

性別でみると、女性は「道路事情や交通の便が悪いから」が最も高くなっているが、男性では「市内に適当な職場が少ないから」が最も高くなっている。

年齢別でみると、問2において『住みたくない』の割合が最も高かった10・20歳代では、「道路事情や交通の便が悪いから」が最も高く、次いで「市内に適当な職場が少ないから」となっている。

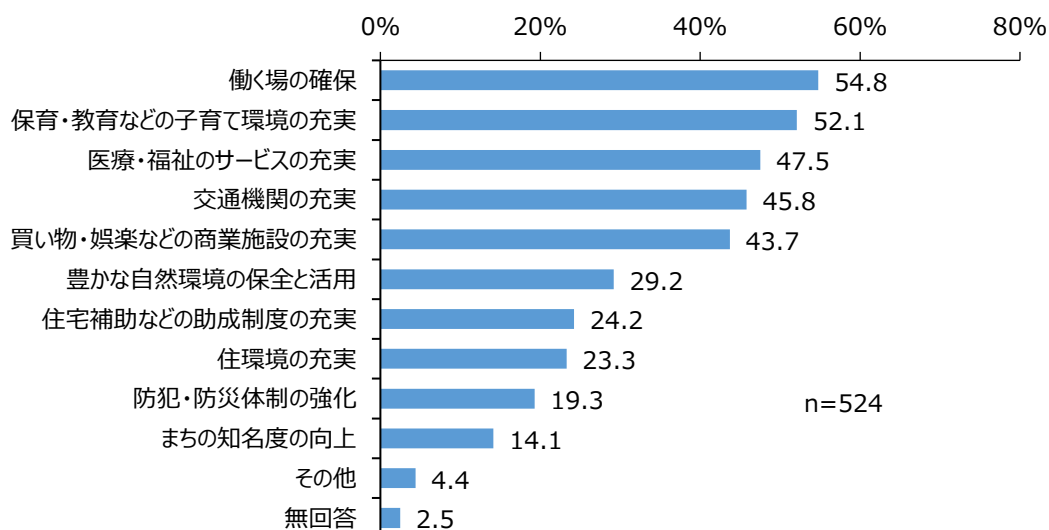
(%)

		自然の減少や環境の悪化が進んでいるから	日常の買い物不便だから	道路事情や交通の便が悪いから	地域の行事や近所付き合いが面倒だから	子どもの保育・教育のことが心配だから	市内に適当な職場が少ないから	保健・医療分野のサービスや施設が不十分だから	福祉分野のサービスや施設が不十分だから	スポーツ・レジャー施設や文化施設が不十分だから	上下水道などの生活環境施設の整備が遅れているから	消防、防災、防犯体制に不安を感じるから	その他	無回答
性別	女性(n=47)	2.1	21.3	27.7	17.0	0.0	8.5	4.3	0.0	4.3	0.0	2.1	12.8	0.0
	男性(n=34)	5.9	17.6	5.9	11.8	2.9	20.6	2.9	8.8	0.0	0.0	0.0	23.5	0.0
	その他(n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	答えたくない(n=3)	0.0	33.3	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
年齢	10・20 歳代(n=26)	0.0	7.7	30.8	11.5	0.0	26.9	0.0	0.0	3.8	0.0	0.0	19.2	0.0
	30 歳代(n=6)	0.0	16.7	0.0	33.3	0.0	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0
	40 歳代(n=10)	0.0	20.0	20.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0
	50 歳代(n=25)	4.0	24.0	12.0	28.0	0.0	4.0	4.0	4.0	4.0	0.0	0.0	16.0	0.0
	60 歳代(n=17)	11.8	35.3	11.8	5.9	0.0	5.9	0.0	5.9	0.0	0.0	5.9	17.6	0.0
	70 歳以上(n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
居住地区	塩山地域(n=61)	3.3	21.3	19.7	14.8	1.6	8.2	3.3	4.9	3.3	0.0	1.6	18.0	0.0
	勝沼地域(n=18)	5.6	16.7	11.1	22.2	0.0	27.8	5.6	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0
	大和地域(n=5)	0.0	20.0	20.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0
居住歴	市内居住のみ(n=22)	0.0	18.2	36.4	22.7	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.6	0.0
	市外居住経験(n=21)	9.5	9.5	19.0	0.0	4.8	23.8	4.8	9.5	4.8	0.0	0.0	14.3	0.0
	県内から転入(n=23)	0.0	21.7	4.3	26.1	0.0	13.0	8.7	4.3	4.3	0.0	0.0	17.4	0.0
	県外から転入(n=18)	5.6	33.3	11.1	16.7	0.0	5.6	0.0	0.0	0.0	0.0	5.6	22.2	0.0

問3 甲州市に定住したいと思う人を増やすために、どのような取り組みが必要だと思いますか。
(〇はいくつでも)

甲州市に定住したいと思う人を増やすために必要な取り組みは、「働く場の確保」が54.8%と最も高く、次いで「保育・教育などの子育て環境の充実」が52.1%、「医療・福祉のサービスの充実」が47.5%となっている。

甲州市に定住したいと思う人を増やすために、どのような取り組みが必要だと思うか (MA)



	n	%
働く場の確保	287	54.8
保育・教育などの子育て環境の充実	273	52.1
医療・福祉のサービスの充実	249	47.5
交通機関の充実	240	45.8
買い物・娯楽などの商業施設の充実	229	43.7
豊かな自然環境の保全と活用	153	29.2
住宅補助などの助成制度の充実	127	24.2
住環境の充実	122	23.3
防犯・防災体制の強化	101	19.3
まちの知名度の向上	74	14.1
その他	23	4.4
無回答	13	2.5
	524	100.0

前回調査からの変化

上位6項目については、順位が異なるものの項目は同じとなっている。また、多くの項目は前回からポイントが減少しているものの、「買い物・娯楽などの商業施設の充実」、「住宅補助などの助成制度の充実」、「住環境の充実」、「まちの知名度の向上」についてはポイントが増加した。

(%)

	今回 (A) (n=524)	前回 (B) 平成 28 年 (n=1,015)	比較変化 (A-B)
働く場の確保	54.8	64.7	-9.9
保育・教育などの子育て環境の充実	52.1	52.6	-0.5
医療・福祉のサービスの充実	47.5	55.1	-7.6
交通機関の充実	45.8	47.3	-1.5
買い物・娯楽などの商業施設の充実	43.7	36.6	7.1
豊かな自然環境の保全と活用	29.2	30.7	-1.5
住宅補助などの助成制度の充実	24.2	20.1	4.1
住環境の充実	23.3	21.2	2.1
防犯・防災体制の強化	19.3	20.8	-1.5
まちの知名度の向上	14.1	12.7	1.4

属性別の傾向

年齢別では、10・20歳代において「買い物・娯楽などの商業施設の充実」が最も高くなっている。また、30歳代と70歳以上では「保育・教育などの子育て環境の充実」、40歳代と50歳代では「働く場の確保」、60歳代では「医療・福祉のサービスの充実」が最も高くなっている。

(%)

		豊かな自然環境の保全と活用	交通機関の充実	防犯・防災体制の強化	医療・福祉のサービスの充実	保育・教育などの子育て環境の充実	働く場の確保	住環境の充実	住宅補助などの助成制度の充実	まちの知名度の向上	買い物・娯楽などの商業施設の充実	その他	無回答
性別	女性(n=276)	26.8	48.9	21.0	48.2	54.7	54.3	22.8	25.0	14.5	47.8	3.6	2.5
	男性(n=239)	31.8	42.3	17.2	47.3	50.2	57.3	24.3	24.3	13.8	39.7	5.0	1.7
	その他(n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	答えたくない(n=6)	33.3	66.7	16.7	50.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	16.7	0.0
年齢	10・20 歳代(n=75)	24.0	42.7	10.7	20.0	42.7	42.7	29.3	24.0	9.3	54.7	4.0	1.3
	30 歳代(n=53)	28.3	28.3	26.4	37.7	67.9	52.8	26.4	34.0	15.1	52.8	5.7	3.8
	40 歳代(n=88)	23.9	52.3	15.9	45.5	53.4	59.1	18.2	27.3	17.0	48.9	4.5	1.1
	50 歳代(n=139)	26.6	48.9	20.1	49.6	48.9	52.5	22.3	28.1	14.4	48.2	5.8	2.9
	60 歳代(n=160)	36.3	48.1	23.1	63.8	53.1	60.0	23.1	16.9	15.0	30.0	3.1	1.9
	70 歳以上(n=6)	50.0	33.3	0.0	50.0	83.3	83.3	33.3	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0
居住地区	塩山地域(n=362)	32.0	49.7	20.2	51.9	53.0	58.6	22.4	26.2	18.0	43.4	4.4	1.4
	勝沼地域(n=135)	23.7	37.8	17.8	39.3	48.1	45.9	25.2	20.7	5.2	45.9	4.4	3.0
	大和地域(n=23)	13.0	34.8	13.0	34.8	60.9	52.2	26.1	13.0	4.3	43.5	4.3	8.7
居住歴	市内居住のみ(n=145)	28.3	44.8	20.0	49.7	52.4	50.3	22.1	29.7	15.2	45.5	3.4	2.1
	市外居住経験(n=162)	32.7	42.6	19.1	51.9	54.3	59.3	26.5	17.9	11.7	43.2	3.1	2.5
	県内から転入(n=143)	25.9	46.9	21.7	45.5	49.7	49.7	23.1	26.6	14.7	42.7	4.9	2.1
	県外から転入(n=71)	29.6	53.5	14.1	39.4	52.1	64.8	19.7	22.5	16.9	45.1	8.5	1.4

問4 まちづくりに関する(1)～(32)の項目について、①満足度と②重要度をお答えください。

まちづくりに関する以下の6分野、全32項目について、①満足度（5段階）、②重要度（3段階）を把握するとともに、ポートフォリオ分析^(注)を用い、満足度、重要度の加重平均値により算出した評価点を2次元グラフに配置し、各項目の平均値を中心とした4つの象限の分布から、各分野における優先的改善施策を明らかにした。

分野	項目	分野	項目
活力あるまちづくり	(1)果樹・農林業の振興	環境保全のまちづくり	(22)環境保全の推進
	(2)ワイン産業の振興		(23)ごみ処理やりサイクル対策の推進
	(3)観光交流の振興		(24)簡易水道、上水道の整備
	(4)商工業の振興		(25)下水道などの生活排水処理施設の整備
	(5)雇用・勤労者福祉施策	教育文化のまちづくり	(26)義務教育の充実
健康福祉のまちづくり	(6)保育や子育てへの支援		(27)生涯学習・生涯スポーツの推進
	(7)健康診断の実施や健康づくりへの支援		(28)地域文化・歴史資源の保護や活用
	(8)地域医療施設の充実や救急体制	参画と協働のまちづくり	(29)協働のまちづくりの推進
	(9)地域福祉・高齢者福祉に対する施策		(30)地域活動の推進
	(10)介護や介護予防に対する施策		(31)男女共同参画の推進・人権の尊重
	(11)障害者の自立を支援する施策		(32)効率的な自治体経営の推進
	(12)国民健康保険などの社会保障の施策		
快適で安心なまちづくり	(13)土地利用や市街地・公園の整備		
	(14)美しい景観形成の促進		
	(15)道路・公共交通網の整備		
	(16)公営住宅や良好な宅地の確保		
	(17)行政サービスの電子化		
	(18)河川や急傾斜地など危険箇所の整備		
	(19)消防・防災体制の充実		
	(20)交通安全・防犯への取り組み		
	(21)消費者トラブル対策の充実		

[満足度、重要度の加重平均値による評価点の算出方法]

満足度（5段階評価）	重要度（3段階評価）	点数
満足している		2点
どちらかという満足している	重要である（他の分野より優先する）	1点
どちらともいえない	どちらともいえない	0点
どちらかという不満である	重要でない（縮小してもよい）	-1点
不満である		-2点
※加重平均値の算出方法 各段階の評価にそれぞれ点数を与え、評価点（満足度・重要度）を算出する。 $\text{評価点} = \left(\frac{\text{上記各段階の回答者数} \times \text{与えられた各点数}}{\text{全段階の和}} \right) \div \text{各項目の回答者数}$		

(注) ポートフォリオ分析：顧客満足度調査等で用いられる分析手法のひとつ。製品・サービスにおける項目別満足度などを軸にして2次元グラフで表現することで、重点的改善項目を抽出する。

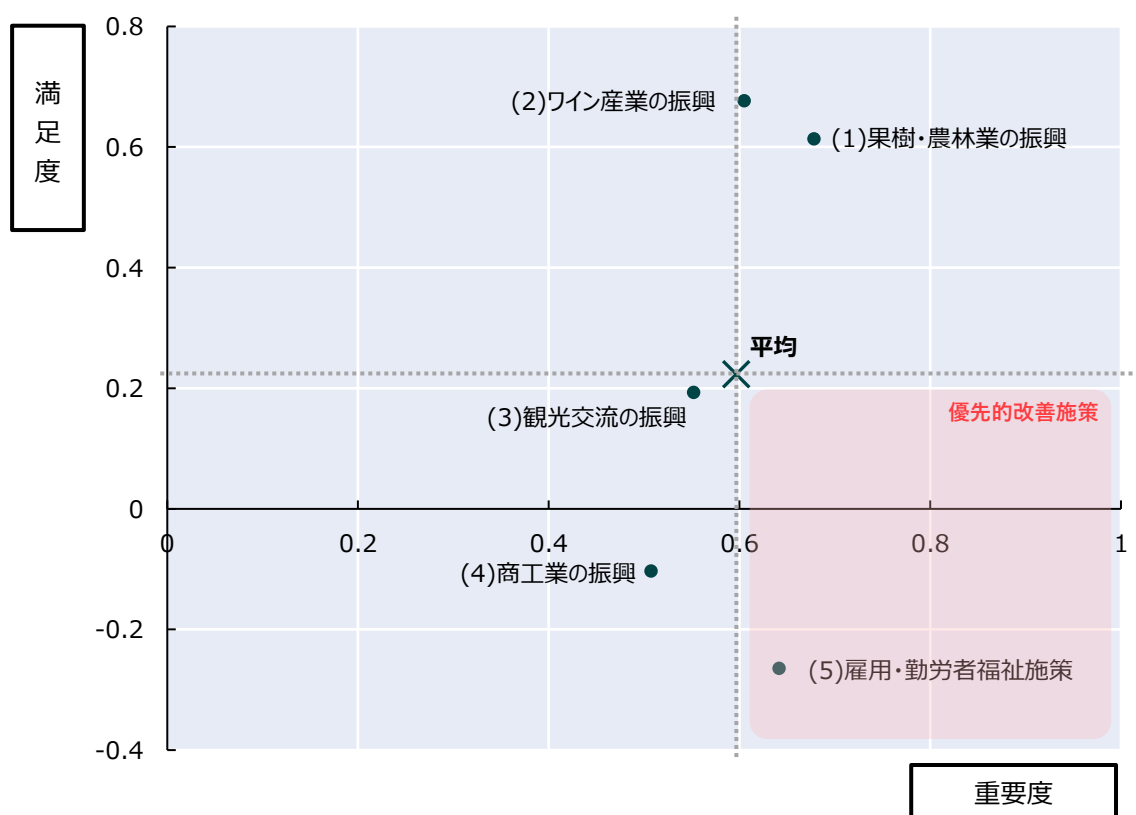
(ア) 活力あるまちづくり

産業関連の項目を主とする『活力あるまちづくり』の分野において、満足度評価は「ワイン産業の振興」(0.68点)が最も高く、次いで「果樹・農林業の振興」(0.61点)となっている。一方で、「雇用・勤労者福祉施策」(-0.26点)の満足度が最も低くなった。

重要度評価では、「果樹・農林業の振興」(0.68点)が最も高く、次いで「雇用・勤労者福祉施策」(0.64点)と続いている。

満足度が低く、重要度が高い優先的改善施策は「雇用・勤労者福祉施策」となった。

『活力あるまちづくり』の評価



(単位：点)

	満足度	重要度
(1)果樹・農林業の振興	0.61	0.68
(2)ワイン産業の振興	0.68	0.60
(3)観光交流の振興	0.19	0.55
(4)商工業の振興	-0.10	0.51
(5)雇用・勤労者福祉施策	-0.26	0.64
平均	0.22	0.60

前回調査からの変化

平均では、満足度が0.09点上昇し、重要度は0.01点下がっている。

個別の項目の満足度では、「果樹・農林業の振興」が0.14点、「商工業の振興」が0.17点、「雇用・勤労者福祉施策」が0.18点上昇した。

(単位：点)

	満足度			重要度		
	今回 (A)	前回 (B) 平成 28 年	比較変化 (A-B)	今回 (C)	前回 (D) 平成 28 年	比較変化 (C-D)
(1)果樹・農林業の振興	0.61	0.47	0.14	0.68	0.69	-0.01
(2)ワイン産業の振興	0.68	0.70	-0.02	0.60	0.62	-0.02
(3)観光交流の振興	0.19	0.20	-0.01	0.55	0.55	0.00
(4)商工業の振興	-0.10	-0.27	0.17	0.51	0.48	0.03
(5)雇用・勤労者福祉施策	-0.26	-0.44	0.18	0.64	0.69	-0.05
平均	0.22	0.13	0.09	0.60	0.61	-0.01

居住地区別の傾向

満足度はいずれの地域も「ワイン産業の振興」が最も高くなっており、「雇用・勤労者福祉施策」が最も低くなっている。

重要度は、塩山地域では「果樹・農林業の振興」と「雇用・勤労者福祉施策」が最も高く、勝沼地域と大和地域では、「果樹・農林業の振興」が最も高い。

(単位：点)

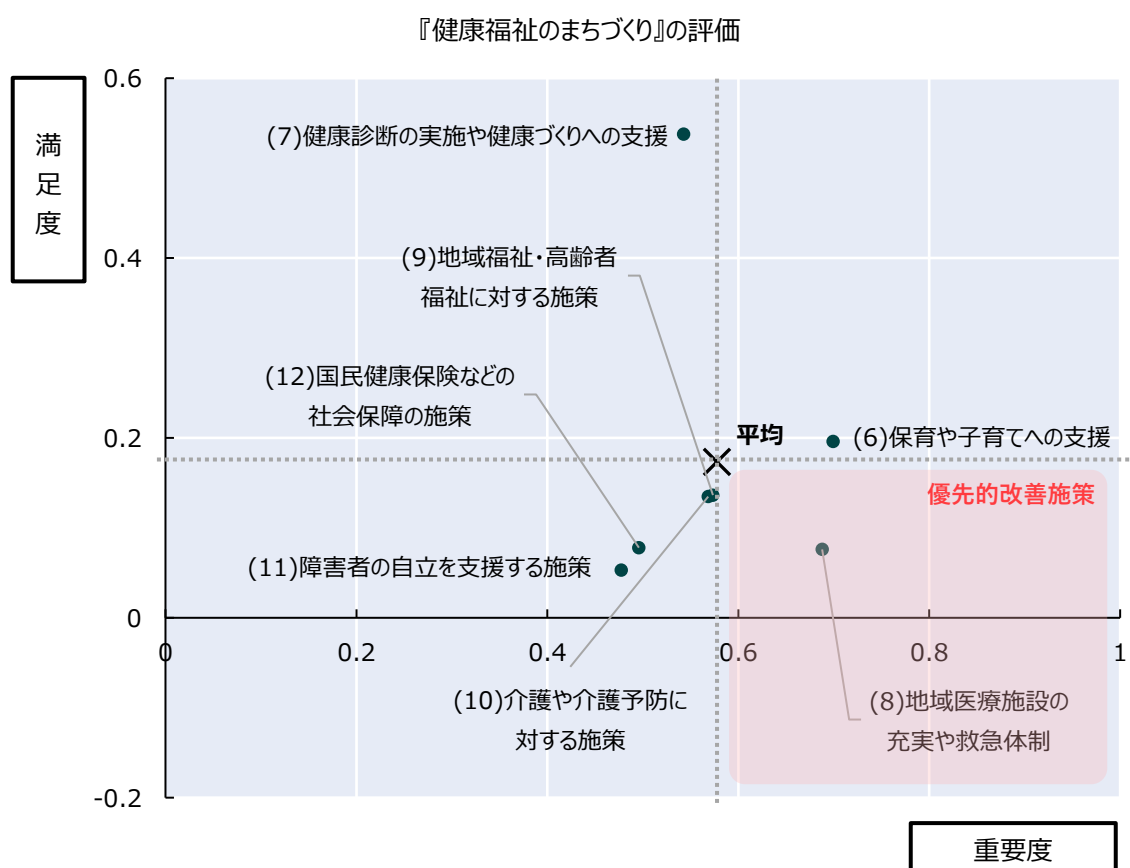
	満足度			重要度		
	塩山地域	勝沼地域	大和地域	塩山地域	勝沼地域	大和地域
(1)果樹・農林業の振興	0.60	0.62	0.65	0.66	0.75	0.50
(2)ワイン産業の振興	0.66	0.71	0.68	0.61	0.61	0.45
(3)観光交流の振興	0.10	0.42	0.39	0.54	0.59	0.43
(4)商工業の振興	-0.16	0.01	0.17	0.54	0.46	0.23
(5)雇用・勤労者福祉施策	-0.29	-0.20	-0.18	0.66	0.63	0.48
平均	0.18	0.31	0.34	0.60	0.61	0.42

(イ) 健康福祉のまちづくり

保健・医療に関する分野である『健康福祉のまちづくり』の満足度評価では、「健康診断の実施や健康づくりへの支援」(0.54点)が最も高く、次いで「保育や子育てへの支援」(0.20点)となっている。

重要度評価では、「保育や子育てへの支援」(0.70点)が最も高く、次いで「地域医療施設の充実や救急体制」(0.69点)となっている。

この分野での優先的改善施策は「地域医療施設の充実や救急体制」となった。



(単位：点)

	満足度	重要度
(6)保育や子育てへの支援	0.20	0.70
(7)健康診断の実施や健康づくりへの支援	0.54	0.54
(8)地域医療施設の充実や救急体制	0.08	0.69
(9)地域福祉・高齢者福祉に対する施策	0.14	0.57
(10)介護や介護予防に対する施策	0.13	0.57
(11)障害者の自立を支援する施策	0.05	0.48
(12)国民健康保険などの社会保障の施策	0.08	0.50
平均	0.17	0.58

前回調査からの変化

平均では、満足度が0.01点上昇し、重要度は変化がなかった。
個別の項目の満足度や重要度についても、大きな変化はなかった。

(単位：点)

	満足度			重要度		
	今回 (A)	前回 (B) 平成 28 年	比較変化 (A-B)	今回 (C)	前回 (D) 平成 28 年	比較変化 (C-D)
(6)保育や子育てへの支援	0.20	0.18	0.02	0.70	0.69	0.01
(7)健康診断の実施や健康づくりへの支援	0.54	0.61	-0.07	0.54	0.56	-0.02
(8)地域医療施設の充実や救急体制	0.08	0.05	0.03	0.69	0.69	0.00
(9)地域福祉・高齢者福祉に対する施策	0.14	0.12	0.02	0.57	0.55	0.02
(10)介護や介護予防に対する施策	0.13	0.10	0.03	0.57	0.59	-0.02
(11)障害者の自立を支援する施策	0.05	0.01	0.04	0.48	0.43	0.05
(12)国民健康保険などの社会保障の施策	0.08	0.03	0.05	0.50	0.52	-0.02
平均	0.17	0.16	0.01	0.58	0.58	0.00

居住地区別の傾向

満足度はいずれの地域も「健康診断の実施や健康づくりへの支援」が最も高くなっている。

重要度は、塩山地域では「保育や子育てへの支援」と「地域医療施設の充実や救急体制」が最も高く、勝沼地域では「保育や子育てへの支援」、大和地域では、「地域医療施設の充実や救急体制」が最も高くなった。

(単位：点)

	満足度			重要度		
	塩山地域	勝沼地域	大和地域	塩山地域	勝沼地域	大和地域
(6)保育や子育てへの支援	0.23	0.14	0.00	0.71	0.69	0.59
(7)健康診断の実施や健康づくりへの支援	0.55	0.52	0.39	0.55	0.54	0.39
(8)地域医療施設の充実や救急体制	0.07	0.09	0.04	0.71	0.65	0.64
(9)地域福祉・高齢者福祉に対する施策	0.11	0.17	0.09	0.61	0.51	0.35
(10)介護や介護予防に対する施策	0.13	0.14	0.09	0.60	0.52	0.39
(11)障害者の自立を支援する施策	0.05	0.02	0.22	0.52	0.40	0.30
(12)国民健康保険などの社会保障の施策	0.03	0.19	0.13	0.52	0.47	0.22
平均	0.17	0.18	0.14	0.60	0.54	0.41

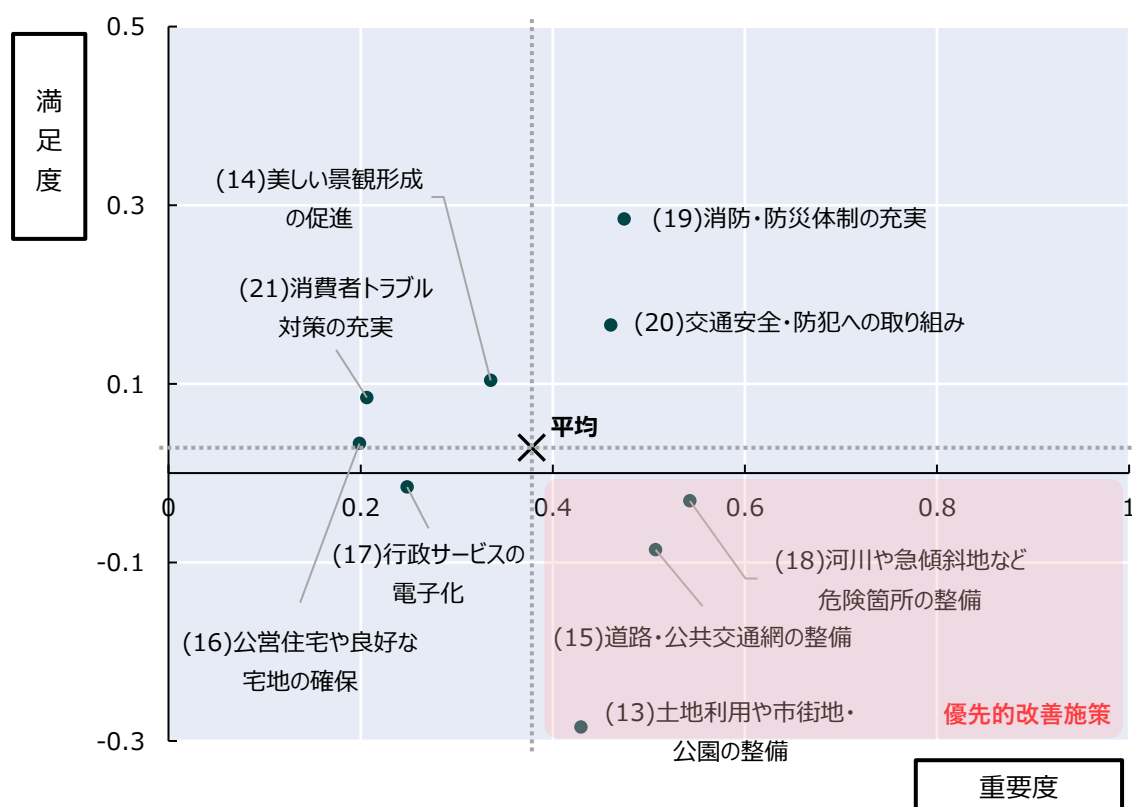
(ウ) 快適で安心なまちづくり

生活基盤や安全・防災分野である『快適で安心なまちづくり』の満足度評価では、「消防・防災体制の充実」(0.28点)が最も高く、「交通安全・防犯への取り組み」(0.17点)と続いている。

重要度評価では「河川や急傾斜地など危険箇所の整備」(0.54点)が最も高く、次いで「道路・公共交通網の整備」(0.51点)となっている。

この分野での優先的改善施策は、「河川や急傾斜地など危険箇所の整備」、「道路・公共交通網の整備」、「土地利用や市街地・公園の整備」となった。

『快適で安心なまちづくり』の評価



(単位：点)

	満足度	重要度
(13)土地利用や市街地・公園の整備	-0.28	0.43
(14)美しい景観形成の促進	0.10	0.34
(15)道路・公共交通網の整備	-0.09	0.51
(16)公営住宅や良好な宅地の確保	0.03	0.20
(17)行政サービスの電子化	-0.02	0.25
(18)河川や急傾斜地など危険箇所の整備	-0.03	0.54
(19)消防・防災体制の充実	0.28	0.47
(20)交通安全・防犯への取り組み	0.17	0.46
(21)消費者トラブル対策の充実	0.08	0.21
平均	0.03	0.38

前回調査からの変化

平均では、満足度が0.02点上昇、重要度は0.01点上昇した。

個別の項目の満足度では、「河川や急傾斜地など危険箇所の整備」が0.14点上昇し、重要度では、「土地利用や市街地・公園の整備」が0.16点上昇した

(単位：点)

	満足度			重要度		
	今回 (A)	前回 (B) 平成 28 年	比較変化 (A-B)	今回 (C)	前回 (D) 平成 28 年	比較変化 (C-D)
(13)土地利用や市街地・公園の整備	-0.28	-0.23	-0.05	0.43	0.27	0.16
(14)美しい景観形成の促進	0.10	0.16	-0.06	0.34	0.28	0.06
(15)道路・公共交通網の整備	-0.09	-	-	0.51	-	-
(16)公営住宅や良好な宅地の確保	0.03	-0.01	0.04	0.20	0.14	0.06
(17)行政サービスの電子化	-0.02	-	-	0.25	-	-
(18)河川や急傾斜地など危険箇所の整備	-0.03	-0.17	0.14	0.54	0.58	-0.04
(19)消防・防災体制の充実	0.28	0.30	-0.02	0.47	0.54	-0.07
(20)交通安全・防犯への取り組み	0.17	-	-	0.46	-	-
(21)消費者トラブル対策の充実	0.08	0.03	0.05	0.21	0.27	-0.06
平均	0.03	0.01	0.02	0.36	0.35	0.01

※ (15)、(17)、(20) は前回と異なる項目のため、比較不可。また、当該項目は比較用の平均値の計算から除いている。

居住地区別の傾向

満足度は、塩山地域と勝沼地域では「消防・防災体制の充実」が最も高く、大和地域では「美しい景観形成の促進」が最も高くなった。

重要度はいずれの地域でも「河川や急傾斜地など危険箇所の整備」が最も高くなった。

(単位：点)

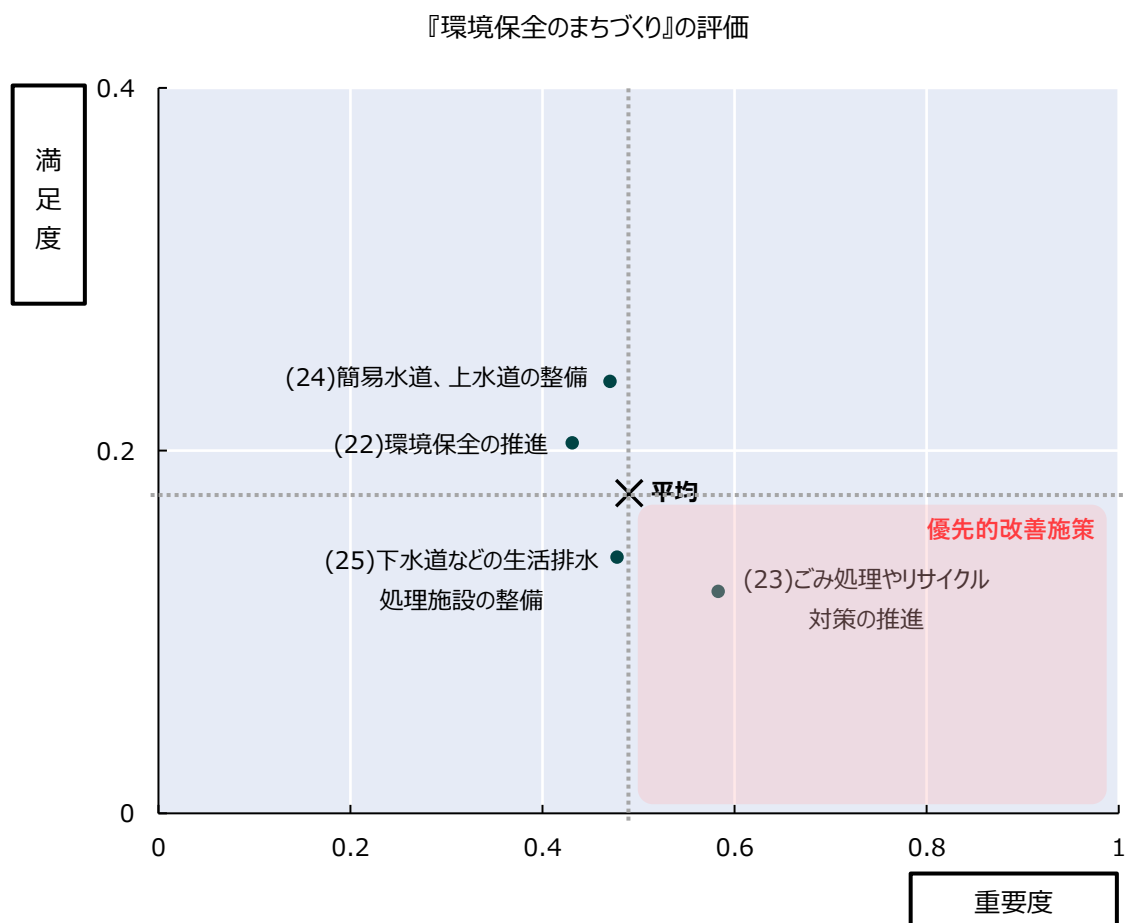
	満足度			重要度		
	塩山地域	勝沼地域	大和地域	塩山地域	勝沼地域	大和地域
(13)土地利用や市街地・公園の整備	-0.33	-0.16	-0.22	0.45	0.39	0.32
(14)美しい景観形成の促進	0.01	0.34	0.26	0.31	0.40	0.35
(15)道路・公共交通網の整備	-0.09	-0.06	-0.13	0.51	0.48	0.48
(16)公営住宅や良好な宅地の確保	0.01	0.08	0.09	0.21	0.13	0.35
(17)行政サービスの電子化	-0.03	-0.01	0.13	0.25	0.22	0.30
(18)河川や急傾斜地など危険箇所の整備	-0.04	-0.01	-0.05	0.55	0.54	0.50
(19)消防・防災体制の充実	0.27	0.35	0.09	0.50	0.43	0.35
(20)交通安全・防犯への取り組み	0.14	0.22	0.18	0.49	0.42	0.17
(21)消費者トラブル対策の充実	0.05	0.14	0.18	0.20	-0.05	0.28
平均	0.00	0.10	0.06	0.39	0.33	0.34

(エ) 環境保全のまちづくり

生活環境や自然環境に関する分野である『環境保全のまちづくり』の満足度評価では、「簡易水道、上水道の整備」(0.24点)が最も高く、次いで「環境保全の推進」(0.20点)となっている。

重要度評価では、「ごみ処理やりサイクル対策の推進」(0.58点)が最も高く、次いで「下水道などの生活排水処理施設の整備」(0.48点)と続いている。

この分野での優先的改善施策は、「ごみ処理やりサイクル対策の推進」となった。



(単位：点)

	満足度	重要度
(22)環境保全の推進	0.20	0.43
(23)ごみ処理やりサイクル対策の推進	0.12	0.58
(24)簡易水道、上水道の整備	0.24	0.47
(25)下水道などの生活排水処理施設の整備	0.14	0.48
平均	0.18	0.49

前回調査からの変化

平均では、満足度が0.06点下がり、重要度は0.02点上昇した。

個別の項目の満足度では、「簡易水道、上水道の整備」が0.13点低下した。

(単位：点)

	満足度			重要度		
	今回 (A)	前回 (B) 平成 28 年	比較変化 (A-B)	今回 (C)	前回 (D) 平成 28 年	比較変化 (C-D)
(22)環境保全の推進	0.20	-	-	0.43	-	-
(23)ごみ処理やリサイクル対策の推進	0.12	-	-	0.58	-	-
(24)簡易水道、上水道の整備	0.24	0.37	-0.13	0.47	0.45	0.02
(25)下水道などの生活排水処理施設の整備	0.14	0.12	0.02	0.48	0.45	0.03
平均	0.19	0.25	-0.06	0.47	0.45	0.02

※ (22)、(23) は前回と異なる項目のため、比較不可。また、当該項目は比較用の平均値の計算から除いている。

居住地区別の傾向

満足度は、塩山地域では「簡易水道、上水道の整備」が最も高く、勝沼地域では「環境保全の推進」、大和地域では「下水道などの生活排水処理施設の整備」が最も高くなった。

重要度は、塩山地域で「ごみ処理やリサイクル対策の推進」が最も高く、勝沼地域と大和地域では「簡易水道、上水道の整備」が最も高くなった。

(単位：点)

	満足度			重要度		
	塩山地域	勝沼地域	大和地域	塩山地域	勝沼地域	大和地域
(22)環境保全の推進	0.16	0.27	0.43	0.45	0.41	0.19
(23)ごみ処理やリサイクル対策の推進	0.06	0.23	0.39	0.65	0.48	0.13
(24)簡易水道、上水道の整備	0.23	0.22	0.35	0.47	0.50	0.23
(25)下水道などの生活排水処理施設の整備	0.09	0.18	0.52	0.49	0.48	0.18
平均	0.13	0.23	0.42	0.52	0.47	0.18

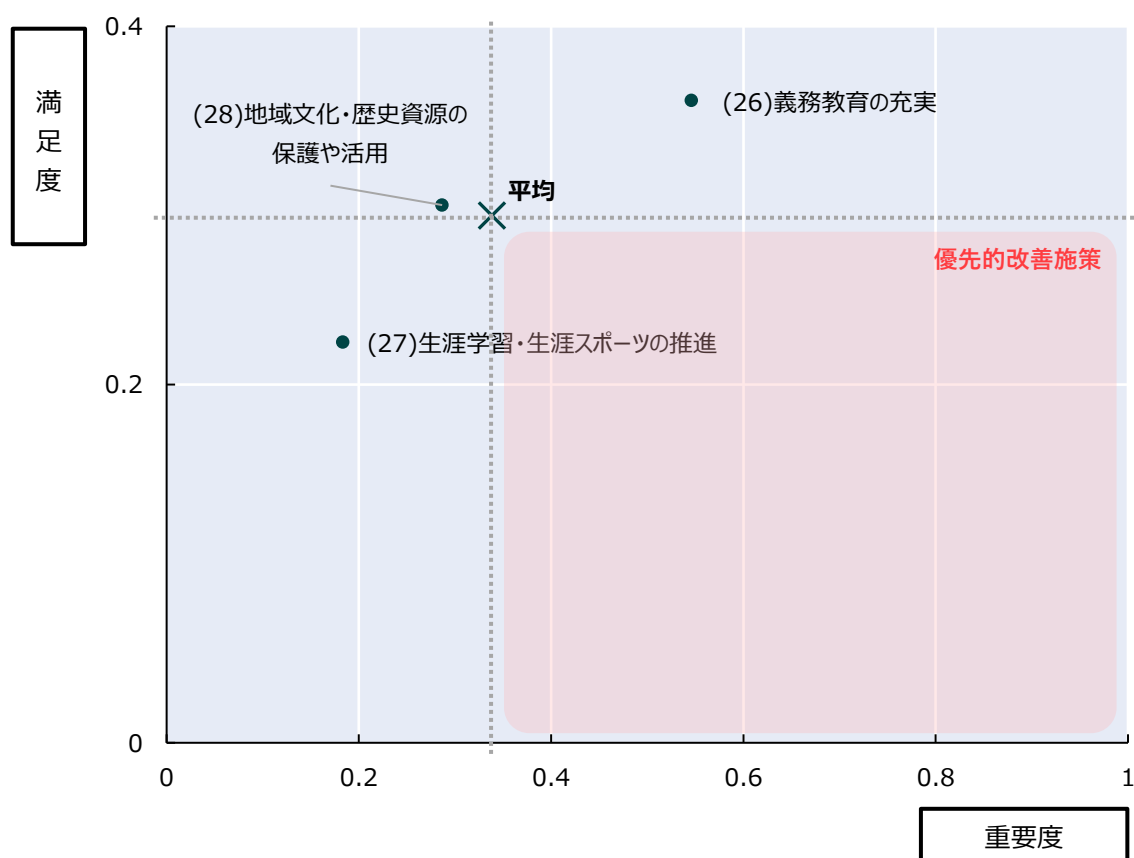
(オ) 教育文化のまちづくり

『教育文化のまちづくり』の分野における満足度評価では、「義務教育の充実」(0.36点)が最も高く、次いで「地域文化・歴史資源の保護や活用」(0.30点)となっている。

重要度評価では、「義務教育の充実」(0.55点)が最も高く、次点が「地域文化・歴史資源の保護や活用」(0.29点)と続いている。

この分野ではいずれの項目も優先的改善施策に該当しなかった。

「教育文化のまちづくり」の評価



(単位：点)

	満足度	重要度
(26)義務教育の充実	0.36	0.55
(27)生涯学習・生涯スポーツの推進	0.22	0.18
(28)地域文化・歴史資源の保護や活用	0.30	0.29
平均	0.29	0.34

前回調査からの変化

前回の調査結果から、特に変化はなかった。

(単位：点)

	満足度			重要度		
	今回 (A)	前回 (B) 平成 28 年	比較変化 (A-B)	今回 (C)	前回 (D) 平成 28 年	比較変化 (C-D)
(26)義務教育の充実	0.36	-	-	0.55	-	-
(27)生涯学習・生涯スポーツの推進	0.22	-	-	0.18	-	-
(28)地域文化・歴史資源の保護や活用	0.30	0.30	0.00	0.29	0.29	0.00
平均	0.30	0.30	0.00	0.29	0.29	0.00

※ (26)、(27) は前回と異なる項目のため、比較不可。また、当該項目は比較用の平均値の計算から除いている。

居住地区別の傾向

満足度は、塩山地域と勝沼地域では「義務教育の充実」が最も高く、大和地域では「義務教育の充実」と「地域文化・歴史資源の保護や活用」が最も高くなった。

重要度は、いずれの地域でも「義務教育の充実」が最も高くなった。

(単位：点)

	満足度			重要度		
	塩山地域	勝沼地域	大和地域	塩山地域	勝沼地域	大和地域
(26)義務教育の充実	0.35	0.38	0.22	0.57	0.51	0.41
(27)生涯学習・生涯スポーツの推進	0.22	0.23	0.13	0.20	0.18	-0.14
(28)地域文化・歴史資源の保護や活用	0.30	0.30	0.22	0.27	0.32	0.24
平均	0.29	0.30	0.19	0.35	0.33	0.17

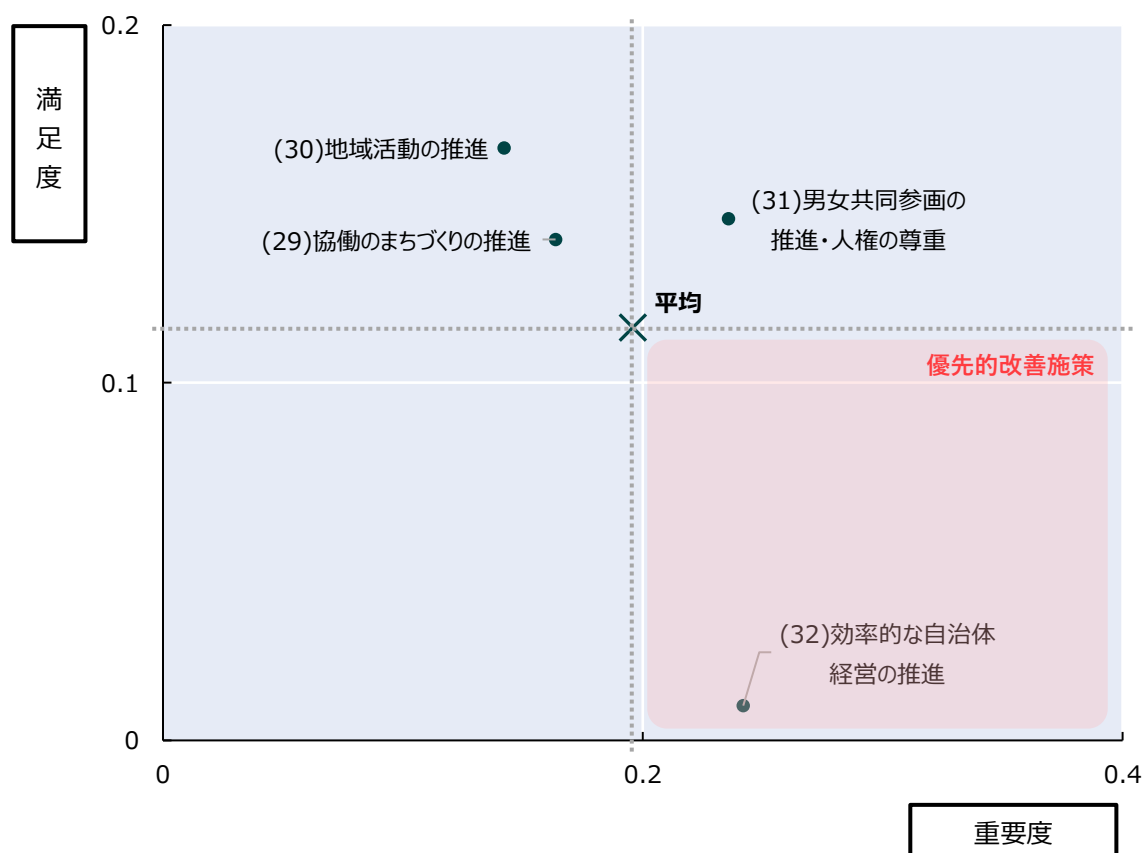
（カ）参画と協働のまちづくり

自治体経営や市民協働に関する分野である『参画と協働のまちづくり』の満足度評価では、「地域活動の推進」（0.17点）が最も高く、次いで「男女共同参画の推進・人権の尊重」（0.15点）となっている。

重要度評価においては、「男女共同参画の推進・人権の尊重」及び「効率的な自治体経営の推進」（ともに0.24点）が最も高く、次いで「協働のまちづくりの推進」（0.16点）となっている。

この分野での優先的改善施策は、「効率的な自治体経営の推進」となった。

「参画と協働のまちづくり」の評価



（単位：点）

	満足度	重要度
(29)協働のまちづくりの推進	0.14	0.16
(30)地域活動の推進	0.17	0.14
(31)男女共同参画の推進・人権の尊重	0.15	0.24
(32)効率的な自治体経営の推進	0.01	0.24
平均	0.12	0.20

前回調査からの変化

「男女共同参画の推進・人権の尊重」の満足度が0.05点上昇し、重要度が0.07点上昇した。

(単位：点)

	満足度			重要度		
	今回 (A)	前回 (B) 平成 28 年	比較変化 (A-B)	今回 (C)	前回 (D) 平成 28 年	比較変化 (C-D)
(29)協働のまちづくりの推進	0.14	-	-	0.16	-	-
(30)地域活動の推進	0.17	-	-	0.14	-	-
(31)男女共同参画の推進・ 人権の尊重	0.15	0.10	0.05	0.24	0.17	0.07
(32)効率的な自治体経営の 推進	0.01	-	-	0.24	-	-
平均	0.15	0.10	0.05	0.24	0.17	0.07

※ (29)、(30)、(32) は前回と異なる項目のため、比較不可。また、当該項目は比較用の平均値の計算から除いている。

居住地区別の傾向

満足度は、塩山地域と勝沼地域では「地域活動の推進」が最も高く、大和地域では「協働のまちづくりの推進」が最も高くなっている。

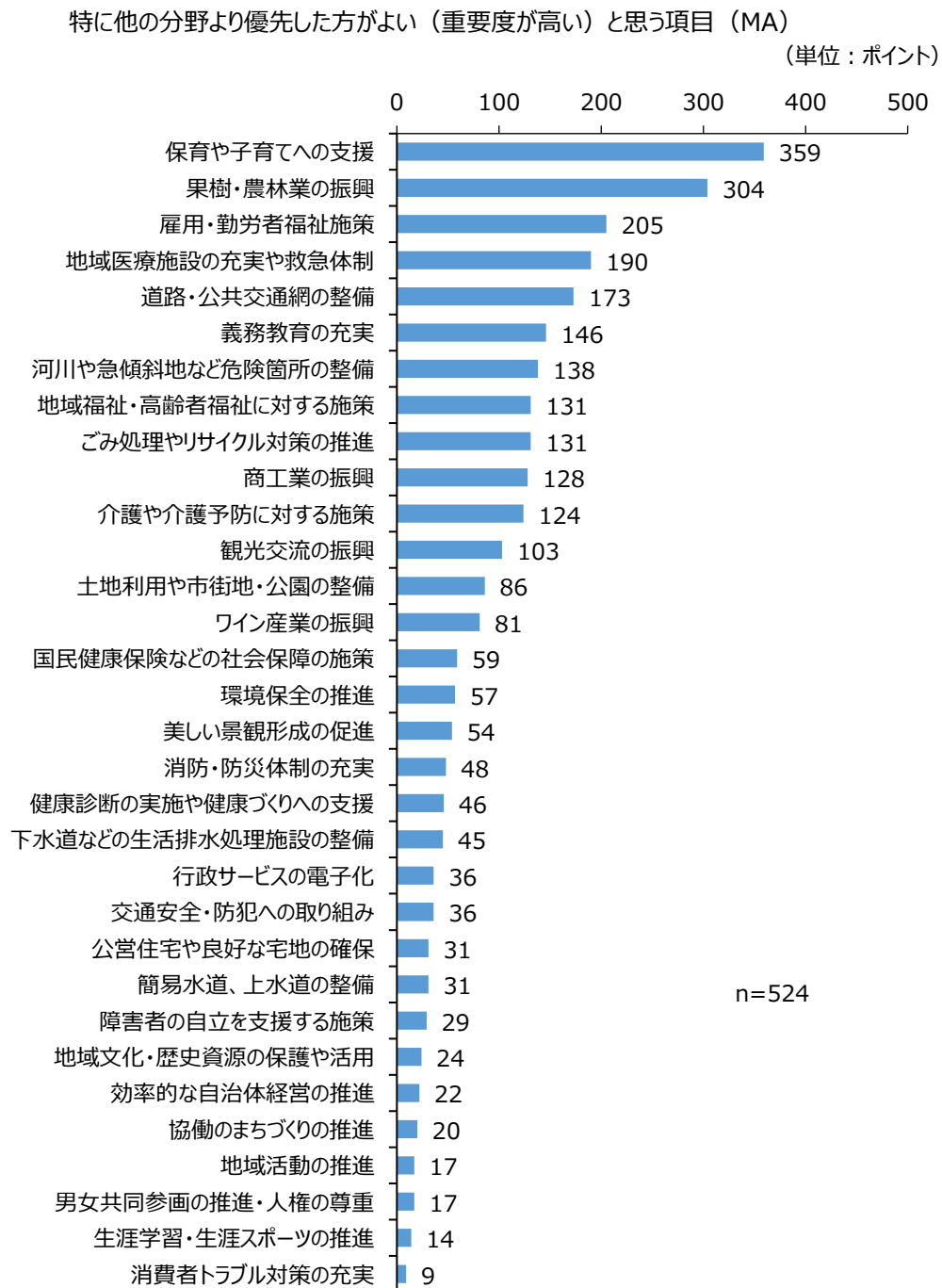
重要度は、塩山地域で「男女共同参画の推進・人権の尊重」が最も高く、勝沼地域と大和地域では「効率的な自治体経営の推進」が最も高くなった。

(単位：点)

	満足度			重要度		
	塩山地域	勝沼地域	大和地域	塩山地域	勝沼地域	大和地域
(29)協働のまちづくりの推進	0.13	0.14	0.30	0.17	0.14	0.05
(30)地域活動の推進	0.15	0.20	0.17	0.17	0.06	0.00
(31)男女共同参画の推進・人権の尊重	0.14	0.17	0.09	0.26	0.20	0.00
(32)効率的な自治体経営の推進	0.01	-0.02	-0.04	0.25	0.24	0.09
平均	0.11	0.12	0.13	0.21	0.16	0.03

問４－１ 問４の項目のうち、特に他の分野より優先した方がよい（重要度が高い）と思う項目を、重要だと思うものから順番に３つ選んで、（１）～（３２）の番号を記入してください。

問４の項目から重要だと思う第１位、第２位、第３位を選んでもらい、順位結果をポイント化（第１位を３点、第２位を２点、第３位を１点とし、それぞれの回答者数に乗じた）したところ、「保育や子育てへの支援」が359ポイントと最も高く、次いで「果樹・農林業の振興」が304ポイント、「雇用・勤労者福祉施策」が205ポイントとなっている。



前回調査からの変化

上位5項目について前回調査からの変化をみると、「保育や子育てへの支援」、「地域医療施設の充実や救急体制」、「道路・公共交通網の整備」の順位が上昇した。

順位	今回	前回（平成28年）
1位	保育や子育てへの支援	果樹・農林業の振興
2位	果樹・農林業の振興	雇用・勤労者福祉施策
3位	雇用・勤労者福祉施策	保育や子育てへの支援
4位	地域医療施設の充実や救急体制	幼稚・学校教育の充実
5位	道路・公共交通網の整備	地域医療施設の充実や救急体制

属性別の傾向

年齢別で順位を見てみると、いずれの年代においても「果樹・農林業の振興」及び「保育や子育てへの支援」の順位が高いことが分かる。

また、地域別でみると、いずれの地域でも「保育や子育てへの支援」の順位が高くなっており、また、塩山地域及び勝沼地域では「果樹・農林業の振興」の順位が高くなっている。

（年齢別順位）

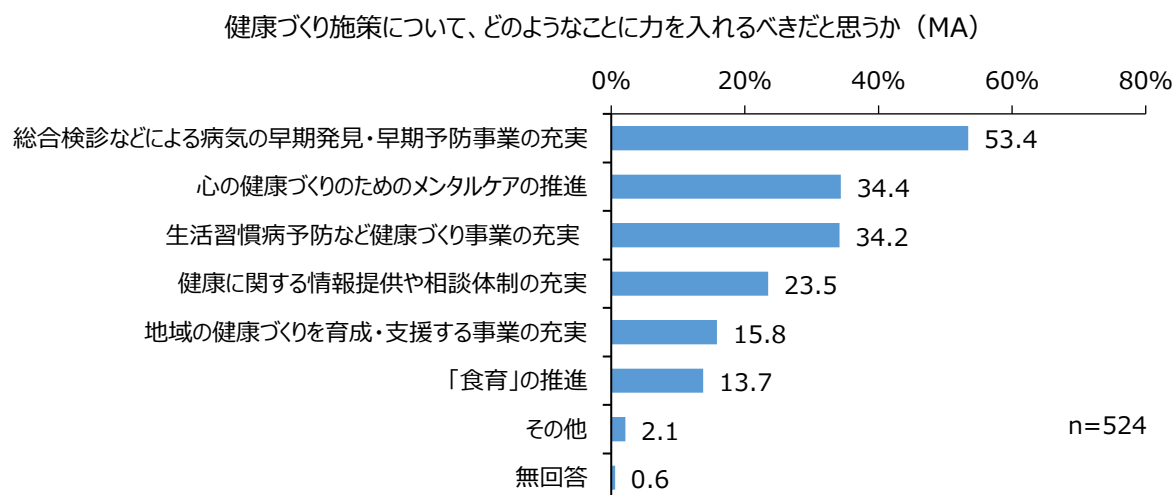
	10・20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳以上
1位	果樹・農林業の振興	保育や子育てへの支援	保育や子育てへの支援	果樹・農林業の振興	保育や子育てへの支援
2位	保育や子育てへの支援	果樹・農林業の振興	果樹・農林業の振興	保育や子育てへの支援	地域医療施設の充実や救急体制
3位	義務教育の充実	雇用・勤労者福祉施策	雇用・勤労者福祉施策	道路・公共交通網の整備	果樹・農林業の振興
4位	河川や急傾斜地など危険箇所の整備	義務教育の充実	地域医療施設の充実や救急体制	雇用・勤労者福祉施策	地域福祉・高齢者福祉に対する施策
5位	雇用・勤労者福祉施策	地域医療施設の充実や救急体制	義務教育の充実	ごみ処理やリサイクル対策の推進	河川や急傾斜地など危険箇所の整備

（地域別順位）

	塩山地域	勝沼地域	大和地域
1位	保育や子育てへの支援	果樹・農林業の振興	保育や子育てへの支援
2位	果樹・農林業の振興	保育や子育てへの支援	義務教育の充実
3位	雇用・勤労者福祉施策	地域医療施設の充実や救急体制	雇用・勤労者福祉施策
4位	地域医療施設の充実や救急体制	義務教育の充実	道路・公共交通網の整備
5位	道路・公共交通網の整備	河川や急傾斜地など危険箇所の整備	介護や介護予防に対する施策

問5 あなたは、健康づくり施策について、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。
(○は2つまで)

健康づくり施策で力を入れるべきことについては、「総合検診などによる病気の早期発見・早期予防事業の充実」が53.4%と最も高く、次いで「心の健康づくりのためのメンタルケアの推進」が34.4%、「生活習慣病予防など健康づくり事業の充実」が34.2%となっている。



	n	%
総合検診などによる病気の早期発見・早期予防事業の充実	280	53.4
心の健康づくりのためのメンタルケアの推進	180	34.4
生活習慣病予防など健康づくり事業の充実	179	34.2
健康に関する情報提供や相談体制の充実	123	23.5
地域の健康づくりを育成・支援する事業の充実	83	15.8
「食育」の推進	72	13.7
その他	11	2.1
無回答	3	0.6
	524	100.0

前回調査からの変化

新たに項目として追加された「心の健康づくりのためのメンタルケアの推進」を除き、項目の順位は前回調査と同様となった。

(%)

	今回 (A) (n=524)	前回 (B) 平成 28 年 (n=1,015)	比較変化 (A-B)
総合検診などによる病気の早期発見・早期予防事業の充実	53.4	64.1	-10.7
心の健康づくりのためのメンタルケアの推進	34.4	-	-
生活習慣病予防など健康づくり事業の充実	34.2	46.4	-12.2
健康に関する情報提供や相談体制の充実	23.5	28.1	-4.6
地域の健康づくりを育成・支援する事業の充実	15.8	20.5	-4.7
「食育」の推進	13.7	14.1	-0.4

※「心の健康づくりのためのメンタルケアの推進」については、今回新たに追加された項目のため、比較不可

属性別の傾向

性別でみると、「総合検診などによる病気の早期発見・早期予防事業の充実」に次いで高いものは、女性は「心の健康づくりのためのメンタルケアの推進」となっており、男性では「生活習慣病予防など健康づくり事業の充実」となっている。

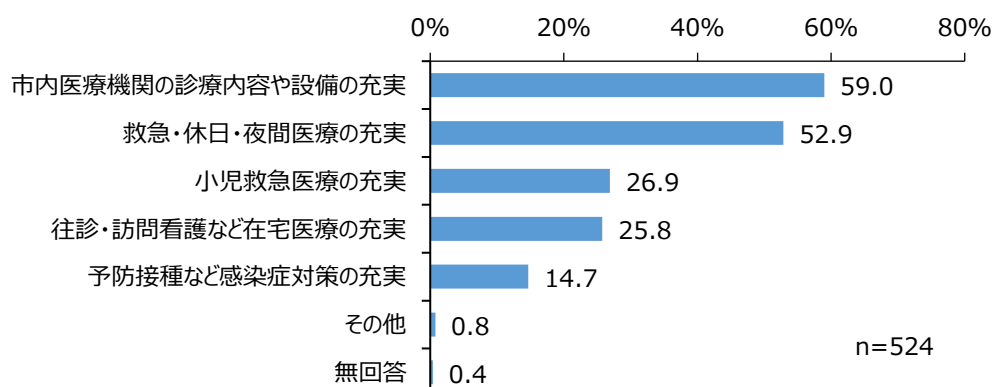
(%)

		生活習慣病予防など健康づくり事業の充実	健康に関する情報提供や相談体制の充実	総合検診などによる病気の早期発見・早期予防事業の充実	「食育」の推進	心の健康づくりのためのメンタルケアの推進	地域の健康づくりを育成・支援する事業の充実	その他	無回答
性別	女性(n=276)	29.0	27.2	56.2	11.2	41.7	14.9	1.4	0.7
	男性(n=239)	40.6	18.8	51.0	16.7	25.9	17.2	2.9	0.4
	その他(n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-
	答えたくない(n=6)	16.7	50.0	33.3	16.7	33.3	0.0	0.0	0.0
年齢	10・20 歳代(n=75)	33.3	25.3	50.7	18.7	38.7	6.7	2.7	1.3
	30 歳代(n=53)	34.0	18.9	50.9	22.6	37.7	15.1	0.0	0.0
	40 歳代(n=88)	28.4	23.9	60.2	10.2	42.0	13.6	0.0	0.0
	50 歳代(n=139)	32.4	26.6	48.2	7.9	35.3	18.0	4.3	0.0
	60 歳代(n=160)	39.4	21.9	55.6	16.3	26.9	18.8	1.9	1.3
	70 歳以上(n=6)	50.0	0.0	83.3	0.0	16.7	16.7	0.0	0.0
居住地区	塩山地域(n=362)	34.3	23.5	57.7	14.6	34.8	14.1	1.4	0.3
	勝沼地域(n=135)	34.1	24.4	43.0	11.9	28.9	21.5	4.4	1.5
	大和地域(n=23)	34.8	21.7	47.8	8.7	60.9	8.7	0.0	0.0
居住歴	市内居住のみ(n=145)	35.2	26.9	55.9	11.0	29.7	12.4	2.1	0.0
	市外居住経験(n=162)	32.7	22.2	53.7	14.2	38.9	17.9	1.2	1.2
	県内から転入(n=143)	34.3	24.5	50.3	11.9	37.1	16.1	2.1	0.7
	県外から転入(n=71)	36.6	18.3	53.5	21.1	28.2	16.9	4.2	0.0

問6 あなたは、保健・医療対策について、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。
(〇は2つまで)

保健・医療対策で力を入れるべきことについては、「市内医療機関の診療内容や設備の充実」が59.0%と最も高く、次いで「救急・休日・夜間医療の充実」が52.9%、「小児救急医療の充実」が26.9%となっている。

保健・医療対策について、どのようなことに力を入れるべきだと思うか (MA)



	n	%
市内医療機関の診療内容や設備の充実	309	59.0
救急・休日・夜間医療の充実	277	52.9
小児救急医療の充実	141	26.9
往診・訪問看護など在宅医療の充実	135	25.8
予防接種など感染症対策の充実	77	14.7
その他	4	0.8
無回答	2	0.4
	524	100.0

前回調査からの変化

新たに追加された「小児救急医療の充実」を除き、項目の順位は前回調査と同様となった。

(%)

	今回 (A) (n=524)	前回 (B) 平成 28 年 (n=1,015)	比較変化 (A-B)
市内医療機関の診療内容や設備の充実	59.0	64.8	-5.8
救急・休日・夜間医療の充実	52.9	54.6	-1.7
小児救急医療の充実	26.9	-	-
往診・訪問看護など在宅医療の充実	25.8	32.7	-6.9
予防接種など感染症対策の充実	14.7	21.3	-6.6

※「小児救急医療の充実」については、今回新たに追加された項目のため、比較不可

属性別の傾向

性別では、「小児救急医療の充実」について男性よりも女性の方が約10ポイント高くなっている。

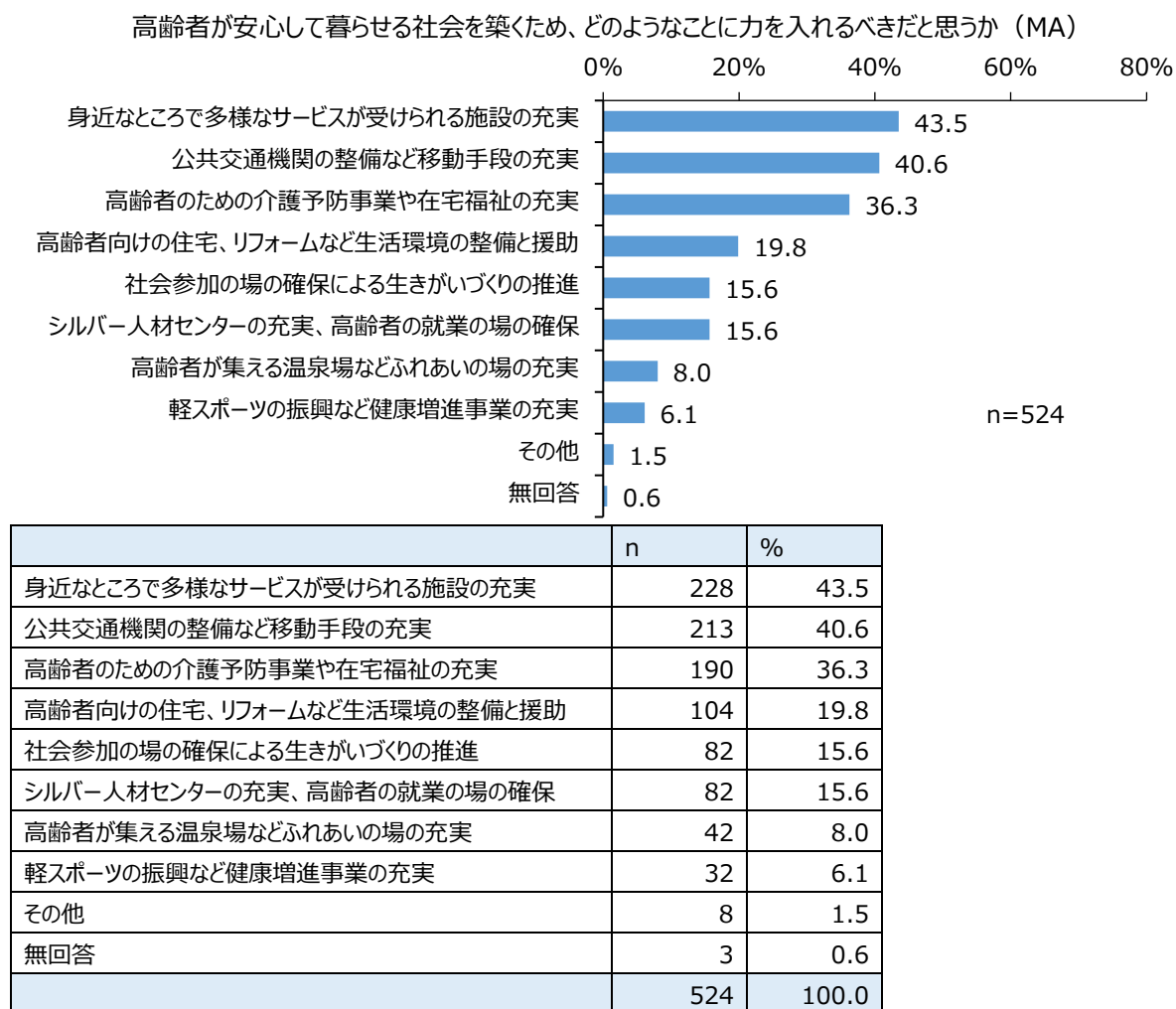
年齢別でみると、10・20歳代と40歳代で「救急・休日・夜間医療の充実」が最も高くなっており、他の年代では「市内医療機関の診療内容や設備の充実」が最も高くなっている。

(%)

		市内医療機関の診療 内容や設備の充実	救急・休日・夜間医 療の充実	往診・訪問看護など 在宅医療の充実	予防接種など感染症 対策の充実	小児救急医療の充実	その他	無回答
性別	女性(n=276)	59.4	52.5	25.4	13.0	31.2	1.4	0.4
	男性(n=239)	59.4	53.6	25.9	16.7	21.8	0.0	0.4
	その他(n=0)	-	-	-	-	-	-	-
	答えたくない(n=6)	33.3	66.7	33.3	16.7	16.7	0.0	0.0
年齢	10・20 歳代(n=75)	48.0	61.3	20.0	22.7	29.3	0.0	1.3
	30 歳代(n=53)	60.4	49.1	15.1	3.8	49.1	0.0	0.0
	40 歳代(n=88)	47.7	59.1	23.9	14.8	35.2	2.3	0.0
	50 歳代(n=139)	61.9	49.6	28.8	10.1	23.7	0.0	0.0
	60 歳代(n=160)	66.9	50.6	30.6	18.8	16.3	1.3	0.6
	70 歳以上(n=6)	66.7	33.3	33.3	16.7	16.7	0.0	0.0
居住地区	塩山地域(n=362)	60.5	55.0	26.8	14.1	24.6	0.8	0.0
	勝沼地域(n=135)	57.0	49.6	21.5	14.8	32.6	0.7	1.5
	大和地域(n=23)	47.8	43.5	34.8	26.1	26.1	0.0	0.0
居住歴	市内居住のみ(n=145)	59.3	55.9	24.1	23.4	20.7	0.0	0.0
	市外居住経験(n=162)	62.3	46.3	30.2	11.7	26.5	0.0	0.6
	県内から転入(n=143)	56.6	60.8	19.6	11.9	30.1	1.4	0.7
	県外から転入(n=71)	54.9	46.5	32.4	9.9	32.4	2.8	0.0

問7 あなたは、高齢者が安心して暮らせる社会を築くため、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（〇は2つまで）

高齢者が安心して暮らせる社会を築くために力を入れるべきことは、「身近なところで多様なサービスが受けられる施設の充実」が43.5%と最も高く、次いで「公共交通機関の整備など移動手段の充実」が40.6%、「高齢者のための介護予防事業や在宅福祉の充実」が36.3%となっている。



前回調査からの変化

「公共交通機関の整備など移動手段の充実」が前回から8.7ポイント増加した。
一方で、「シルバー人材センターの充実、高齢者の就業の場の確保」が5.3ポイント減少し、
「高齢者が集える温泉場などふれあいの場の充実」が6.7ポイント減少した。

(%)

	今回 (A) (n=524)	前回 (B) 平成 28 年 (n=1,015)	比較変化 (A-B)
身近なところで多様なサービスが受けられる施設の充実	43.5	44.2	-0.7
公共交通機関の整備など移動手段の充実	40.6	31.9	8.7
高齢者のための介護予防事業や在宅福祉の充実	36.3	37.6	-1.3
高齢者向けの住宅、リフォームなど生活環境の整備と援助	19.8	17.6	2.2
社会参加の場の確保による生きがいづくりの推進	15.6	14.4	1.2
シルバー人材センターの充実、高齢者の就業の場の確保	15.6	20.9	-5.3
高齢者が集える温泉場などふれあいの場の充実	8.0	14.7	-6.7
軽スポーツの振興など健康増進事業の充実	6.1	6.8	-0.7

※前回「高齢者が集えるふれあいの場の充実」→今回「高齢者が集える温泉場などふれあいの場の充実」に変更している。

属性別の傾向

年齢別でみると、40歳代と60歳代では全体の結果と同じく「身近なところで多様なサービスが受けられる施設の充実」が最も高くなっている。30歳代や50歳代では「公共交通機関の整備など移動手段の充実」が最も高くなった。

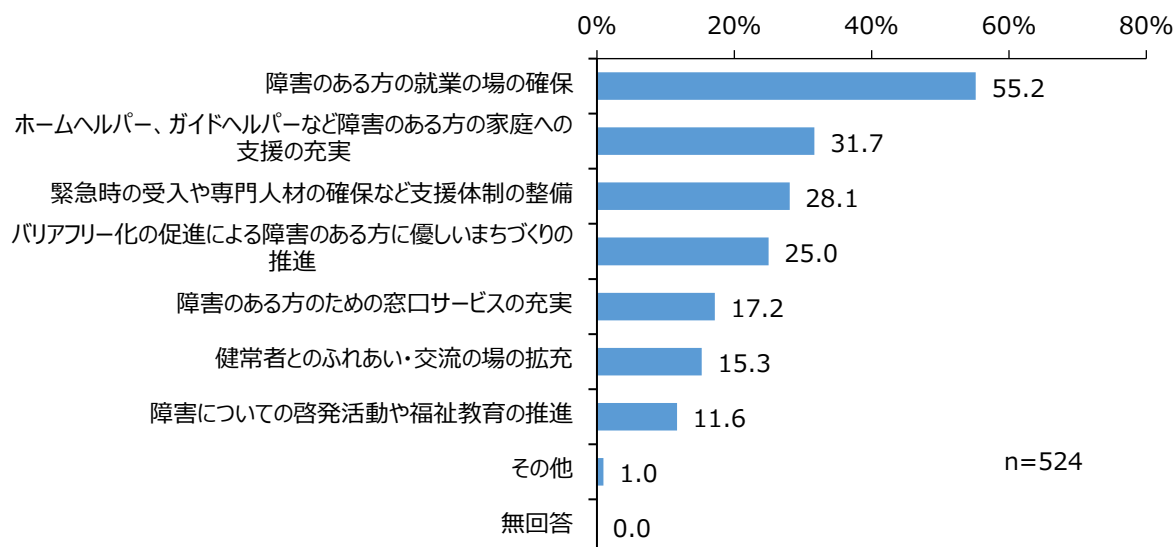
(%)

		高齢者のための介護予防事業や在宅福祉の充実	身近なところで多様なサービスが受けられる施設の充実	社会参加の場の確保による生きがいづくりの推進	高齢者の就業の場の確保	シルバー人材センターの充実、高年齢者の就業の場の確保	高齢者向けの住宅、リフォームなど生活環境の整備と援助	公共交通機関の整備など移動手段の充実	高齢者が集える温泉場などふれあいの場の充実	軽スポーツの振興など健康増進事業の充実	その他	無回答
性別	女性(n=276)	36.2	47.1	15.6	12.3	21.4	44.2	7.6	5.1	0.4	0.7	
	男性(n=239)	36.8	38.9	15.9	19.7	18.0	36.8	8.8	7.1	2.9	0.4	
	その他(n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	答えたくない(n=6)	16.7	66.7	16.7	0.0	16.7	50.0	0.0	16.7	0.0	0.0	
年齢	10・20 歳代(n=75)	32.0	45.3	14.7	10.7	32.0	34.7	9.3	9.3	1.3	0.0	
	30 歳代(n=53)	30.2	34.0	20.8	15.1	17.0	39.6	17.0	7.5	3.8	0.0	
	40 歳代(n=88)	33.0	42.0	21.6	22.7	17.0	40.9	9.1	3.4	0.0	0.0	
	50 歳代(n=139)	41.0	41.0	10.1	17.3	20.9	44.6	5.8	2.9	2.9	0.7	
	60 歳代(n=160)	36.9	50.0	16.3	12.5	15.6	40.6	6.3	8.1	0.6	1.3	
	70 歳以上(n=6)	66.7	16.7	16.7	16.7	16.7	33.3	0.0	16.7	0.0	0.0	
居住地区	塩山地域(n=362)	37.0	44.5	15.2	14.6	19.6	42.8	8.0	6.1	0.6	0.3	
	勝沼地域(n=135)	33.3	43.0	14.8	18.5	20.0	36.3	8.1	6.7	4.4	1.5	
	大和地域(n=23)	39.1	34.8	30.4	13.0	21.7	34.8	8.7	4.3	0.0	0.0	
居住歴	市内居住のみ(n=145)	40.0	42.8	12.4	13.8	26.2	37.2	9.7	4.8	2.1	0.0	
	市外居住経験(n=162)	37.7	43.2	17.9	14.8	19.1	39.5	8.6	6.8	0.6	0.0	
	県内から転入(n=143)	35.7	46.9	14.7	15.4	14.0	44.8	7.0	5.6	0.7	1.4	
	県外から転入(n=71)	26.8	39.4	19.7	21.1	19.7	42.3	5.6	8.5	4.2	1.4	

問8 あなたは、障害のある方が地域でいきいきと暮らすために、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（〇は2つまで）

障害のある方が地域でいきいきと暮らすために力を入れるべきことは、「障害のある方の就業の場の確保」が55.2%と最も高く、次いで「ホームヘルパー、ガイドヘルパーなど障害のある方の家庭への支援の充実」が31.7%、「緊急時の受入や専門人材の確保など支援体制の整備」が28.1%となっている。

障害のある方が地域でいきいきと暮らすために、どのようなことに力を入れるべきだと思うか（MA）



	n	%
障害のある方の就業の場の確保	289	55.2
ホームヘルパー、ガイドヘルパーなど障害のある方の家庭への支援の充実	166	31.7
緊急時の受入や専門人材の確保など支援体制の整備	147	28.1
バリアフリー化の促進による障害のある方に優しいまちづくりの推進	131	25.0
障害のある方のための窓口サービスの充実	90	17.2
健常者とのふれあい・交流の場の拡充	80	15.3
障害についての啓発活動や福祉教育の推進	61	11.6
その他	5	1.0
無回答	0	0.0
	524	100.0

前回調査からの変化

新たに追加された「緊急時の受入や専門人材の確保など支援体制の整備」を除き、項目の順位は前回調査と同様となった。

(%)

	今回 (A) (n=524)	前回 (B) 平成 28 年 (n=1,015)	比較変化 (A-B)
障害のある方の就業の場の確保	55.2	63.2	-8.0
ホームヘルパー、ガイドヘルパーなど障害のある方の家庭への支援の充実	31.7	36.4	-4.7
緊急時の受入や専門人材の確保など支援体制の整備	28.1	-	-
バリアフリー化の促進による障害のある方に優しいまちづくりの推進	25.0	25.1	-0.1
障害のある方のための窓口サービスの充実	17.2	21.0	-3.8
健常者とのふれあい・交流の場の拡充	15.3	18.6	-3.3
障害についての啓発活動や福祉教育の推進	11.6	17.9	-6.3

※「緊急時の受入や専門人材の確保など支援体制の整備」については、今回新たに追加された項目のため、比較不可

属性別の傾向

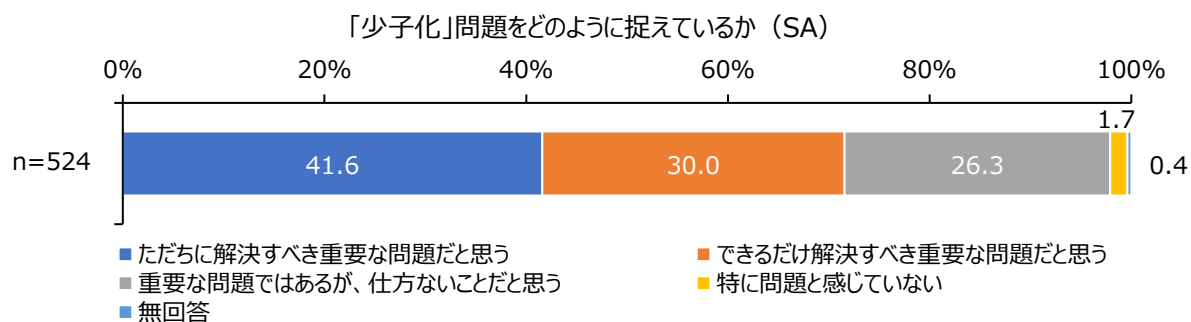
ほとんどの属性において、「障害のある方の就業の場の確保」が最も高くなっている。

(%)

		障害のある方の就業の場の確保	ホームヘルパー、ガイドヘルパーなど 障害のある方の家庭への支援の充実	バリアフリー化の促進による障害のある方に優しいまちづくりの推進	障害のある方のための窓口サービスの充実	障害についての啓発活動や福祉教育の推進	健常者とのふれあい・交流の場の拡充	緊急時の受入や専門人材の確保など 支援体制の整備	その他	無回答
性別	女性(n=276)	55.1	34.4	25.4	17.0	10.5	13.8	31.2	1.1	0.0
	男性(n=239)	56.1	28.9	23.8	17.2	13.0	17.2	24.7	0.8	0.0
	その他(n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	答えたくない(n=6)	33.3	16.7	50.0	33.3	0.0	16.7	33.3	0.0	0.0
年齢	10・20 歳代(n=75)	62.7	17.3	34.7	12.0	5.3	25.3	24.0	0.0	0.0
	30 歳代(n=53)	58.5	26.4	28.3	18.9	15.1	15.1	20.8	0.0	0.0
	40 歳代(n=88)	58.0	37.5	19.3	20.5	11.4	19.3	22.7	1.1	0.0
	50 歳代(n=139)	57.6	36.0	19.4	17.3	10.1	10.8	31.7	1.4	0.0
	60 歳代(n=160)	45.6	33.8	28.8	16.9	13.8	13.1	32.5	1.3	0.0
	70 歳以上(n=6)	83.3	16.7	0.0	33.3	33.3	0.0	16.7	0.0	0.0
居住地区	塩山地域(n=362)	54.1	31.5	27.1	16.3	10.8	14.4	30.9	0.8	0.0
	勝沼地域(n=135)	59.3	31.9	22.2	17.8	13.3	16.3	21.5	0.7	0.0
	大和地域(n=23)	52.2	30.4	8.7	26.1	13.0	26.1	26.1	4.3	0.0
居住歴	市内居住のみ(n=145)	57.9	27.6	26.2	21.4	9.7	16.6	24.1	1.4	0.0
	市外居住経験(n=162)	51.2	31.5	21.6	15.4	16.7	14.2	34.0	1.2	0.0
	県内から転入(n=143)	54.5	32.9	27.3	18.2	9.1	13.3	28.0	0.7	0.0
	県外から転入(n=71)	60.6	36.6	26.8	9.9	8.5	19.7	23.9	0.0	0.0

問9 少子化が急速に進行していますが、あなたは「少子化」問題をどのように捉えていますか。
(〇は1つ)

「少子化」問題の捉え方について、「ただちに解決すべき重要な問題だと思う」が41.6%、「できるだけ解決すべき重要な問題だと思う」が30.0%となり、併せると7割を超えている。



	n	%
ただちに解決すべき重要な問題だと思う	218	41.6
できるだけ解決すべき重要な問題だと思う	157	30.0
重要な問題ではあるが、仕方ないことだと思う	138	26.3
特に問題と感じていない	9	1.7
無回答	2	0.4
	524	100.0

前回調査からの変化

前回調査から特に変化はなかった。

(%)

	今回 (A) (n=524)	前回 (B) 平成 28 年 (n=1,015)	比較変化 (A-B)
ただちに解決すべき重要な問題だと思う	41.6	42.1	-0.5
できるだけ解決すべき重要な問題だと思う	30.0	31.3	-1.3
重要な問題ではあるが、仕方ないことだと思う	26.3	24.2	2.1
特に問題と感じていない	1.7	1.4	0.3

属性別の傾向

性別でみると、「ただちに解決すべき重要な問題だと思う」について、男性の方が女性よりも約20ポイント高くなっており、「重要な問題ではあるが、仕方ないことだと思う」については、女性の方が約12ポイント高くなっている。

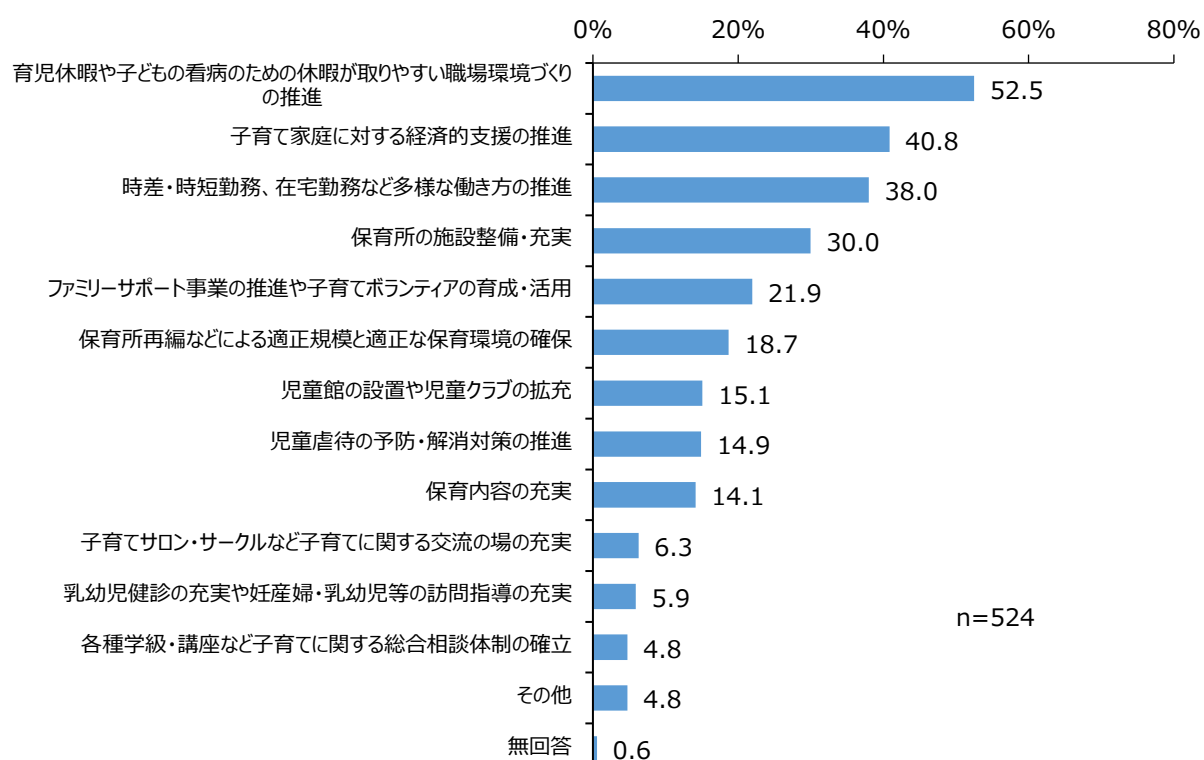
(%)

		ただちに解決すべき重要な問題だと思う	できるだけ解決すべき重要な問題だと思う	重要な問題ではあるが、仕方ないことだと思う	特に問題と感じていない	無回答
性別	女性(n=276)	32.6	32.6	31.9	2.5	0.4
	男性(n=239)	51.9	27.2	19.7	0.8	0.4
	その他(n=0)	-	-	-	-	-
	答えたくない(n=6)	33.3	16.7	50.0	0.0	0.0
年齢	10・20 歳代(n=75)	46.7	28.0	24.0	1.3	0.0
	30 歳代(n=53)	47.2	24.5	24.5	3.8	0.0
	40 歳代(n=88)	46.6	28.4	21.6	3.4	0.0
	50 歳代(n=139)	38.8	31.7	28.8	0.0	0.7
	60 歳代(n=160)	36.9	31.3	29.4	1.9	0.6
	70 歳以上(n=6)	33.3	50.0	16.7	0.0	0.0
居住地区	塩山地域(n=362)	41.4	29.8	26.5	1.7	0.6
	勝沼地域(n=135)	41.5	29.6	26.7	2.2	0.0
	大和地域(n=23)	39.1	34.8	26.1	0.0	0.0
居住歴	市内居住のみ(n=145)	39.3	31.0	26.9	2.8	0.0
	市外居住経験(n=162)	46.9	31.5	20.4	1.2	0.0
	県内から転入(n=143)	39.2	24.5	32.9	2.1	1.4
	県外から転入(n=71)	36.6	36.6	26.8	0.0	0.0

問10 あなたは、保育や子育て支援、少子化対策の施策を充実していくために、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（〇は3つまで）

保育や子育て支援、少子化対策の充実のために力を入れるべきことは、「育児休暇や子どもの看病のための休暇が取りやすい職場環境づくりの推進」が52.5%、「子育て家庭に対する経済的支援の推進」が40.8%、「時差・時短勤務、在宅勤務など多様な働き方の推進」が38.0%となっている。

保育や子育て支援、少子化対策の施策を充実していくために、どのようなことに力を入れるべきだと思うか（MA）



	n	%
育児休暇や子どもの看病のための休暇が取りやすい職場環境づくりの推進	275	52.5
子育て家庭に対する経済的支援の推進	214	40.8
時差・時短勤務、在宅勤務など多様な働き方の推進	199	38.0
保育所の施設整備・充実	157	30.0
ファミリーサポート事業の推進や子育てボランティアの育成・活用	115	21.9
保育所再編などによる適正規模と適正な保育環境の確保	98	18.7
児童館の設置や児童クラブの拡充	79	15.1
児童虐待の予防・解消対策の推進	78	14.9
保育内容の充実	74	14.1
子育てサロン・サークルなど子育てに関する交流の場の充実	33	6.3
乳幼児健診の充実や妊産婦・乳幼児等の訪問指導の充実	31	5.9
各種学級・講座など子育てに関する総合相談体制の確立	25	4.8
その他	25	4.8
無回答	3	0.6
	524	100.0

前回調査からの変化

新たに追加された項目を除き、上位の5項目については前回と同じとなった。

(%)

	今回 (A) (n=524)	前回 (B) 平成 28 年 (n=1,015)	比較変化 (A-B)
育児休暇や子どもの看病のための休暇が取りやすい職場環境づくりの推進	52.5	61.6	-9.1
子育て家庭に対する経済的支援の推進	40.8	50.2	-9.4
時差・時短勤務、在宅勤務など多様な働き方の推進	38.0	-	-
保育所の施設整備・充実	30.0	36.2	-6.2
ファミリーサポート事業の推進や子育てボランティアの育成・活用	21.9	24.5	-2.6
保育所再編などによる適正規模と適正な保育環境の確保	18.7	-	-
児童館の設置や児童クラブの拡充	15.1	21.1	-6.0
児童虐待の予防・解消対策の推進	14.9	13.1	1.8
保育内容の充実	14.1	20.7	-6.6
子育てサロン・サークルなど子育てに関する交流の場の充実	6.3	11.7	-5.4
乳幼児健診の充実や妊産婦・乳幼児等の訪問指導の充実	5.9	9.3	-3.4
各種学級・講座など子育てに関する総合相談体制の確立	4.8	7.9	-3.1

※「時差・時短勤務、在宅勤務など多様な働き方の推進」、「保育所再編などによる適正規模と適正な保育環境の確保」については、今回新たに追加された項目のため、比較不可

属性別の傾向

性別でみると、「育児休暇や子どもの看病のための休暇が取りやすい職場環境づくりの推進」について、男性よりも女性の方がおよそ20ポイント高くなっている。

年齢別では、子育て世代の中心である30歳代と40歳代においても全体と同様に「育児休暇や子どもの看病のための休暇が取りやすい職場環境づくりの推進」が高くなっているほか、「子育て家庭に対する経済的支援の推進」や「時差・時短勤務、在宅勤務など多様な働き方の推進」が高くなっている。

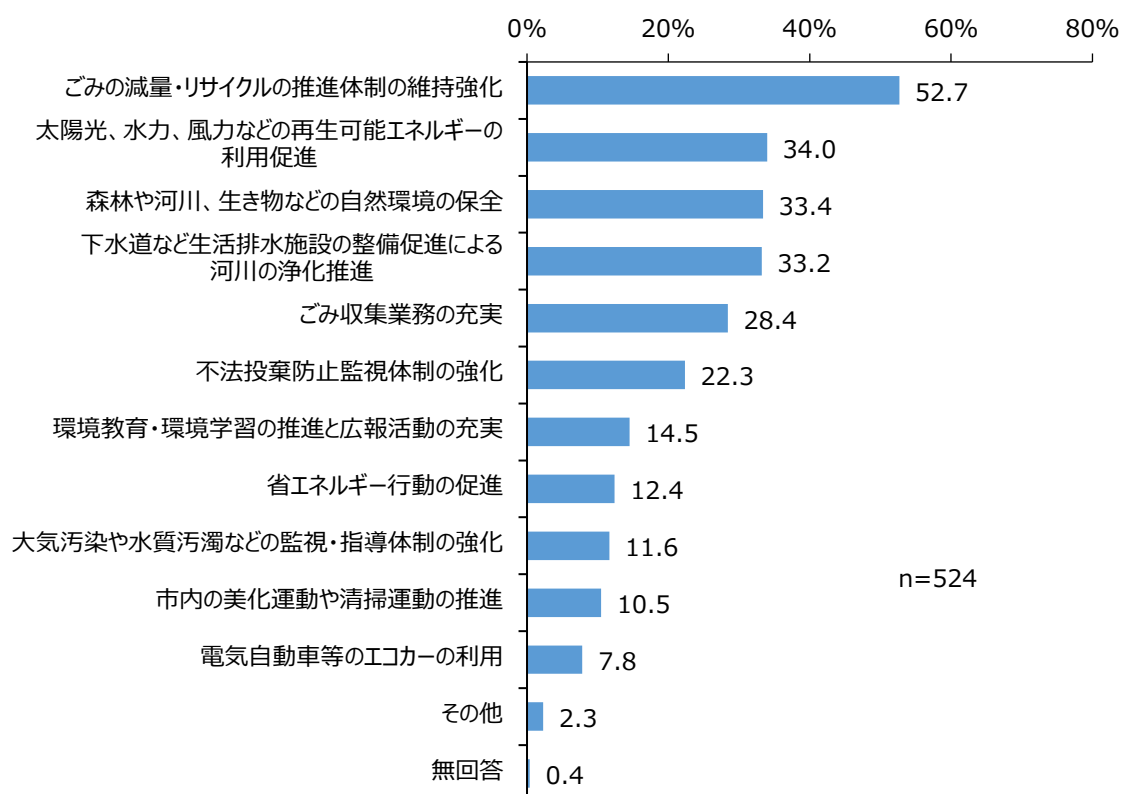
(%)

		無回答	その他	子育て家庭に対する経済的支援の推進	児童虐待の予防・解消対策の推進	乳幼児健診の充実や妊産婦・乳幼児等の訪問指導の充実	時差・時短勤務、在宅勤務など多様な働き方の推進	育児休暇や子どもの看病のための休暇が取りやすい職場環境づくりの推進	子育てサロン・サークルなど子育てに関する交流の場の充実	各種学級・講座など子育てに関する総合相談体制の確立	ファミリーサポート事業の推進や子育てボランティアの育成・活用	児童館の設置や児童クラブの拡充	保育内容の充実	保育所再編などによる適正規模と適正な保育環境の確保	保育所の施設整備・充実
性別	女性(n=276)	0.7	2.5	39.5	15.6	6.9	43.5	62.3	7.6	4.0	22.8	14.9	14.1	15.6	25.4
	男性(n=239)	0.4	7.1	43.1	14.2	5.0	32.2	41.4	5.0	5.9	20.5	15.9	13.4	22.2	34.7
	その他(n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	答えたくない(n=6)	0.0	16.7	0.0	16.7	0.0	33.3	50.0	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	16.7	33.3
年齢	10・20 歳代(n=75)	0.0	1.3	44.0	33.3	4.0	34.7	52.0	6.7	1.3	18.7	12.0	13.3	20.0	34.7
	30 歳代(n=53)	0.0	9.4	52.8	11.3	5.7	43.4	56.6	1.9	15.1	7.5	13.2	13.2	15.1	35.8
	40 歳代(n=88)	0.0	8.0	43.2	12.5	4.5	39.8	52.3	8.0	2.3	18.2	12.5	21.6	13.6	29.5
	50 歳代(n=139)	0.0	3.6	41.0	9.4	5.8	39.6	54.0	5.0	4.3	25.9	18.7	10.8	14.4	28.1
	60 歳代(n=160)	1.9	4.4	34.4	14.4	6.9	36.9	50.0	8.1	5.0	25.6	16.3	13.1	25.6	26.3
	70 歳以上(n=6)	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	16.7	66.7	0.0	0.0	50.0	0.0	16.7	16.7	33.3
居住地区	塩山地域(n=362)	0.6	3.6	40.6	17.4	6.9	39.0	52.5	5.8	5.2	22.7	14.1	14.9	19.6	27.1
	勝沼地域(n=135)	0.0	8.1	40.0	9.6	4.4	36.3	55.6	6.7	4.4	18.5	16.3	10.4	17.0	37.0
	大和地域(n=23)	4.3	4.3	43.5	8.7	0.0	34.8	34.8	13.0	0.0	30.4	26.1	21.7	13.0	30.4
居住歴	市内居住のみ(n=145)	0.7	3.4	35.2	25.5	4.8	32.4	48.3	4.8	5.5	19.3	15.9	14.5	20.0	35.9
	市外居住経験(n=162)	0.6	3.7	45.7	11.1	4.9	43.8	54.3	8.6	4.9	19.8	14.8	16.0	17.3	25.9
	県内から転入(n=143)	0.7	4.2	38.5	10.5	7.0	35.7	55.9	3.5	3.5	24.5	17.5	13.3	17.5	32.2
	県外から転入(n=71)	0.0	11.3	45.1	11.3	8.5	40.8	50.7	9.9	5.6	28.2	9.9	9.9	21.1	21.1

問11 あなたは、環境保全対策について、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。
(〇は3つまで)

環境保全対策について力を入れるべきことは、「ごみの減量・リサイクルの推進体制の維持強化」が52.7%と最も高く、次いで「太陽光、水力、風力などの再生可能エネルギーの利用促進」が34.0%、「森林や河川、生き物などの自然環境の保全」が33.4%となっている。

環境保全対策について、どのようなことに力を入れるべきだと思うか (MA)



	n	%
ごみの減量・リサイクルの推進体制の維持強化	276	52.7
太陽光、水力、風力などの再生可能エネルギーの利用促進	178	34.0
森林や河川、生き物などの自然環境の保全	175	33.4
下水道など生活排水施設の整備促進による河川の浄化推進	174	33.2
ごみ収集業務の充実	149	28.4
不法投棄防止監視体制の強化	117	22.3
環境教育・環境学習の推進と広報活動の充実	76	14.5
省エネルギー行動の促進	65	12.4
大気汚染や水質汚濁などの監視・指導体制の強化	61	11.6
市内の美化運動や清掃運動の推進	55	10.5
電気自動車等のエコカーの利用	41	7.8
その他	12	2.3
無回答	2	0.4
	524	100.0

前回調査からの変化

「太陽光、水力、風力などの再生可能エネルギーの利用促進」が4.8ポイント増加、「ごみ収集業務の充実」と「省エネルギー行動の促進」が2.6ポイント増加、「電気自動車等のエコカーの利用」が2.9ポイント増加した。

一方、「不法投棄防止監視体制の強化」は7.4ポイント減少、「環境教育・環境学習の推進と広報活動の充実」が2.9ポイント減少、「市内の美化運動や清掃運動の推進」が4.6ポイント減少した。

(%)

	今回 (A) (n=524)	前回 (B) 平成 28 年 (n=1,015)	比較変化 (A-B)
ごみの減量・リサイクルの推進体制の維持強化	52.7	53.1	-0.4
太陽光、水力、風力などの再生可能エネルギーの利用促進	34.0	29.2	4.8
森林や河川、生き物などの自然環境の保全	33.4	33.6	-0.2
下水道など生活排水施設の整備促進による河川の浄化推進	33.2	34.1	-0.9
ごみ収集業務の充実	28.4	25.8	2.6
不法投棄防止監視体制の強化	22.3	29.7	-7.4
環境教育・環境学習の推進と広報活動の充実	14.5	17.4	-2.9
省エネルギー行動の促進	12.4	9.8	2.6
大気汚染や水質汚濁などの監視・指導体制の強化	11.6	13.0	-1.4
市内の美化運動や清掃運動の推進	10.5	15.1	-4.6
電気自動車等のエコカーの利用	7.8	4.9	2.9

属性別の傾向

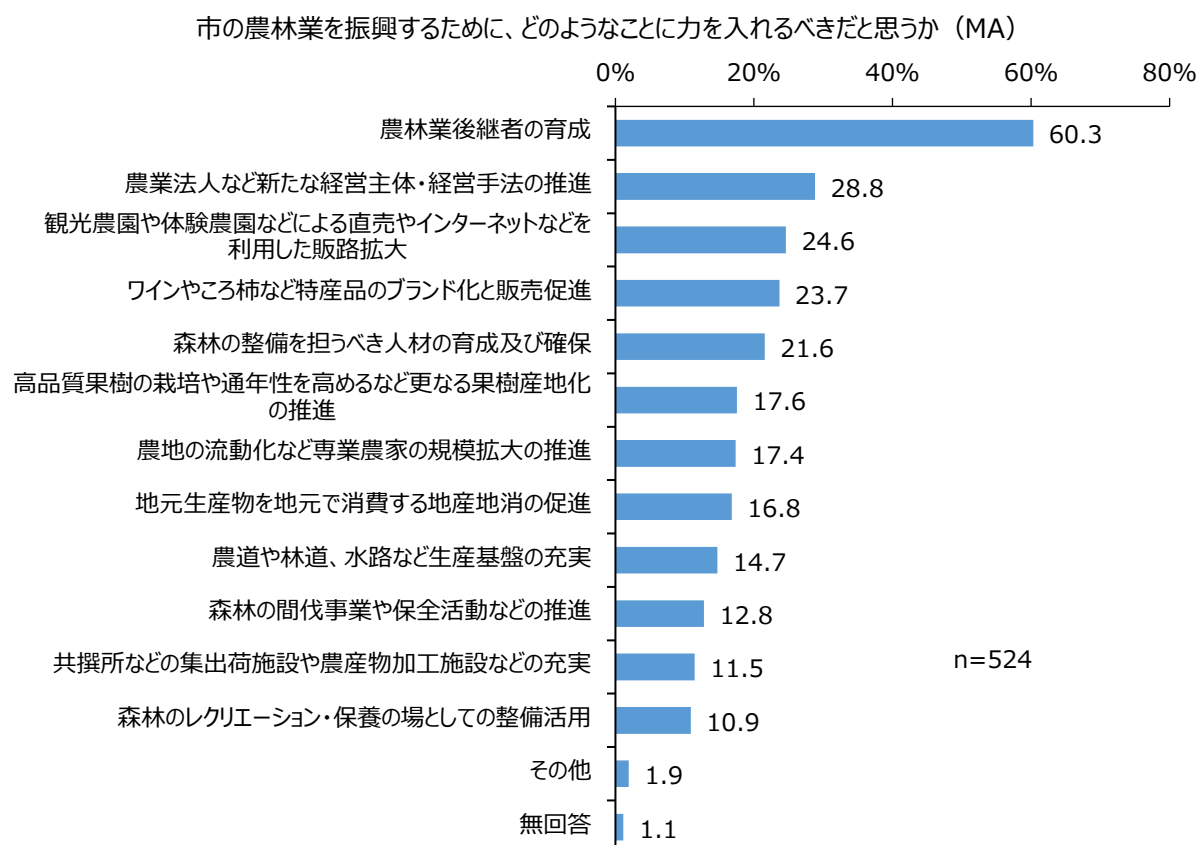
ほとんどの属性において、「ごみの減量・リサイクルの推進体制の維持強化」が最も高くなっている。

(%)

		ごみの減量・リサイクルの推進体制の維持強化	ごみ収集業務の充実	下水道など生活排水施設の整備促進による河川の浄化推進	大気汚染や水質汚濁などの監視・指導体制の強化	不法投棄防止監視体制の強化	森林や河川、生き物などの自然環境の保全	市内の美化運動や清掃運動の推進	太陽光、水力、風力などの再生可能エネルギーの利用促進	省エネルギー行動の促進	電気自動車等のエコカーの利用	環境教育・環境学習の推進と広報活動の充実	その他	無回答
性別	女性(n=276)	56.5	26.8	31.5	13.4	21.7	33.7	11.2	33.3	12.3	6.5	13.4	2.2	0.4
	男性(n=239)	49.0	31.0	35.6	9.2	23.4	33.1	10.0	34.3	12.1	9.6	15.9	2.5	0.4
	その他(n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	答えたくない(n=6)	50.0	16.7	16.7	16.7	16.7	33.3	0.0	50.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0
年齢	10・20 歳代(n=75)	44.0	22.7	25.3	17.3	29.3	44.0	5.3	38.7	14.7	5.3	9.3	1.3	1.3
	30 歳代(n=53)	45.3	28.3	34.0	13.2	32.1	32.1	11.3	41.5	7.5	13.2	13.2	1.9	0.0
	40 歳代(n=88)	55.7	25.0	37.5	10.2	19.3	35.2	9.1	35.2	13.6	9.1	14.8	2.3	0.0
	50 歳代(n=139)	52.5	34.5	30.2	11.5	19.4	28.8	7.9	34.5	9.4	8.6	15.1	2.9	0.7
	60 歳代(n=160)	57.5	29.4	35.6	9.4	20.0	31.9	16.3	28.1	13.1	6.3	16.9	2.5	0.0
	70 歳以上(n=6)	66.7	0.0	50.0	16.7	33.3	33.3	0.0	33.3	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
居住地区	塩山地域(n=362)	55.5	29.3	31.5	11.6	21.8	35.1	12.4	33.4	13.3	8.6	13.0	2.2	0.0
	勝沼地域(n=135)	48.9	28.1	40.0	11.9	20.7	28.9	5.2	34.1	8.1	5.9	17.8	3.0	1.5
	大和地域(n=23)	34.8	21.7	21.7	4.3	43.5	34.8	13.0	39.1	21.7	8.7	17.4	0.0	0.0
居住歴	市内居住のみ(n=145)	53.1	31.7	34.5	17.2	24.8	35.9	7.6	34.5	10.3	6.9	10.3	0.7	0.0
	市外居住経験(n=162)	50.6	22.2	29.6	8.6	22.2	37.7	9.9	38.3	14.8	9.3	19.8	2.5	0.6
	県内から転入(n=143)	52.4	33.6	35.0	11.2	16.1	27.3	11.9	30.8	11.2	4.2	15.4	2.8	0.7
	県外から転入(n=71)	57.7	26.8	35.2	7.0	31.0	32.4	15.5	28.2	12.7	14.1	8.5	4.2	0.0

問12 あなたは、市の農林業を振興するために、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（〇は3つまで）

農林業振興のために力を入れるべきことについては、「農林業後継者の育成」が60.3%と最も高く、次いで「農業法人など新たな経営主体・経営手法の推進」が28.8%、「観光農園や体験農園などによる直売やインターネットなどを利用した販路拡大」が24.6%となっている。



	n	%
農林業後継者の育成	316	60.3
農業法人など新たな経営主体・経営手法の推進	151	28.8
観光農園や体験農園などによる直売やインターネットなどを利用した販路拡大	129	24.6
ワインやこころ柿など特産品のブランド化と販売促進	124	23.7
森林の整備を担うべき人材の育成及び確保	113	21.6
高品質果樹の栽培や通年性を高めるなど更なる果樹産地化の推進	92	17.6
農地の流動化など専業農家の規模拡大の推進	91	17.4
地元生産物を地元で消費する地産地消の促進	88	16.8
農道や林道、水路など生産基盤の充実	77	14.7
森林の間伐事業や保全活動などの推進	67	12.8
共撰所などの集出荷施設や農産物加工施設などの充実	60	11.5
森林のレクリエーション・保養の場としての整備活用	57	10.9
その他	10	1.9
無回答	6	1.1
	524	100.0

前回調査からの変化

「観光農園や体験農園などによる直売やインターネットなどを利用した販路拡大」が前回よりも6.1ポイント増加した。

一方で、「ワインやこころ柿など特産品のブランド化と販売促進」が5.5ポイント減少、「高品質果樹の栽培や通年性を高めるなど更なる果樹産地化の推進」が4.5ポイント減少した。

(%)

	今回 (A) (n=524)	前回 (B) 平成 28 年 (n=1,015)	比較変化 (A-B)
農林業後継者の育成	60.3	61.5	-1.2
農業法人など新たな経営主体・経営手法の推進	28.8	28.8	0.0
観光農園や体験農園などによる直売やインターネットなどを利用した販路拡大	24.6	18.5	6.1
ワインやこころ柿など特産品のブランド化と販売促進	23.7	29.2	-5.5
森林の整備を担うべき人材の育成及び確保	21.6	-	-
高品質果樹の栽培や通年性を高めるなど更なる果樹産地化の推進	17.6	22.1	-4.5
農地の流動化など専業農家の規模拡大の推進	17.4	15.8	1.6
地元生産物を地元で消費する地産地消の促進	16.8	17.2	-0.4
農道や林道、水路など生産基盤の充実	14.7	16.1	-1.4
森林の間伐事業や保全活動などの推進	12.8	12.7	0.1
共撰所などの集出荷施設や農産物加工施設などの充実	11.5	10.5	1.0
森林のレクリエーション・保養の場としての整備活用	10.9	9.8	1.1

※「森林の整備を担うべき人材の育成及び確保」については、今回新たに追加された項目のため、比較不可

属性別の傾向

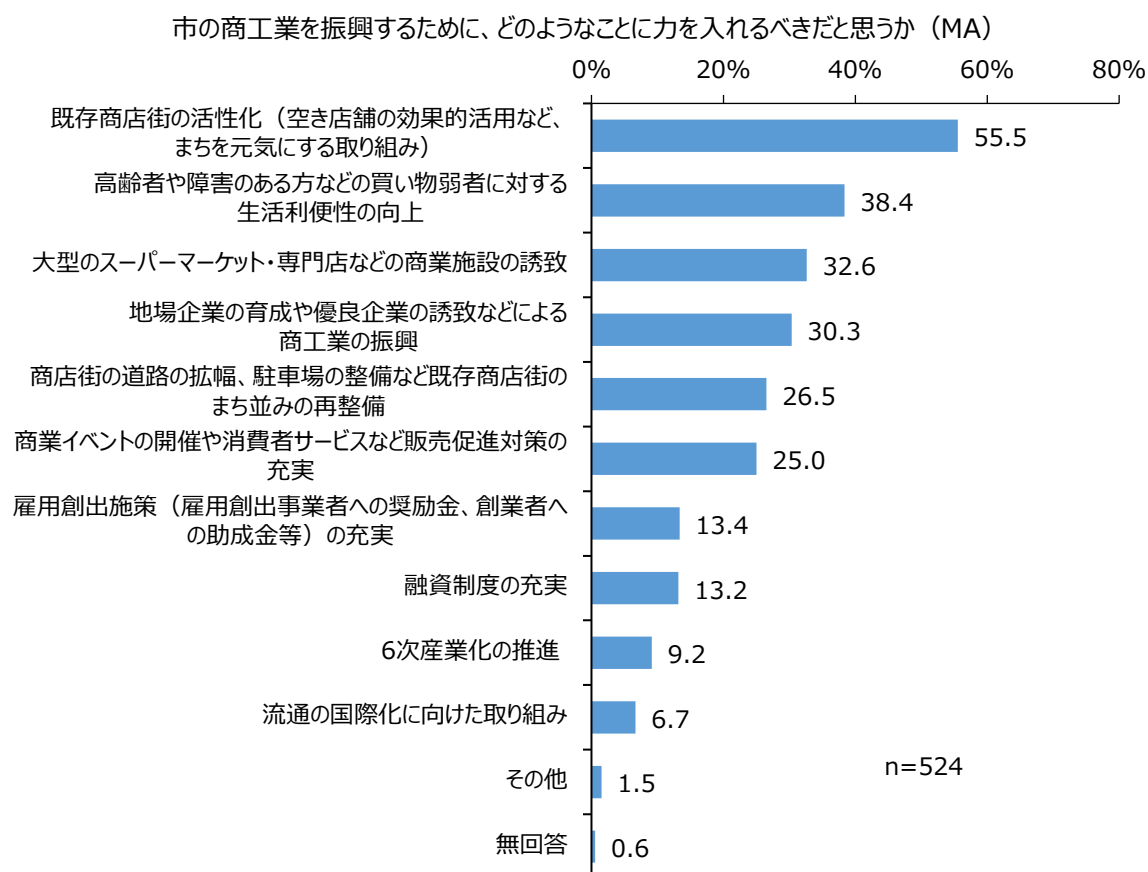
いずれの属性においても、「農林業後継者の育成」が最も高くなっている。

(%)

		農地の流動化など専業農家の規模拡大の推進	農林業後継者の育成	農業法人など新たな経営主体・経営手法の推進	農道や林道、水路など生産基盤の充実	共撰所などの集出荷施設や農産物加工施設などの充実	高品質果樹の栽培や通年性を高めるなど更なる果樹産地化の推進	ワインやこころ柿など特産品のブランド化と販売促進	観光農園や体験農園などによる直売やインターネットなどを利用した販路拡大	森林の間伐事業や保全活動などの推進	森林の整備を担うべき人材の育成及び確保	森林のレクリエーション・保養の場としての整備活用	地元生産物を地元で消費する地産地消の促進	その他	無回答
性別	女性(n=276)	13.8	64.1	29.0	12.3	13.8	15.2	21.7	27.5	10.5	23.6	9.1	18.8	1.8	1.4
	男性(n=239)	21.8	56.1	28.9	18.0	8.8	20.5	25.9	21.8	15.1	19.2	13.4	14.6	2.1	0.8
	その他(n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	答えたくない(n=6)	16.7	33.3	16.7	0.0	16.7	0.0	33.3	16.7	16.7	16.7	0.0	16.7	0.0	0.0
年齢	10・20 歳代(n=75)	17.3	66.7	25.3	12.0	8.0	8.0	33.3	32.0	12.0	17.3	13.3	17.3	0.0	1.3
	30 歳代(n=53)	24.5	64.2	30.2	17.0	3.8	13.2	26.4	34.0	13.2	17.0	7.5	11.3	1.9	0.0
	40 歳代(n=88)	17.0	59.1	25.0	12.5	15.9	13.6	30.7	33.0	13.6	19.3	12.5	15.9	2.3	0.0
	50 歳代(n=139)	18.7	58.3	23.0	15.1	12.2	20.1	20.9	25.2	10.8	23.0	11.5	13.7	3.6	0.7
	60 歳代(n=160)	15.0	57.5	36.3	15.6	13.1	23.1	17.5	14.4	13.8	25.6	10.0	21.3	1.3	1.9
	70 歳以上(n=6)	0.0	66.7	33.3	33.3	0.0	16.7	16.7	0.0	16.7	16.7	0.0	33.3	0.0	16.7
居住地区	塩山地域(n=362)	15.2	60.5	27.6	14.6	11.3	16.6	25.4	23.5	13.8	22.7	11.3	20.2	1.7	1.1
	勝沼地域(n=135)	25.2	59.3	31.9	14.1	13.3	20.7	21.5	25.9	8.9	15.6	8.9	8.1	3.0	1.5
	大和地域(n=23)	8.7	60.9	26.1	21.7	4.3	13.0	13.0	34.8	17.4	39.1	17.4	13.0	0.0	0.0
居住歴	市内居住のみ(n=145)	20.0	55.9	24.1	16.6	11.0	22.8	25.5	19.3	14.5	15.9	15.2	15.2	2.1	0.7
	市外居住経験(n=162)	15.4	61.7	35.8	10.5	11.1	14.8	21.0	25.3	16.0	24.1	8.6	21.0	1.2	1.9
	県内から転入(n=143)	16.8	63.6	25.2	17.5	15.4	14.0	24.5	25.9	10.5	19.6	10.5	13.3	0.7	1.4
	県外から転入(n=71)	18.3	59.2	28.2	15.5	5.6	19.7	25.4	31.0	7.0	32.4	8.5	16.9	5.6	0.0

問13 あなたは、市の商工業を振興するために、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（〇は3つまで）

商工業の振興のために力を入れるべきことについては、「既存商店街の活性化（空き店舗の効果的活用など、まちを元気にする取り組み）」が55.5%と最も高く、「高齢者や障害のある方などの買い物弱者に対する生活利便性の向上」が38.4%、「大型のスーパーマーケット・専門店などの商業施設の誘致」が32.6%となっている。



	n	%
既存商店街の活性化（空き店舗の効果的活用など、まちを元気にする取り組み）	291	55.5
高齢者や障害のある方などの買い物弱者に対する生活利便性の向上	201	38.4
大型のスーパーマーケット・専門店などの商業施設の誘致	171	32.6
地場企業の育成や優良企業の誘致などによる商工業の振興	159	30.3
商店街の道路の拡幅、駐車場の整備など既存商店街のまち並みの再整備	139	26.5
商業イベントの開催や消費者サービスなど販売促進対策の充実	131	25.0
雇用創出施策（雇用創出事業者への奨励金、創業者への助成金等）の充実	70	13.4
融資制度の充実	69	13.2
6次産業化の推進	48	9.2
流通の国際化に向けた取り組み	35	6.7
その他	8	1.5
無回答	3	0.6
	524	100.0

前回調査からの変化

上位の4項目は、一部順位は異なるものの前回と同じとなった。なお、全体的にポイントが増加しているが、前回と選択可能数が異なる（前回：2つ→今回：3つ）ことによるものである。

(%)

	今回 (A) (n=524)	前回 (B) 平成 28 年 (n=1,015)	比較変化 (A-B)
既存商店街の活性化（空き店舗の効果的活用など、まちを元気にする取り組み）	55.5	48.4	7.1
高齢者や障害のある方などの買い物弱者に対する生活利便性の向上	38.4	35.3	3.1
大型のスーパーマーケット・専門店などの商業施設の誘致	32.6	21.6	11.0
地場企業の育成や優良企業の誘致などによる商工業の振興	30.3	26.6	3.7
商店街の道路の拡幅、駐車場の整備など既存商店街のまち並みの再整備	26.5	18.3	8.2
商業イベントの開催や消費者サービスなど販売促進対策の充実	25.0	18.5	6.5
雇用創出施策（雇用創出事業者への奨励金、創業者への助成金等）の充実	13.4	10.4	3.0
融資制度の充実	13.2	11.2	2.0
6次産業化の推進	9.2	-	-
流通の国際化に向けた取り組み	6.7	-	-

※「6次産業化の推進」と「流通の国際化に向けた取り組み」については、今回新たに追加された項目のため、比較不可

属性別の傾向

性別でみると、「既存商店街の活性化（空き店舗の効果的活用など、まちを元気にする取り組み）」について、男性よりも女性の方が20ポイント以上高くなっている。

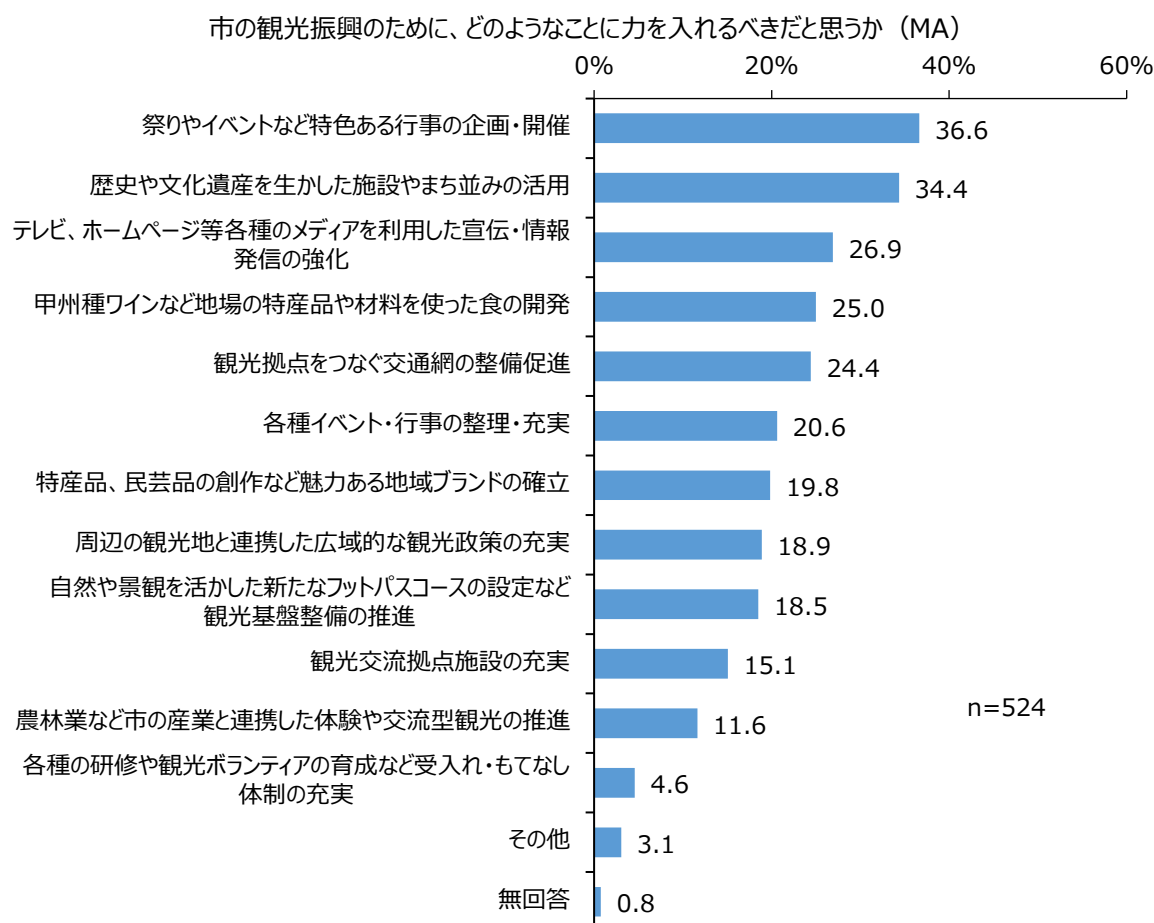
年齢別では、60歳以上において「高齢者や障害のある方などの買い物弱者に対する生活利便性の向上」の割合が高くなっている。

(%)

		融資制度の充実	既存商店街の活性化（空き店舗の効果的活用など、まちを元気にする取り組み）	既存商店街のまち並みの再整備	商店街の道路の拡幅、駐車場の整備など	ど販売促進対策の充実	商業イベントの開催や消費者サービスなど	地場企業の育成や優良企業の誘致などによる商工業の振興	雇用創出施策（雇用創出事業者への奨励金、創業者への助成金等）の充実	大型のスーパーマーケット・専門店などの商業施設の誘致	高齢者や障害のある方などの買い物弱者に対する生活利便性の向上	6次産業化の推進	流通の国際化に向けた取り組み	その他	無回答
性別	女性(n=276)	9.4	65.6	29.0	26.4	26.8	8.3	33.0	40.6	6.2	6.5	1.8	0.7		
	男性(n=239)	17.6	43.5	23.8	23.4	34.7	19.7	32.6	36.8	13.0	7.1	1.3	0.4		
	その他(n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	答えたくない(n=6)	16.7	83.3	33.3	0.0	16.7	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0		
年齢	10・20歳代(n=75)	13.3	54.7	33.3	26.7	25.3	9.3	44.0	24.0	14.7	10.7	1.3	1.3		
	30歳代(n=53)	15.1	58.5	26.4	26.4	30.2	7.5	47.2	28.3	7.5	13.2	1.9	0.0		
	40歳代(n=88)	12.5	63.6	33.0	20.5	30.7	11.4	30.7	33.0	6.8	9.1	1.1	0.0		
	50歳代(n=139)	14.4	50.4	20.9	28.8	25.2	17.3	35.3	37.4	7.9	5.0	2.2	0.7		
	60歳代(n=160)	12.5	55.6	25.6	22.5	36.9	14.4	21.3	51.3	9.4	3.1	1.3	0.6		
	70歳以上(n=6)	0.0	33.3	16.7	33.3	33.3	16.7	16.7	66.7	16.7	0.0	0.0	0.0		
居住地区	塩山地域(n=362)	12.2	60.5	28.2	23.8	30.4	11.9	31.2	38.4	9.4	6.9	1.9	0.3		
	勝沼地域(n=135)	16.3	45.2	23.0	24.4	30.4	15.6	34.8	39.3	7.4	7.4	0.7	1.5		
	大和地域(n=23)	13.0	43.5	26.1	43.5	26.1	26.1	34.8	39.1	13.0	0.0	0.0	0.0		
居住歴	市内居住のみ(n=145)	13.8	52.4	27.6	31.0	26.9	11.7	32.4	40.7	9.0	7.6	1.4	0.0		
	市外居住経験(n=162)	15.4	55.6	25.9	20.4	35.8	14.8	29.0	41.4	9.9	6.8	1.2	1.2		
	県内から転入(n=143)	10.5	55.2	26.6	25.2	30.1	12.6	37.1	32.9	5.6	4.2	0.7	0.7		
	県外から転入(n=71)	12.7	63.4	26.8	22.5	23.9	15.5	29.6	39.4	14.1	9.9	4.2	0.0		

問14 あなたは、市の観光振興のために、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。
(〇は3つまで)

観光振興のために力を入れるべきことは、「祭りやイベントなど特色ある行事の企画・開催」が36.6%と最も高く、次いで「歴史や文化遺産を生かした施設やまち並みの活用」が34.4%、「テレビ、ホームページ等各種のメディアを利用した宣伝・情報発信の強化」が26.9%となっている。



	n	%
祭りやイベントなど特色ある行事の企画・開催	192	36.6
歴史や文化遺産を生かした施設やまち並みの活用	180	34.4
テレビ、ホームページ等各種のメディアを利用した宣伝・情報発信の強化	141	26.9
甲州種ワインなど地場の特産品や材料を使った食の開発	131	25.0
観光拠点をつなぐ交通網の整備促進	128	24.4
各種イベント・行事の整理・充実	108	20.6
特産品、民芸品の創作など魅力ある地域ブランドの確立	104	19.8
周辺の観光地と連携した広域的な観光政策の充実	99	18.9
自然や景観を活かした新たなフットパスコースの設定など観光基盤整備の推進	97	18.5
観光交流拠点施設の充実	79	15.1
農林業など市の産業と連携した体験や交流型観光の推進	61	11.6
各種の研修や観光ボランティアの育成など受入れ・もてなし体制の充実	24	4.6
その他	16	3.1
無回答	4	0.8
	524	100.0

前回調査からの変化

「祭りやイベントなど特色ある行事の企画・開催」が前回から7.7ポイント増加した。

(%)

	今回 (A) (n=524)	前回 (B) 平成 28 年 (n=1,015)	比較変化 (A-B)
祭りやイベントなど特色ある行事の企画・開催	36.6	28.9	7.7
歴史や文化遺産を生かした施設やまち並みの活用	34.4	37.6	-3.2
テレビ、ホームページ等各種のメディアを利用した宣伝・情報発信の強化	26.9	27.5	-0.6
甲州種ワインなど地場の特産品や材料を使った食の開発	25.0	22.5	2.5
観光拠点をつなぐ交通網の整備促進	24.4	27.1	-2.7
各種イベント・行事の整理・充実	20.6	-	-
特産品、民芸品の創作など魅力ある地域ブランドの確立	19.8	22.5	-2.7
周辺の観光地と連携した広域的な観光政策の充実	18.9	23.0	-4.1
自然や景観を活かした新たなフットパスコースの設定など観光基盤整備の推進	18.5	22.7	-4.2
観光交流拠点施設の充実	15.1	16.6	-1.5
農林業など市の産業と連携した体験や交流型観光の推進	11.6	16.3	-4.7
各種の研修や観光ボランティアの育成など受入れ・もてなし体制の充実	4.6	9.2	-4.6

※「各種イベント・行事の整理・充実」については、今回新たに追加された項目のため、比較不可

属性別の傾向

年齢別でみると、10～40歳代までは「祭りやイベントなど特色ある行事の企画・開催」が最も高くなっているが、50歳以上では「歴史や文化遺産を生かした施設やまち並みの活用」が最も高くなっている。

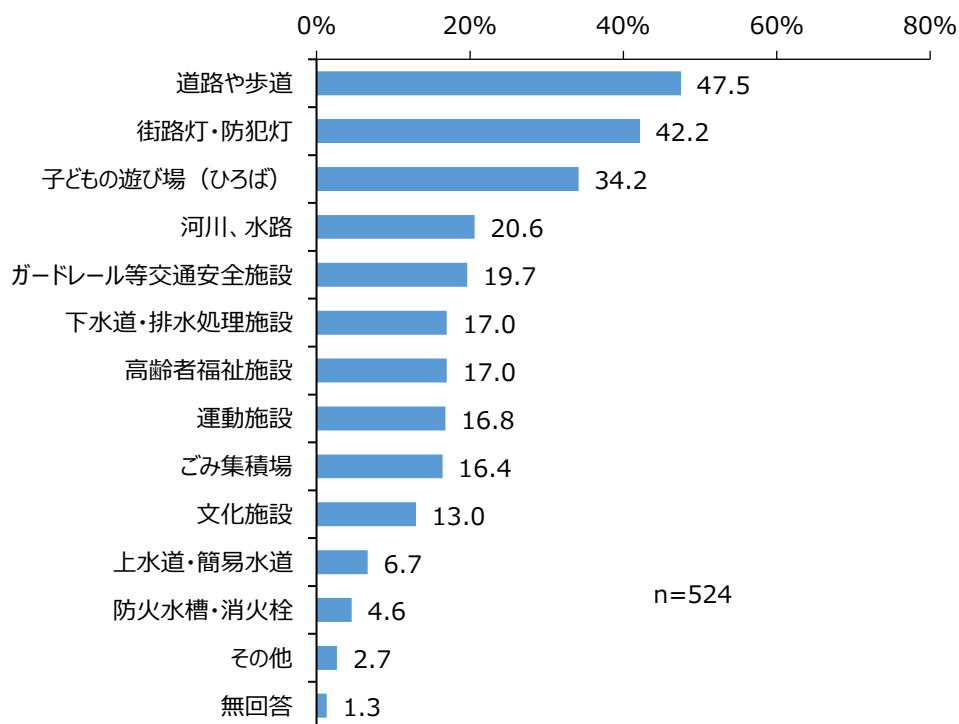
(%)

		コースの設定など観光基盤整備の推進	自然や景観を活かした新たなフットパスの活用	歴史や文化遺産を生かした施設やまち並みの活用	各種イベント・行事の整理・充実	祭りやイベントなど特色ある行事の企画・開催	甲州種ワインなど地場の特産品や材料を使った食の開発	特産品、民芸品の創作など魅力ある地域ブランドの確立	観光交流拠点施設の充実	観光拠点をつなぐ交通網の整備促進	各種の研修や観光ボランティアの育成など受入れ・もてなし体制の充実	テレビ、ホームページ等各種のメディアを利用した宣伝・情報発信の強化	農林業など市の産業と連携した体験や交流型観光の推進	周辺の観光地と連携した広域的な観光政策の充実	その他	無回答
性別	女性(n=276)	17.4	34.8	21.7	37.0	23.2	19.2	13.0	27.2	4.3	29.3	12.0	19.2	1.8	1.1	
	男性(n=239)	20.1	34.7	19.2	36.8	27.2	20.1	17.6	21.8	5.0	24.3	10.9	18.8	4.2	0.4	
	その他(n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	答えたくない(n=6)	16.7	0.0	16.7	16.7	16.7	0.0	16.7	16.7	0.0	33.3	16.7	16.7	16.7	0.0	
年齢	10・20 歳代(n=75)	18.7	29.3	20.0	49.3	32.0	24.0	10.7	22.7	5.3	30.7	4.0	13.3	4.0	1.3	
	30 歳代(n=53)	15.1	20.8	37.7	50.9	28.3	20.8	22.6	24.5	3.8	24.5	7.5	13.2	1.9	0.0	
	40 歳代(n=88)	21.6	38.6	22.7	43.2	34.1	20.5	10.2	19.3	1.1	27.3	12.5	13.6	2.3	0.0	
	50 歳代(n=139)	14.4	33.1	16.5	30.2	18.7	20.9	16.5	26.6	5.8	27.3	12.2	25.9	2.9	0.7	
	60 歳代(n=160)	21.9	38.8	18.1	29.4	21.9	15.6	16.3	26.9	5.6	25.0	13.8	20.6	3.8	1.3	
	70 歳以上(n=6)	16.7	66.7	0.0	16.7	0.0	16.7	16.7	16.7	0.0	33.3	33.3	16.7	0.0	0.0	
居住地区	塩山地域(n=362)	15.5	34.5	18.8	38.4	25.7	20.7	15.5	25.1	4.1	27.6	12.2	20.7	2.5	0.6	
	勝沼地域(n=135)	23.7	34.8	23.7	31.9	23.7	16.3	14.1	24.4	4.4	25.9	10.4	14.8	5.2	1.5	
	大和地域(n=23)	39.1	30.4	30.4	39.1	17.4	17.4	17.4	17.4	13.0	21.7	4.3	17.4	0.0	0.0	
居住歴	市内居住のみ(n=145)	14.5	34.5	20.0	38.6	21.4	25.5	14.5	24.8	3.4	27.6	9.0	17.9	4.1	0.0	
	市外居住経験(n=162)	19.1	37.7	21.6	33.3	27.8	17.9	21.0	19.8	6.2	29.6	7.4	21.6	1.9	1.2	
	県内から転入(n=143)	18.9	29.4	20.3	37.8	23.1	20.3	10.5	28.0	4.2	25.2	13.3	16.8	2.1	1.4	
	県外から転入(n=71)	25.4	38.0	19.7	39.4	28.2	9.9	12.7	28.2	4.2	22.5	21.1	19.7	5.6	0.0	

問15 あなたのまわりの身近な生活環境を改善しようとする場合、どのような施設の整備が必要だと思いますか。（〇は3つまで）

生活環境の改善に必要な施設の整備について、「道路や歩道」が47.5%と最も高く、次いで「街路灯・防犯灯」が42.2%、「子どもの遊び場（ひろば）」が34.2%となっている。

身近な生活環境を改善しようとする場合、どのような施設の整備が必要だと思うか（MA）



	n	%
道路や歩道	249	47.5
街路灯・防犯灯	221	42.2
子どもの遊び場（ひろば）	179	34.2
河川、水路	108	20.6
ガードレール等交通安全施設	103	19.7
下水道・排水処理施設	89	17.0
高齢者福祉施設	89	17.0
運動施設	88	16.8
ごみ集積場	86	16.4
文化施設	68	13.0
上水道・簡易水道	35	6.7
防火水槽・消火栓	24	4.6
その他	14	2.7
無回答	7	1.3
	524	100.0

前回調査からの変化

「子どもの遊び場（ひろば）」が前回から8.3ポイント増加したほか、「河川、水路」が4.3ポイント、「ガードレール等交通安全施設」が4.8ポイント、「運動施設」が3.3ポイント、「ごみ集積場」が4.7ポイント増加した。

一方、「高齢者福祉施設」は4.0ポイント減少した。

(%)

	今回 (A) (n=524)	前回 (B) 平成 28 年 (n=1,015)	比較変化 (A-B)
道路や歩道	47.5	47.9	-0.4
街路灯・防犯灯	42.2	43.1	-0.9
子どもの遊び場（ひろば）	34.2	25.9	8.3
河川、水路	20.6	16.3	4.3
ガードレール等交通安全施設	19.7	14.9	4.8
高齢者福祉施設	17.0	21.0	-4.0
下水道・排水処理施設	17.0	16.2	0.8
運動施設	16.8	13.5	3.3
ごみ集積場	16.4	11.7	4.7
文化施設	13.0	10.4	2.6
上水道・簡易水道	6.7	4.7	2.0
防火水槽・消火栓	4.6	3.8	0.8

属性別の傾向

性別でみると、女性より男性の方が「河川、水路」が14.0ポイント高くなっている。また「街路灯・防犯灯」については、女性の方が約13ポイント高い。

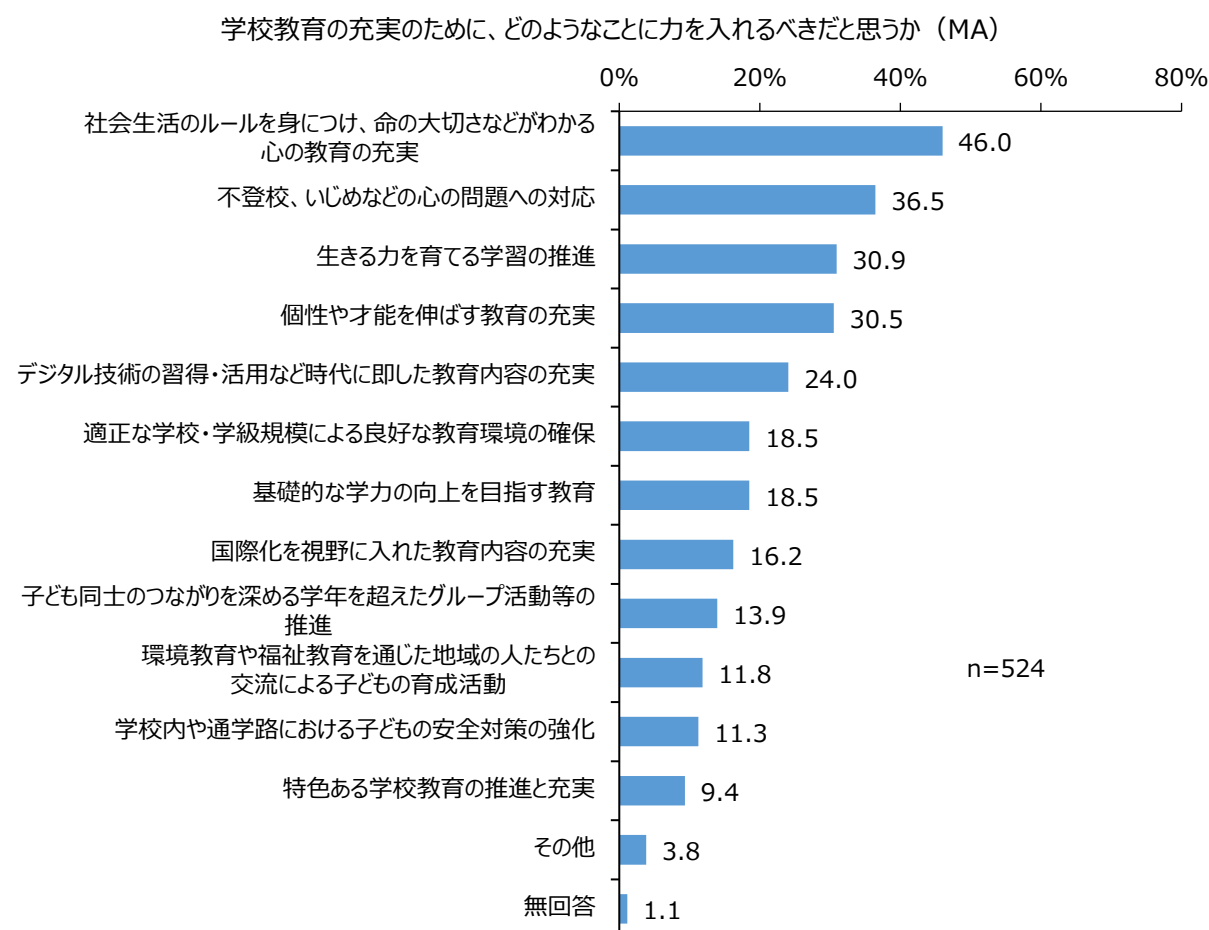
年齢別でみると、全体的に「道路や歩道」が高くなっているものの、10～30歳代では「街路灯・防犯灯」が最も高くなっている。また30歳代では「子どもの遊び場（ひろば）」も高くなっている。

(%)

		道路や歩道	河川、水路	ガードレール等交通安全施設	上水道・簡易水道	下水道・排水処理施設	子どもの遊び場（ひろば）	文化施設	運動施設	高齢者福祉施設	街路灯・防犯灯	防火水槽・消火栓	ごみ集積場	その他	無回答
性別	女性(n=276)	48.2	14.5	22.8	5.8	15.9	36.2	13.8	14.5	16.7	47.8	2.9	15.6	2.5	0.7
	男性(n=239)	46.9	28.5	16.7	7.9	18.0	31.4	12.6	18.8	18.0	35.1	6.7	17.6	2.9	1.7
	その他(n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	答えたくない(n=6)	50.0	0.0	0.0	0.0	16.7	33.3	0.0	33.3	0.0	50.0	0.0	16.7	0.0	16.7
年齢	10・20 歳代(n=75)	49.3	18.7	22.7	2.7	9.3	37.3	17.3	21.3	10.7	50.7	1.3	13.3	1.3	1.3
	30 歳代(n=53)	43.4	22.6	20.8	5.7	15.1	47.2	9.4	22.6	11.3	47.2	5.7	15.1	1.9	0.0
	40 歳代(n=88)	47.7	20.5	26.1	8.0	20.5	37.5	14.8	18.2	9.1	33.0	8.0	13.6	0.0	2.3
	50 歳代(n=139)	48.9	16.5	16.5	9.4	15.1	30.2	11.5	15.8	19.4	45.3	3.6	17.3	3.6	1.4
	60 歳代(n=160)	46.9	24.4	18.1	5.6	20.0	30.6	13.1	13.1	23.8	38.1	4.4	20.0	4.4	1.3
	70 歳以上(n=6)	66.7	33.3	0.0	16.7	16.7	16.7	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
居住地区	塩山地域(n=362)	49.4	21.3	20.4	5.0	16.3	34.3	13.3	16.6	16.0	43.1	4.4	20.2	2.2	1.7
	勝沼地域(n=135)	42.2	20.0	16.3	12.6	20.0	32.6	14.1	16.3	20.0	41.5	4.4	9.6	4.4	0.7
	大和地域(n=23)	47.8	13.0	30.4	0.0	8.7	39.1	4.3	21.7	17.4	26.1	8.7	0.0	0.0	0.0
居住歴	市内居住のみ(n=145)	47.6	22.1	22.1	9.7	16.6	32.4	14.5	17.9	17.2	44.1	5.5	15.9	1.4	0.7
	市外居住経験(n=162)	51.2	24.1	18.5	6.2	17.9	34.6	12.3	16.7	19.8	35.2	4.3	13.6	3.7	1.9
	県内から転入(n=143)	46.2	16.8	19.6	4.2	13.3	37.1	9.1	14.0	15.4	43.4	4.2	22.4	2.1	1.4
	県外から転入(n=71)	42.3	16.9	18.3	7.0	22.5	31.0	19.7	19.7	14.1	49.3	4.2	12.7	4.2	1.4

問16 あなたは、学校教育の充実のために、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。
(○は3つまで)

学校教育の充実のために力を入れるべきことについて、「社会生活のルールを身につけ、命の大切さなどがわかる心の教育の充実」が46.0%と最も高く、「不登校、いじめなどの心の問題への対応」が36.5%、「生きる力を育てる学習の推進」が30.9%となっている。



	n	%
社会生活のルールを身につけ、命の大切さなどがわかる心の教育の充実	241	46.0
不登校、いじめなどの心の問題への対応	191	36.5
生きる力を育てる学習の推進	162	30.9
個性や才能を伸ばす教育の充実	160	30.5
デジタル技術の習得・活用など時代に即した教育内容の充実	126	24.0
適正な学校・学級規模による良好な教育環境の確保	97	18.5
基礎的な学力の向上を目指す教育	97	18.5
国際化を視野に入れた教育内容の充実	85	16.2
子ども同士のつながりを深める学年を超えたグループ活動等の推進	73	13.9
環境教育や福祉教育を通じた地域の人たちとの交流による子どもの育成活動	62	11.8
学校内や通学路における子どもの安全対策の強化	59	11.3
特色ある学校教育の推進と充実	49	9.4
その他	20	3.8
無回答	6	1.1
	524	100.0

前回調査からの変化

「社会生活のルールを身につけ、命の大切さなどがわかる心の教育の充実」が8.8ポイント減少し、「基礎的な学力の向上を目指す教育」も5.7ポイント減少した。

一方、「個性や才能を伸ばす教育の充実」が3.6ポイント増加、「デジタル技術の習得・活用など時代に即した教育内容の充実」が7.6ポイント増加した。

(%)

	今回 (A) (n=524)	前回 (B) 平成 28 年 (n=1,015)	比較変化 (A-B)
社会生活のルールを身につけ、命の大切さなどがわかる心の教育の充実	46.0	54.8	-8.8
不登校、いじめなどの心の問題への対応	36.5	35.8	0.7
生きる力を育てる学習の推進	30.9	31.5	-0.6
個性や才能を伸ばす教育の充実	30.5	26.9	3.6
デジタル技術の習得・活用など時代に即した教育内容の充実	24.0	16.4	7.6
基礎的な学力の向上を目指す教育	18.5	24.2	-5.7
適正な学校・学級規模による良好な教育環境の確保	18.5	16.9	1.6
国際化を視野に入れた教育内容の充実	16.2	16.7	-0.5
子ども同士のつながりを深める学年を超えたグループ活動等の推進	13.9	16.7	-2.8
環境教育や福祉教育を通じた地域の人たちとの交流による子どもの育成活動	11.8	11.4	0.4
学校内や通学路における子どもの安全対策の強化	11.3	13.7	-2.4
特色ある学校教育の推進と充実	9.4	10.6	-1.2

※前回「コンピューターやインターネットなど時代に即した教育内容の充実」→今回「デジタル技術の習得・活用など時代に即した教育内容の充実」に変更している。

属性別の傾向

年齢別でみると、10・20歳代、40歳代では「不登校、いじめなどの心の問題への対応」が最も高くなっている。

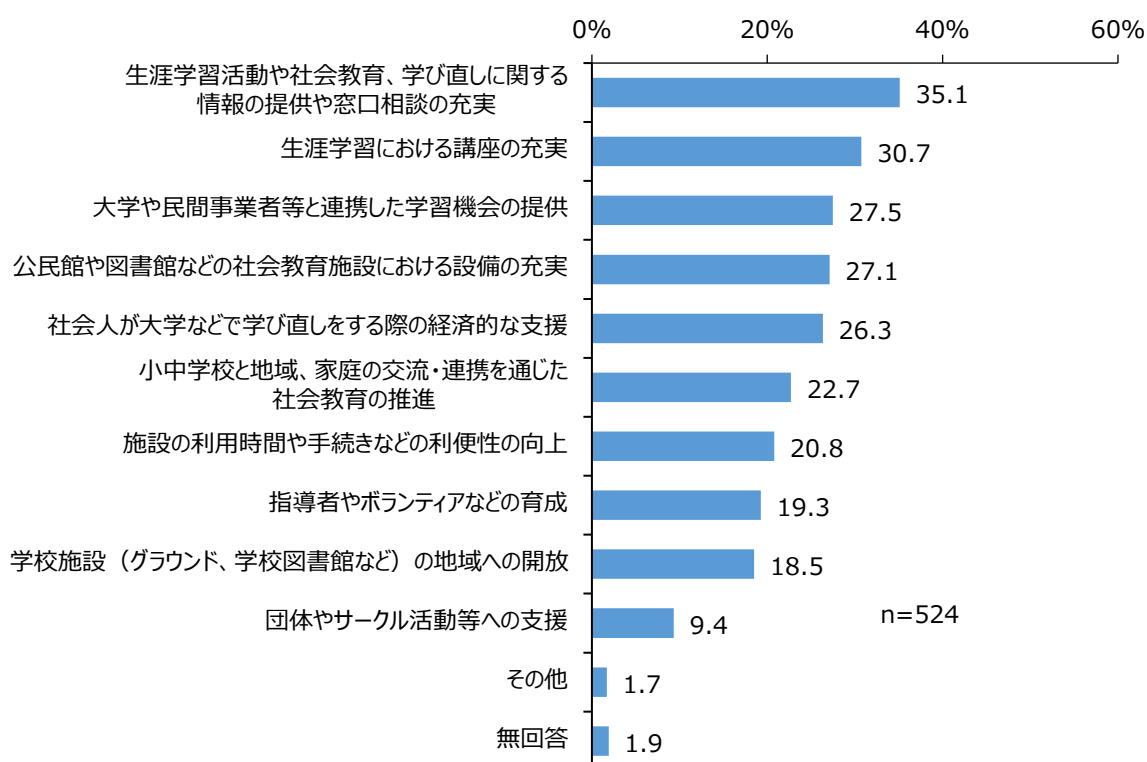
(%)

		生きる力を育てる学習の推進	適正な学校・学級規模による良好な教育環境の確保	特色ある学校教育の推進と充実	社会生活のルールを身につけ、命の大切さなどがわかる心の教育の充実	デジタル技術の習得・活用など時代に即した教育内容の充実	個性や才能を伸ばす教育の充実	国際化を視野に入れた教育内容の充実	子ども同士のつながりを深める学年を超えたグループ活動等の推進	環境教育や福祉教育を通じた地域の人たちの交流による子どもの育成活動	基礎的な学力の向上を目指す教育	不登校、いじめなどの心の問題への対応	学校内や通学路における子どもの安全対策の強化	その他	無回答
性別	女性(n=276)	33.7	17.0	6.9	50.0	19.9	32.6	14.5	14.1	9.8	19.2	41.7	12.7	3.3	0.4
	男性(n=239)	27.2	20.5	11.7	42.3	28.9	27.6	18.4	13.4	14.2	18.0	31.0	10.0	4.6	2.1
	その他(n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	答えたくない(n=6)	16.7	16.7	33.3	16.7	16.7	33.3	16.7	0.0	16.7	16.7	33.3	0.0	0.0	0.0
年齢	10・20 歳代(n=75)	26.7	21.3	9.3	32.0	25.3	37.3	14.7	14.7	13.3	17.3	44.0	8.0	2.7	0.0
	30 歳代(n=53)	43.4	9.4	3.8	50.9	30.2	32.1	18.9	9.4	9.4	20.8	30.2	15.1	7.5	0.0
	40 歳代(n=88)	33.0	15.9	15.9	37.5	29.5	33.0	21.6	19.3	5.7	10.2	38.6	13.6	4.5	0.0
	50 歳代(n=139)	30.9	18.7	6.5	48.9	20.9	24.5	15.8	11.5	11.5	18.0	36.7	10.1	5.0	0.0
	60 歳代(n=160)	26.9	21.9	10.6	52.5	20.6	31.3	13.8	13.8	15.0	21.3	34.4	11.9	1.9	0.0
	70 歳以上(n=6)	16.7	16.7	0.0	50.0	50.0	0.0	16.7	16.7	33.3	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0
居住地区	塩山地域(n=362)	30.1	18.2	9.7	47.8	23.2	31.5	15.5	13.3	11.9	16.6	38.4	12.2	4.1	1.1
	勝沼地域(n=135)	31.1	20.0	8.1	42.2	26.7	25.9	16.3	15.6	13.3	21.5	34.1	8.1	3.7	1.5
	大和地域(n=23)	34.8	13.0	13.0	39.1	21.7	39.1	30.4	8.7	4.3	30.4	26.1	17.4	0.0	0.0
居住歴	市内居住のみ(n=145)	30.3	23.4	8.3	46.2	20.0	25.5	15.2	12.4	9.7	17.9	46.2	10.3	3.4	1.4
	市外居住経験(n=162)	29.6	19.1	8.6	44.4	30.2	35.2	17.3	11.1	15.4	17.9	31.5	9.9	3.7	1.9
	県内から転入(n=143)	31.5	11.9	6.3	48.3	20.3	32.9	14.0	15.4	9.8	21.0	38.5	14.7	4.2	0.0
	県外から転入(n=71)	32.4	19.7	19.7	43.7	26.8	23.9	21.1	19.7	12.7	15.5	25.4	9.9	4.2	1.4

問17 あなたは、生涯学習活動や社会教育、社会人の学び直しを推進するために、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（〇は3つまで）

生涯学習活動などを推進するために力を入れるべきことについて、「生涯学習活動や社会教育、学び直しに関する情報の提供や窓口相談の充実」が35.1%と最も高く、次いで「生涯学習における講座の充実」が30.7%、「大学や民間事業者等と連携した学習機会の提供」が27.5%となっている。

生涯学習活動や社会教育、社会人の学び直しを推進するために、
どのようなことに力を入れるべきだと思うか（MA）



	n	%
生涯学習活動や社会教育、学び直しに関する情報の提供や窓口相談の充実	184	35.1
生涯学習における講座の充実	161	30.7
大学や民間事業者等と連携した学習機会の提供	144	27.5
公民館や図書館などの社会教育施設における設備の充実	142	27.1
社会人が大学などで学び直しをする際の経済的な支援	138	26.3
小中学校と地域、家庭の交流・連携を通じた社会教育の推進	119	22.7
施設の利用時間や手続きなどの利便性の向上	109	20.8
指導者やボランティアなどの育成	101	19.3
学校施設（グラウンド、学校図書館など）の地域への開放	97	18.5
団体やサークル活動等への支援	49	9.4
その他	9	1.7
無回答	10	1.9
	524	100.0

※前回と設問が異なるため、比較不可

属性別の傾向

年齢別でみると、10・20歳代と40歳代においては「社会人が大学などで学び直しをする際の経済的な支援」が最も高くなっている。また50歳代では「生涯学習における講座の充実」が最も高くなっている。

居住歴別では、県外から転入してきた方において、「生涯学習における講座の充実」が最も高くなっている。

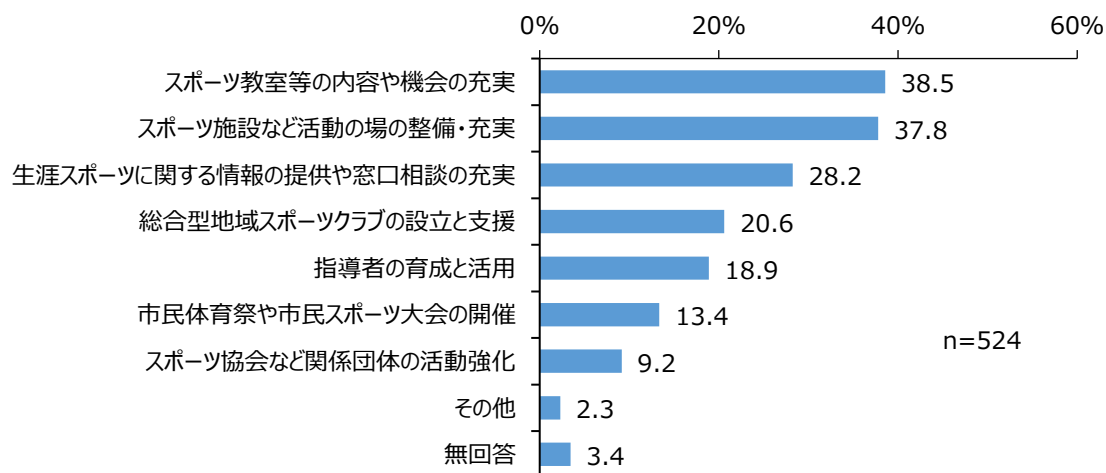
(%)

		生涯学習活動や社会教育、学び直しに関する情報の提供や窓口相談の充実	生涯学習における講座の充実	大学や民間事業者等と連携した学習機会の提供	社会人が大学などで学び直しをする際の経済的な支援	指導者やボランティアなどの育成	団体やサークル活動等への支援	小中学校と地域、家庭の交流・連携を通じた社会教育の推進	学校施設（グラウンド、学校図書館など）の地域への開放	公民館や図書館などの社会教育施設における設備の充実	施設の利用時間や手続きなどの利便性の向上	その他	無回答
性別	女性(n=276)	36.2	34.4	29.0	27.5	18.5	9.4	20.7	16.7	25.0	21.4	2.2	1.8
	男性(n=239)	34.3	27.2	25.5	25.1	20.5	9.2	25.1	20.9	29.7	19.2	1.3	2.1
	その他(n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	答えたくない(n=6)	16.7	16.7	33.3	16.7	0.0	0.0	16.7	16.7	33.3	50.0	0.0	0.0
年齢	10・20 歳代(n=75)	29.3	14.7	29.3	42.7	24.0	9.3	22.7	21.3	32.0	21.3	1.3	1.3
	30 歳代(n=53)	39.6	30.2	28.3	28.3	5.7	9.4	13.2	18.9	26.4	32.1	3.8	1.9
	40 歳代(n=88)	30.7	22.7	28.4	33.0	13.6	14.8	26.1	25.0	22.7	26.1	1.1	1.1
	50 歳代(n=139)	30.2	36.7	31.7	25.2	20.9	4.3	20.1	15.8	23.7	18.7	2.9	1.4
	60 歳代(n=160)	41.9	37.5	21.3	16.9	23.8	9.4	26.3	16.3	30.6	15.6	0.6	3.1
	70 歳以上(n=6)	50.0	50.0	33.3	0.0	0.0	33.3	16.7	16.7	16.7	33.3	0.0	0.0
居住地区	塩山地域(n=362)	36.5	32.0	27.3	26.8	16.6	8.0	22.9	19.1	27.1	22.1	1.7	1.4
	勝沼地域(n=135)	31.1	29.6	27.4	23.7	23.7	11.9	21.5	16.3	30.4	14.8	2.2	3.7
	大和地域(n=23)	39.1	21.7	30.4	34.8	34.8	8.7	26.1	21.7	13.0	30.4	0.0	0.0
居住歴	市内居住のみ(n=145)	35.2	27.6	24.8	27.6	17.9	10.3	22.1	18.6	31.0	23.4	2.8	0.7
	市外居住経験(n=162)	36.4	31.5	26.5	30.9	21.0	6.8	25.9	16.0	22.2	19.8	0.6	3.7
	県内から転入(n=143)	33.6	26.6	26.6	20.3	21.0	7.7	21.0	20.3	32.2	18.9	1.4	0.7
	県外から転入(n=71)	35.2	45.1	36.6	26.8	14.1	14.1	19.7	19.7	21.1	21.1	2.8	2.8

問18 あなたは、生涯スポーツ活動をより活発にしていくために、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（〇は2つまで）

生涯スポーツ活動を活発にするために力を入れるべきことは、「スポーツ教室等の内容や機会の充実」が38.5%と最も高く、次いで「スポーツ施設など活動の場の整備・充実」が37.8%、「生涯スポーツに関する情報の提供や窓口相談の充実」が28.2%となっている。

生涯スポーツ活動をより活発にしていくために、どのようなことに力を入れるべきだと思うか（MA）



	n	%
スポーツ教室等の内容や機会の充実	202	38.5
スポーツ施設など活動の場の整備・充実	198	37.8
生涯スポーツに関する情報の提供や窓口相談の充実	148	28.2
総合型地域スポーツクラブの設立と支援	108	20.6
指導者の育成と活用	99	18.9
市民体育祭や市民スポーツ大会の開催	70	13.4
スポーツ協会など関係団体の活動強化	48	9.2
その他	12	2.3
無回答	18	3.4
	524	100.0

前回調査からの変化

新たに項目として追加された「スポーツ協会など関係団体の活動強化」を除き、項目の順位は前回調査と同様となった。

(%)

	今回 (A) (n=524)	前回 (B) 平成 28 年 (n=1,015)	比較変化 (A-B)
スポーツ教室等の内容や機会の充実	38.5	42.2	-3.7
スポーツ施設など活動の場の整備・充実	37.8	35.9	1.9
生涯スポーツに関する情報の提供や窓口相談の充実	28.2	32.7	-4.5
総合型地域スポーツクラブ※の設立と支援	20.6	27.5	-6.9
指導者の育成と活用	18.9	21.2	-2.3
市民体育祭や市民スポーツ大会の開催	13.4	10.7	2.7
スポーツ協会など関係団体の活動強化	9.2	-	-

※「スポーツ協会など関係団体の活動強化」については、今回新たに追加された項目のため、比較不可

属性別の傾向

ほとんどの属性において、「スポーツ教室等の内容や機会の充実」と「スポーツ施設など活動の場の整備・充実」が高くなっている。

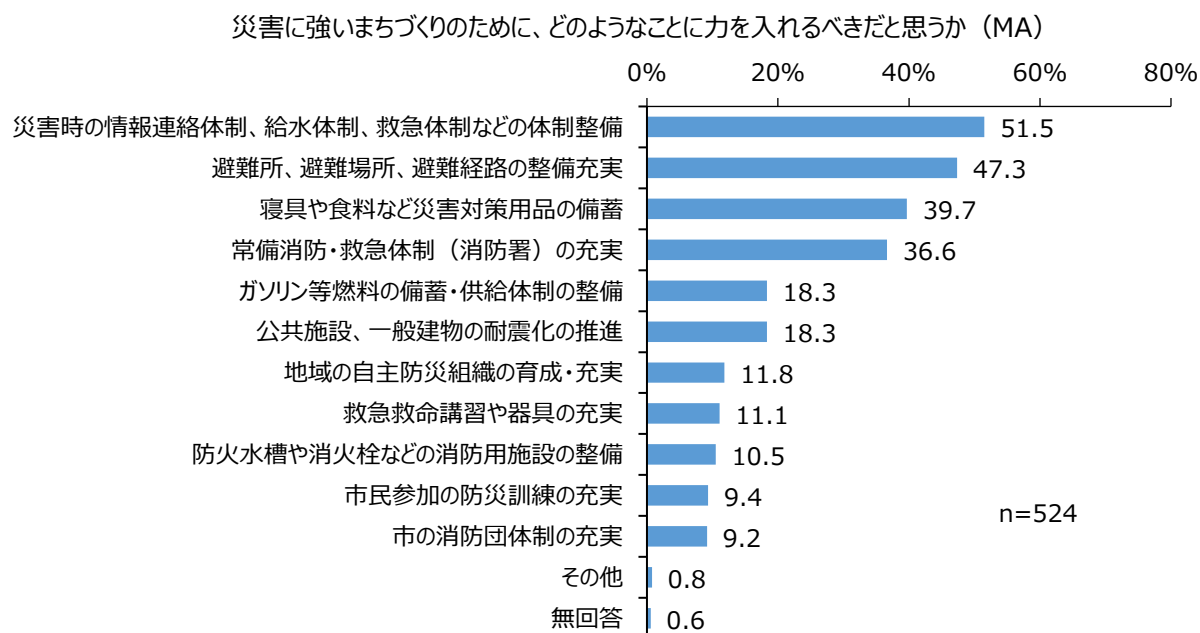
年齢別でみると、50歳代では「生涯スポーツに関する情報の提供や窓口相談の充実」が最も高くなった。

(%)

		生涯スポーツに関する情報の提供や窓口相談の充実	スポーツ教室等の内容や機会の充実	市民体育祭や市民スポーツ大会の開催	指導者の育成と活用	総合型地域スポーツクラブの設立と支援	スポーツ協会など関係団体の活動強化	スポーツ施設など活動の場の整備・充実	その他	無回答
性別	女性(n=276)	25.0	42.8	10.9	19.6	21.4	9.4	37.3	2.2	3.6
	男性(n=239)	31.0	34.7	16.3	17.6	19.7	9.2	39.3	2.1	3.3
	その他(n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	答えたくない(n=6)	66.7	0.0	16.7	33.3	16.7	0.0	0.0	16.7	0.0
年齢	10・20 歳代(n=75)	18.7	33.3	28.0	21.3	24.0	8.0	40.0	0.0	2.7
	30 歳代(n=53)	22.6	34.0	13.2	17.0	22.6	11.3	43.4	1.9	3.8
	40 歳代(n=88)	23.9	46.6	8.0	15.9	33.0	11.4	31.8	3.4	1.1
	50 歳代(n=139)	38.1	33.8	14.4	18.7	12.2	9.4	34.5	3.6	1.4
	60 歳代(n=160)	28.1	41.3	9.4	20.0	19.4	8.1	41.9	1.9	5.6
	70 歳以上(n=6)	33.3	50.0	0.0	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0	33.3
居住地区	塩山地域(n=362)	28.2	39.0	13.5	18.0	20.2	8.8	38.4	2.5	3.0
	勝沼地域(n=135)	28.9	37.0	12.6	20.7	18.5	10.4	37.0	2.2	5.2
	大和地域(n=23)	26.1	43.5	17.4	21.7	34.8	8.7	30.4	0.0	0.0
居住歴	市内居住のみ(n=145)	29.7	35.9	20.0	15.9	18.6	7.6	38.6	2.1	4.1
	市外居住経験(n=162)	22.8	43.2	10.5	21.0	18.5	12.3	41.4	1.2	3.7
	県内から転入(n=143)	35.0	30.8	11.2	19.6	20.3	8.4	35.7	1.4	2.1
	県外から転入(n=71)	23.9	49.3	11.3	18.3	29.6	7.0	31.0	7.0	4.2

問19 あなたは、災害に強いまちづくりのために、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（〇は3つまで）

災害に強いまちづくりのために力を入れるべきことは、「災害時の情報連絡体制、給水体制、救急体制などの体制整備」が51.5%と最も高く、次いで「避難所、避難場所、避難経路の整備充実」が47.3%、「寝具や食料など災害対策用品の備蓄」が39.7%となっている。



	n	%
災害時の情報連絡体制、給水体制、救急体制などの体制整備	270	51.5
避難所、避難場所、避難経路の整備充実	248	47.3
寝具や食料など災害対策用品の備蓄	208	39.7
常備消防・救急体制（消防署）の充実	192	36.6
ガソリン等燃料の備蓄・供給体制の整備	96	18.3
公共施設、一般建物の耐震化の推進	96	18.3
地域の自主防災組織の育成・充実	62	11.8
救急救命講習や器具の充実	58	11.1
防火水槽や消火栓などの消防用施設の整備	55	10.5
市民参加の防災訓練の充実	49	9.4
市の消防団体制の充実	48	9.2
その他	4	0.8
無回答	3	0.6
	524	100.0

前回調査からの変化

新たに項目として追加された「ガソリン等燃料の備蓄・供給体制の整備」を除き、上位7項目の順位は前回調査と同様となった。

比較的大きく変化した項目としては、「常備消防・救急体制（消防署）の充実」が9.6ポイント増加し、「地域の自主防災組織の育成・充実」が9.9ポイント減少した。

(%)

	今回 (A) (n=524)	前回 (B) 平成 28 年 (n=1,015)	比較変化 (A-B)
災害時の情報連絡体制、給水体制、救急体制などの体制整備	51.5	57.1	-5.6
避難所、避難場所、避難経路の整備充実	47.3	53.5	-6.2
寝具や食料など災害対策用品の備蓄	39.7	37.3	2.4
常備消防・救急体制（消防署）の充実	36.6	27.0	9.6
ガソリン等燃料の備蓄・供給体制の整備	18.3	-	-
公共施設、一般建物の耐震化の推進	18.3	22.7	-4.4
地域の自主防災組織の育成・充実	11.8	21.7	-9.9
救急救命講習や器具の充実	11.1	13.3	-2.2
防火水槽や消火栓などの消防用施設の整備	10.5	10.0	0.5
市民参加の防災訓練の充実	9.4	8.8	0.6
市の消防団体制の充実	9.2	10.8	-1.6

※「ガソリン等燃料の備蓄・供給体制の整備」については、今回新たに追加された項目のため、比較不可

属性別の傾向

性別でみると、「寝具や食料など災害対策用品の備蓄」について男性よりも女性の方が10ポイント以上高くなっている。

年齢別では、60歳以上において「災害時の情報連絡体制、給水体制、救急体制などの体制整備」が他の年代よりも高くなっている。

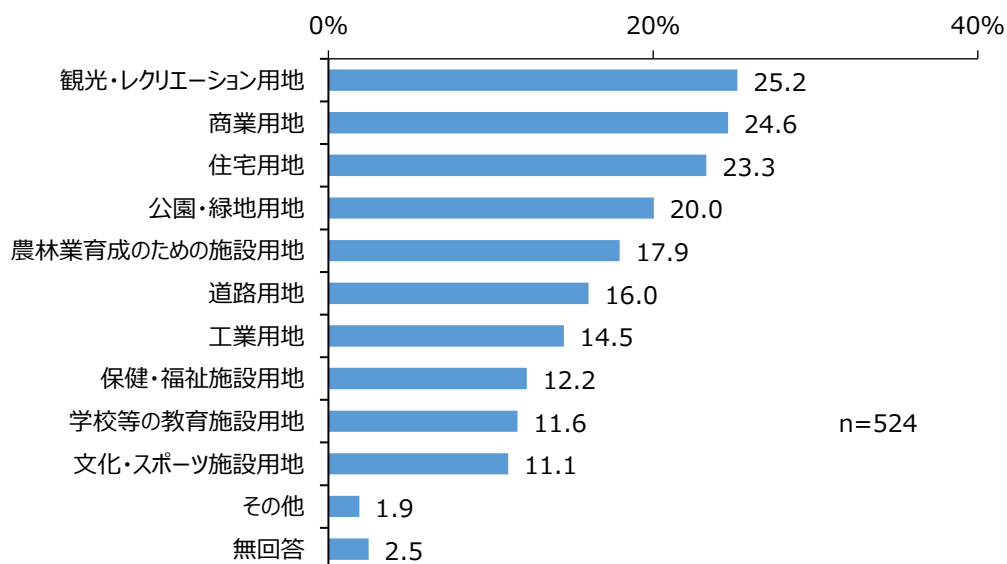
(%)

		常備消防・救急体制（消防署）の充実	市の消防団体制の充実	避難所、避難場所、避難経路の整備充実	寝具や食料など災害対策用品の備蓄	災害時の情報連絡体制、給水体制、救急体制などの体制整備	ガソリン等燃料の備蓄・供給体制の整備	地域の自主防災組織の育成・充実	公共施設、一般建物の耐震化の推進	市民参加の防災訓練の充実	救急救命講習や器具の充実	防火水槽や消火栓などの消防用施設の整備	その他	無回答
性別	女性(n=276)	35.1	8.3	50.7	44.6	52.5	17.8	9.4	20.3	9.1	8.7	8.7	0.4	0.4
	男性(n=239)	38.9	10.5	43.1	33.5	49.8	18.4	15.1	15.9	10.0	13.4	13.0	1.3	0.8
	その他(n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	答えたくない(n=6)	16.7	0.0	50.0	83.3	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0
年齢	10・20 歳代(n=75)	34.7	12.0	42.7	46.7	37.3	24.0	9.3	22.7	13.3	14.7	6.7	1.3	1.3
	30 歳代(n=53)	37.7	9.4	45.3	45.3	47.2	26.4	11.3	28.3	11.3	15.1	3.8	0.0	1.9
	40 歳代(n=88)	31.8	13.6	44.3	43.2	47.7	19.3	8.0	17.0	10.2	6.8	14.8	1.1	0.0
	50 歳代(n=139)	38.8	7.2	45.3	45.3	48.9	17.3	8.6	17.3	5.8	12.9	11.5	0.7	0.0
	60 歳代(n=160)	36.9	7.5	54.4	27.5	61.9	14.4	18.1	15.0	8.8	8.8	11.3	0.6	0.6
	70 歳以上(n=6)	50.0	0.0	33.3	50.0	100.0	0.0	16.7	0.0	16.7	0.0	16.7	0.0	0.0
居住地区	塩山地域(n=362)	37.3	9.4	46.1	37.6	50.8	18.5	12.4	20.2	8.3	11.9	11.6	0.8	0.3
	勝沼地域(n=135)	36.3	8.1	48.9	46.7	51.9	19.3	10.4	13.3	11.9	7.4	7.4	0.7	1.5
	大和地域(n=23)	30.4	13.0	56.5	34.8	56.5	8.7	13.0	13.0	13.0	13.0	13.0	0.0	0.0
居住歴	市内居住のみ(n=145)	40.7	9.7	53.1	37.2	48.3	17.2	12.4	18.6	6.9	11.7	13.1	1.4	0.0
	市外居住経験(n=162)	28.4	12.3	47.5	38.3	56.8	18.5	13.0	15.4	9.9	9.3	11.1	0.6	1.9
	県内から転入(n=143)	39.9	7.0	41.3	42.0	46.9	19.6	10.5	18.9	13.3	12.6	7.7	0.0	0.0
	県外から転入(n=71)	40.8	5.6	47.9	43.7	54.9	16.9	11.3	22.5	5.6	8.5	9.9	1.4	0.0

問20 市の発展には計画的な土地利用の推進が必要となりますが、今後、どのような用途の土地を優先的に整備していくことが必要だと思いますか。（〇は2つまで）

優先的に整備する必要がある土地について、「観光・レクリエーション用地」が25.2%と最も高く、次いで「商業用地」が24.6%、「住宅用地」が23.3%となっている。

今後、どのような用途の土地を優先的に整備していくことが必要だと思うか（MA）



	n	%
観光・レクリエーション用地	132	25.2
商業用地	129	24.6
住宅用地	122	23.3
公園・緑地用地	105	20.0
農林業育成のための施設用地	94	17.9
道路用地	84	16.0
工業用地	76	14.5
保健・福祉施設用地	64	12.2
学校等の教育施設用地	61	11.6
文化・スポーツ施設用地	58	11.1
その他	10	1.9
無回答	13	2.5
	524	100.0

前回調査からの変化

今回の上位4項目については、前回調査時から増加しており、それ以外は減少している。

(%)

	今回 (A) (n=524)	前回 (B) 平成 28 年 (n=1,015)	比較変化 (A-B)
観光・レクリエーション用地	25.2	23.8	1.4
商業用地	24.6	18.1	6.5
住宅用地	23.3	17.6	5.7
公園・緑地用地	20.0	15.5	4.5
農林業育成のための施設用地	17.9	21.3	-3.4
道路用地	16.0	17.3	-1.3
工業用地	14.5	20.1	-5.6
保健・福祉施設用地	12.2	19.1	-6.9
学校等の教育施設用地	11.6	12.2	-0.6
文化・スポーツ施設用地	11.1	14.0	-2.9

属性別の傾向

性別でみると、「工業用地」について女性よりも男性の方が10.0ポイント高くなっている。

年齢別では、10～30歳代、50歳代で「商業用地」が高く、それ以外では「観光・レクリエーション用地」が高くなっている。

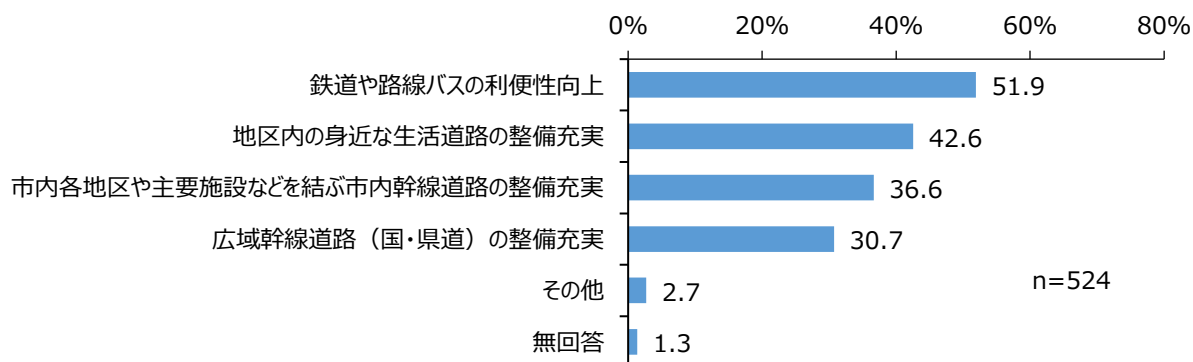
(%)

		住宅用地	農林業育成のための施設用地	工業用地	商業用地	観光・レクリエーション用地	公園・緑地用地	道路用地	学校等の教育施設用地	文化・スポーツ施設用地	保健・福祉施設用地	その他	無回答
性別	女性(n=276)	23.9	15.9	10.1	23.9	24.6	22.8	16.3	14.1	9.8	13.0	1.8	2.9
	男性(n=239)	21.8	20.9	20.1	26.4	25.5	16.7	16.3	9.2	13.0	10.9	2.1	1.7
	その他(n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	答えたくない(n=6)	50.0	0.0	0.0	0.0	33.3	16.7	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	16.7
年齢	10・20 歳代(n=75)	26.7	16.0	4.0	30.7	26.7	18.7	18.7	18.7	12.0	8.0	0.0	4.0
	30 歳代(n=53)	24.5	22.6	18.9	34.0	30.2	30.2	13.2	7.5	7.5	3.8	1.9	0.0
	40 歳代(n=88)	20.5	19.3	10.2	25.0	29.5	27.3	14.8	11.4	17.0	8.0	1.1	2.3
	50 歳代(n=139)	25.9	13.7	17.3	28.1	20.9	15.1	15.1	10.1	11.5	12.9	3.6	0.7
	60 歳代(n=160)	20.6	19.4	18.1	16.9	23.8	17.5	18.1	10.6	8.1	18.1	1.9	4.4
	70 歳以上(n=6)	0.0	33.3	16.7	0.0	33.3	33.3	0.0	33.3	16.7	16.7	0.0	0.0
居住地区	塩山地域(n=362)	22.4	16.9	16.9	26.2	22.9	19.1	18.5	10.5	12.2	12.4	1.7	2.5
	勝沼地域(n=135)	25.9	21.5	9.6	20.7	30.4	22.2	8.9	15.6	7.4	10.4	3.0	3.0
	大和地域(n=23)	21.7	13.0	4.3	26.1	30.4	21.7	21.7	8.7	17.4	17.4	0.0	0.0
居住歴	市内居住のみ(n=145)	20.7	17.2	17.9	24.1	24.1	20.7	19.3	13.8	9.7	9.7	2.1	2.1
	市外居住経験(n=162)	22.8	20.4	13.0	26.5	24.7	19.8	18.5	11.7	14.2	14.8	0.6	1.9
	県内から転入(n=143)	26.6	14.0	14.0	23.1	25.2	19.6	13.3	11.2	9.1	9.8	0.7	4.2
	県外から転入(n=71)	22.5	21.1	11.3	25.4	28.2	21.1	9.9	8.5	11.3	15.5	7.0	1.4

問21 あなたは、甲州市及びその周辺では、どのような道路、交通手段が必要だと思いますか。
(〇は2つまで)

甲州市及びその周辺で必要な道路や交通手段について、「鉄道や路線バスの利便性向上」が51.9%と最も高く、次いで「地区内の身近な生活道路の整備充実」が42.6%、「市内各地区や主要施設などを結ぶ市内幹線道路の整備充実」が36.6%となっている。

甲州市及びその周辺では、どのような道路、交通手段が必要だと思うか（MA）



	n	%
鉄道や路線バスの利便性向上	272	51.9
地区内の身近な生活道路の整備充実	223	42.6
市内各地区や主要施設などを結ぶ市内幹線道路の整備充実	192	36.6
広域幹線道路（国・県道）の整備充実	161	30.7
その他	14	2.7
無回答	7	1.3
	524	100.0

前回調査からの変化

前回から順位に変化はなかった。

(%)

	今回 (A) (n=524)	前回 (B) 平成 28 年 (n=1,015)	比較変化 (A-B)
鉄道や路線バスの利便性向上	51.9	51.5	0.4
地区内の身近な生活道路の整備充実	42.6	43.4	-0.8
市内各地区や主要施設などを結ぶ市内幹線道路の整備充実	36.6	41.7	-5.1
広域幹線道路（国・県道）の整備充実	30.7	28.7	2.0

属性別の傾向

性別でみると、「鉄道や路線バスの利便性向上」について男性よりも女性の方が10ポイント以上高くなっている。

年齢別では、30歳代では「広域幹線道路（国・県道）の整備充実」が最も高く、他のほとんどの年代では「鉄道や路線バスの利便性向上」が最も高くなっている。

居住地区別では、大和地域において「市内各地区や主要施設などを結ぶ市内幹線道路の整備充実」が約6割となっており、他の地域に比べ25ポイント以上高い。

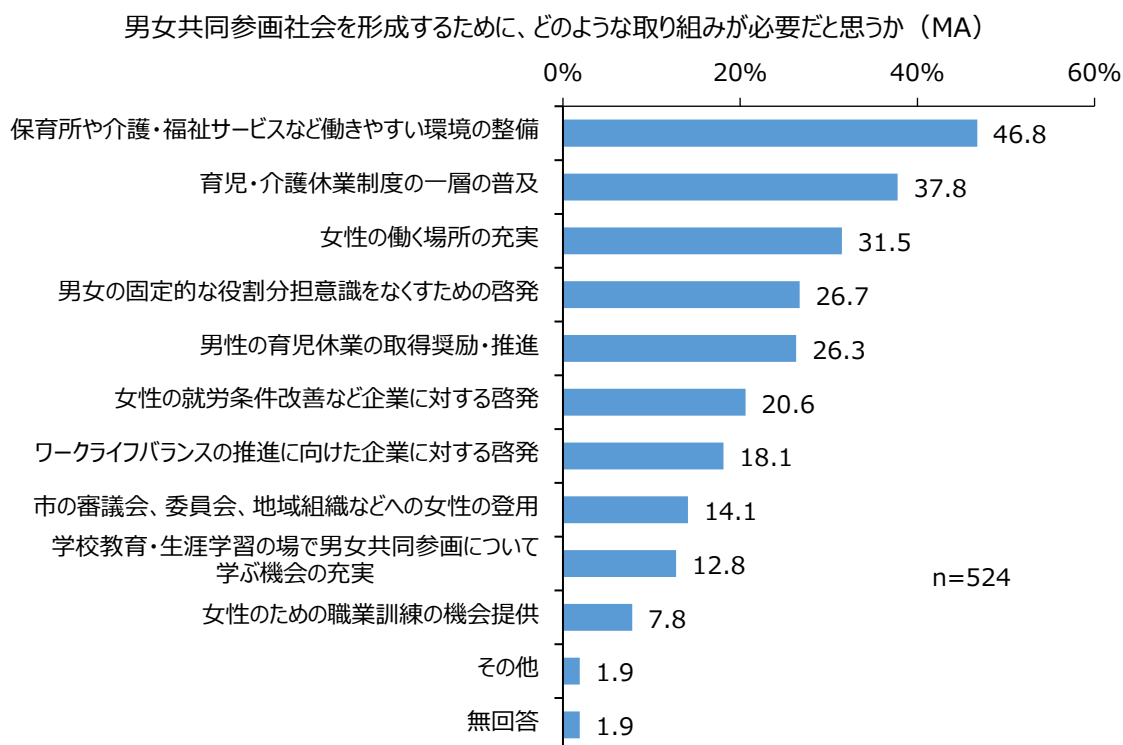
居住歴別では、県外から転入してきた方において「鉄道や路線バスの利便性向上」が約7割となっている。

(%)

		広域幹線道路（国・県道）の整備充実	市内各地区や主要施設などを結ぶ市内幹線道路の整備充実	地区内の身近な生活道路の整備充実	鉄道や路線バスの利便性向上	その他	無回答
性別	女性(n=276)	27.5	36.2	41.7	57.6	2.5	1.8
	男性(n=239)	34.7	38.1	43.1	46.0	2.5	0.8
	その他(n=0)	-	-	-	-	-	-
	答えたくない(n=6)	16.7	0.0	66.7	33.3	16.7	0.0
年齢	10・20 歳代(n=75)	32.0	32.0	42.7	56.0	0.0	2.7
	30 歳代(n=53)	52.8	37.7	34.0	45.3	1.9	0.0
	40 歳代(n=88)	33.0	29.5	40.9	55.7	2.3	1.1
	50 歳代(n=139)	30.9	32.4	41.0	56.1	2.9	0.0
	60 歳代(n=160)	22.5	45.6	46.9	46.9	4.4	2.5
	70 歳以上(n=6)	16.7	33.3	66.7	33.3	0.0	0.0
居住地区	塩山地域(n=362)	31.8	35.6	42.0	53.3	2.5	1.1
	勝沼地域(n=135)	25.9	34.8	45.9	51.9	3.7	2.2
	大和地域(n=23)	39.1	60.9	34.8	34.8	0.0	0.0
居住歴	市内居住のみ(n=145)	43.4	33.1	49.0	43.4	0.7	0.7
	市外居住経験(n=162)	28.4	34.0	45.1	51.2	1.9	0.6
	県内から転入(n=143)	25.2	42.0	38.5	53.1	2.1	2.8
	県外から転入(n=71)	21.1	38.0	32.4	69.0	9.9	1.4

問22 あなたは、男女共同参画社会を形成するために、どのような取り組みが必要だと思いますか。（〇は3つまで）

男女共同参画社会を形成するために必要な取り組みは、「保育所や介護・福祉サービスなど働きやすい環境の整備」が46.8%、「育児・介護休業制度の一層の普及」が37.8%、「女性の働く場所の充実」が31.5%となっている。



	n	%
保育所や介護・福祉サービスなど働きやすい環境の整備	245	46.8
育児・介護休業制度の一層の普及	198	37.8
女性の働く場所の充実	165	31.5
男女の固定的な役割分担意識をなくすための啓発	140	26.7
男性の育児休業の取得奨励・推進	138	26.3
女性の就労条件改善など企業に対する啓発	108	20.6
ワークライフバランスの推進に向けた企業に対する啓発	95	18.1
市の審議会、委員会、地域組織などへの女性の登用	74	14.1
学校教育・生涯学習の場で男女共同参画について学ぶ機会の充実	67	12.8
女性のための職業訓練の機会提供	41	7.8
その他	10	1.9
無回答	10	1.9
	524	100.0

前回調査からの変化

「育児・介護休業制度の一層の普及」が前回から10.6ポイント増加し、「男女の固定的な役割分担意識をなくすための啓発」が6.3ポイント増加した。

(%)

	今回 (A) (n=524)	前回 (B) 平成 28 年 (n=1,015)	比較変化 (A-B)
保育所や介護・福祉サービスなど働きやすい環境の整備	46.8	46.0	0.8
育児・介護休業制度の一層の普及	37.8	27.2	10.6
女性の働く場所の充実	31.5	33.5	-2.0
男女の固定的な役割分担意識をなくすための啓発	26.7	20.4	6.3
男性の育児休業の取得奨励・推進	26.3	-	-
女性の就労条件改善など企業に対する啓発	20.6	21.9	-1.3
ワークライフバランスの推進に向けた企業に対する啓発	18.1	-	-
市の審議会、委員会、地域組織などへの女性の登用	14.1	11.8	2.3
学校教育・生涯学習の場で男女共同参画について学ぶ機会の充実	12.8	10.0	2.8
女性のための職業訓練の機会提供	7.8	8.3	-0.5

※前回「男女共同参画についての学校教育・生涯学習の充実」→今回「学校教育・生涯学習の場で男女共同参画について学ぶ機会の充実」に変更している。

※「男性の育児休業の取得奨励・推進」と「ワークライフバランスの推進に向けた企業に対する啓発」については、今回新たに追加された項目のため、比較不可

属性別の傾向

年代別でみると、「ワークライフバランスの推進に向けた企業に対する啓発」について、30歳代が他の年代に比べ割合が高くなっている。

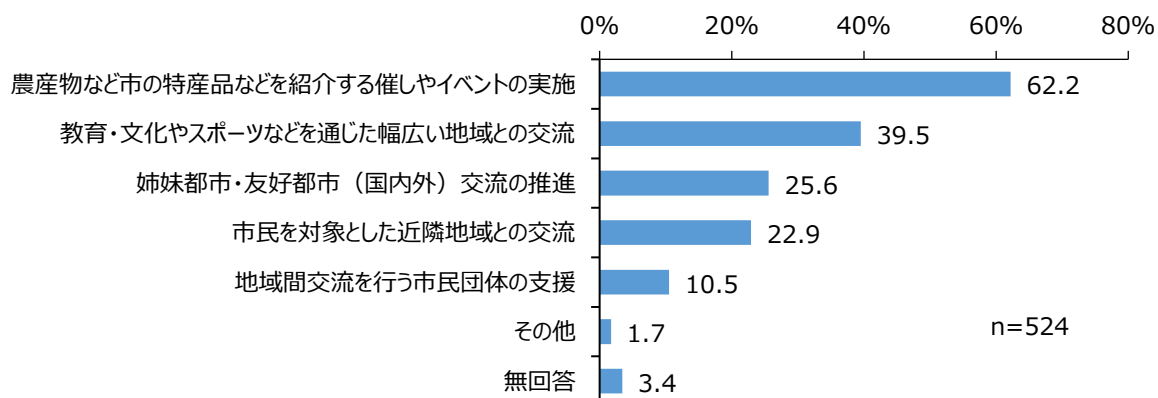
(%)

		女性の働く場所の充実	働きやすい環境の整備	保育所や介護・福祉サービスなど	育児・介護休業制度の一層の普及	男性の育児休業の取得奨励・推進	女性の就労条件改善など企業に対する啓発	ワークライフバランスの推進に向けた企業に対する啓発	女性のための職業訓練の機会提供	男女の固定的な役割分担意識をなくすための啓発	市の審議会、委員会、地域組織などへの女性の登用	学校教育・生涯学習の場で男女共同参画について学ぶ機会の充実	その他	無回答
性別	女性(n=276)	31.9	49.3	40.9	26.8	23.6	21.0	8.7	28.3	9.4	10.5	1.8	1.8	
	男性(n=239)	31.4	44.8	35.1	25.1	18.0	14.6	7.1	24.7	19.2	15.5	2.1	2.1	
	その他(n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	答えたくない(n=6)	33.3	16.7	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	
年齢	10・20 歳代(n=75)	32.0	42.7	37.3	36.0	17.3	20.0	10.7	24.0	18.7	18.7	1.3	2.7	
	30 歳代(n=53)	34.0	45.3	43.4	30.2	17.0	34.0	11.3	28.3	7.5	5.7	1.9	0.0	
	40 歳代(n=88)	37.5	42.0	37.5	25.0	22.7	20.5	5.7	25.0	12.5	9.1	2.3	1.1	
	50 歳代(n=139)	33.1	42.4	35.3	24.5	22.3	12.2	9.4	23.7	12.2	14.4	0.7	1.4	
	60 歳代(n=160)	27.5	54.4	38.8	21.9	21.3	14.4	5.6	30.6	16.9	13.1	3.1	3.1	
	70 歳以上(n=6)	0.0	83.3	33.3	33.3	16.7	33.3	0.0	16.7	16.7	16.7	0.0	0.0	
居住地区	塩山地域(n=362)	34.0	47.2	37.0	26.2	20.7	17.4	8.0	26.0	14.1	11.6	2.5	2.5	
	勝沼地域(n=135)	28.1	45.9	39.3	25.9	20.0	19.3	6.7	28.9	14.1	14.1	0.7	0.7	
	大和地域(n=23)	17.4	47.8	39.1	26.1	26.1	17.4	8.7	26.1	17.4	21.7	0.0	0.0	
居住歴	市内居住のみ(n=145)	36.6	48.3	34.5	26.2	22.1	15.9	10.3	20.0	14.5	11.7	2.1	1.4	
	市外居住経験(n=162)	27.8	46.9	40.7	24.1	24.1	21.0	4.3	25.9	17.3	13.0	1.2	2.5	
	県内から転入(n=143)	30.1	47.6	37.1	29.4	18.9	16.1	7.7	30.8	7.7	11.9	1.4	2.1	
	県外から転入(n=71)	33.8	42.3	38.0	23.9	14.1	19.7	9.9	33.8	19.7	16.9	4.2	1.4	

問23 あなたは、市内外との地域間交流について、今後どのような取り組みが必要だと思いますか。（〇は2つまで）

市内外との地域間交流に必要な取り組みについて、「農産物など市の特産品などを紹介する催しやイベントの実施」が62.2%と最も高く、次いで「教育・文化やスポーツなどを通じた幅広い地域との交流」が39.5%、「姉妹都市・友好都市（国内外）交流の推進」が25.6%となっている。

市内外との地域間交流について、今後どのような取り組みが必要だと思うか（MA）



	n	%
農産物など市の特産品などを紹介する催しやイベントの実施	326	62.2
教育・文化やスポーツなどを通じた幅広い地域との交流	207	39.5
姉妹都市・友好都市（国内外）交流の推進	134	25.6
市民を対象とした近隣地域との交流	120	22.9
地域間交流を行う市民団体の支援	55	10.5
その他	9	1.7
無回答	18	3.4
	524	100.0

前回調査からの変化

「市民を対象とした近隣地域との交流」が、前回から17.2ポイントと大きく減少した。
(%)

	今回 (A) (n=524)	前回 (B) 平成 28 年 (n=1,015)	比較変化 (A-B)
農産物など市の特産品などを紹介する催しやイベントの実施	62.2	56.4	5.8
教育・文化やスポーツなどを通じた幅広い地域との交流	39.5	37.8	1.7
姉妹都市・友好都市（国内外）交流の推進	25.6	20.7	4.9
市民を対象とした近隣地域との交流	22.9	40.1	-17.2
地域間交流を行う市民団体の支援	10.5	-	-

※前回「市民を対象とした身近な交流ができる地域との交流」→今回「市民を対象とした近隣地域との交流」に変更している。

※「地域間交流を行う市民団体の支援」については、今回新たに追加された項目のため、比較不可

属性別の傾向

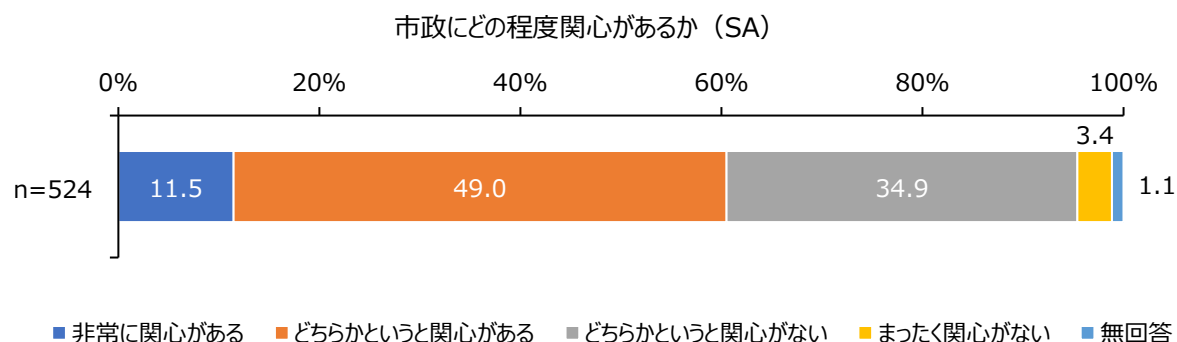
年齢別でみると、30歳代と70歳以上で「農産物など市の特産品などを紹介する催しやイベントの実施」が8割を超えている。

(%)

		姉妹都市・友好都市（国内外）交流の推進	市民を対象とした近隣地域との交流	教育・文化やスポーツなどを通じた幅広い地域との交流	農産物など市の特産品などを紹介する催しやイベントの実施	地域間交流を行う市民団体の支援	その他	無回答
性別	女性(n=276)	24.6	22.5	40.6	66.3	7.6	1.8	4.0
	男性(n=239)	25.9	23.8	38.5	58.6	14.2	1.7	2.5
	その他(n=0)	-	-	-	-	-	-	-
	答えたくない(n=6)	33.3	16.7	33.3	16.7	0.0	0.0	16.7
年齢	10・20 歳代(n=75)	44.0	18.7	41.3	54.7	12.0	0.0	2.7
	30 歳代(n=53)	30.2	17.0	32.1	81.1	11.3	0.0	1.9
	40 歳代(n=88)	30.7	18.2	43.2	64.8	6.8	0.0	0.0
	50 歳代(n=139)	20.1	20.9	41.7	56.8	9.4	4.3	2.9
	60 歳代(n=160)	16.9	31.9	37.5	61.9	13.1	1.9	6.9
	70 歳以上(n=6)	33.3	0.0	33.3	83.3	0.0	0.0	0.0
居住地区	塩山地域(n=362)	25.1	22.9	39.0	64.1	10.8	1.7	3.0
	勝沼地域(n=135)	23.7	23.7	40.7	58.5	9.6	1.5	5.2
	大和地域(n=23)	39.1	21.7	39.1	52.2	13.0	4.3	0.0
居住歴	市内居住のみ(n=145)	30.3	27.6	36.6	59.3	7.6	0.7	3.4
	市外居住経験(n=162)	22.2	22.8	38.3	63.6	14.8	2.5	3.1
	県内から転入(n=143)	23.1	21.0	38.5	66.4	4.9	0.7	4.9
	県外から転入(n=71)	28.2	18.3	49.3	56.3	18.3	4.2	1.4

問24 あなたは、市政にどの程度関心がありますか。(〇は1つ)

市政への関心について、「非常に関心がある」と「どちらかというに関心がある」を合わせた『関心がある』が約6割となっており、「どちらかというに関心がない」と「まったく関心がない」を合わせた『関心がない』を上回っている。



	n	%
非常に関心がある	60	11.5
どちらかというに関心がある	257	49.0
どちらかというに関心がない	183	34.9
まったく関心がない	18	3.4
無回答	6	1.1
	524	100.0

前回調査からの変化

『関心がある』が7.6ポイント減少し、『関心がない』が7.8ポイント増加した。

(%)

	今回 (A) (n=524)	前回 (B) 平成 28 年 (n=1,015)	比較変化 (A-B)
非常に関心がある	11.5	13.8	-2.3
どちらかというに関心がある	49.0	54.3	-5.3
どちらかというに関心がない	34.9	26.1	8.8
まったく関心がない	3.4	4.5	-1.1
関心がある	60.5	68.1	-7.6
関心がない	38.4	30.6	7.8

属性別の傾向

性別でみると、男性よりも女性の方が『関心がない』が約10ポイント高くなっている。

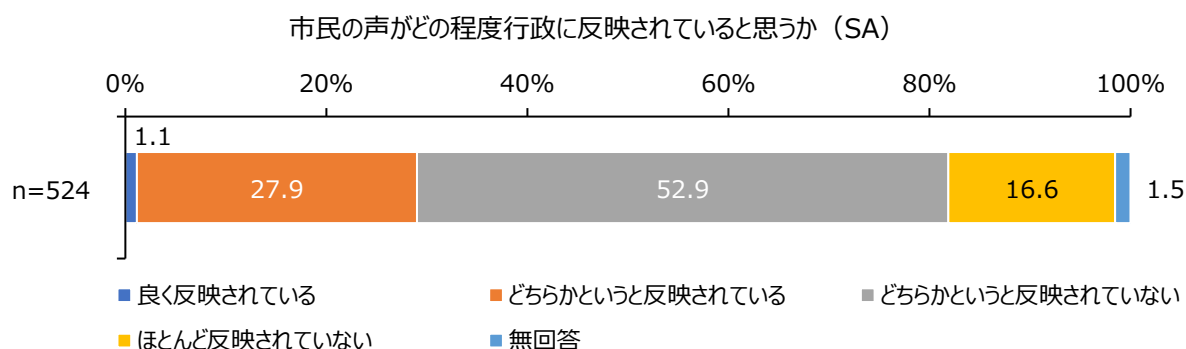
年齢別では、10・20歳代で『関心がある』が4割と他の年代に比べ低い反面、40歳代では7割を超えた。

(%)

		『関心がある』		『関心がない』		無回答
		非常に関心がある	どちらかというに関心がある	どちらかというに関心がない	まったく関心がない	
性別	女性(n=276)	9.4	46.4	40.6	2.5	1.1
	男性(n=239)	13.4	53.1	28.0	4.2	1.3
	その他(n=0)	-	-	-	-	-
	答えたくない(n=6)	33.3	0.0	66.7	0.0	0.0
年齢	10・20 歳代(n=75)	10.7	29.3	46.7	10.7	2.7
	30 歳代(n=53)	11.3	45.3	39.6	3.8	0.0
	40 歳代(n=88)	18.2	53.4	26.1	1.1	1.1
	50 歳代(n=139)	10.8	48.9	36.7	2.9	0.7
	60 歳代(n=160)	8.8	55.6	33.1	1.3	1.3
	70 歳以上(n=6)	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
居住地区	塩山地域(n=362)	11.9	48.6	34.5	3.6	1.4
	勝沼地域(n=135)	10.4	50.4	37.0	1.5	0.7
	大和地域(n=23)	13.0	43.5	34.8	8.7	0.0
居住歴	市内居住のみ(n=145)	10.3	51.0	31.0	6.2	1.4
	市外居住経験(n=162)	14.8	51.9	30.9	1.2	1.2
	県内から転入(n=143)	9.1	44.8	41.3	3.5	1.4
	県外から転入(n=71)	11.3	46.5	40.8	1.4	0.0

問25 あなたは、市民の声がどの程度行政に反映されていると思いますか。(〇は1つ)

市民の声がどの程度行政に反映されていると思うかについては、「どちらかというと反映されていない」と「ほとんど反映されていない」を合わせた『反映されていない』が約7割となっており、「良く反映されている」と「どちらかというと反映されている」を合わせた『反映されている』を上回っている。



	n	%
良く反映されている	6	1.1
どちらかというと反映されている	146	27.9
どちらかというと反映されていない	277	52.9
ほとんど反映されていない	87	16.6
無回答	8	1.5
	524	100.0

前回調査からの変化

『反映されている』が4.2ポイント減少し、『反映されていない』が6.1ポイント増加した。

(%)

	今回 (A) (n=524)	前回 (B) 平成 28 年 (n=1,015)	比較変化 (A-B)
良く反映されている	1.1	1.0	0.1
どちらかというと反映されている	27.9	32.2	-4.3
どちらかというと反映されていない	52.9	45.3	7.6
ほとんど反映されていない	16.6	18.1	-1.5
反映されている	29.0	33.2	-4.2
反映されていない	69.5	63.4	6.1

属性別の傾向

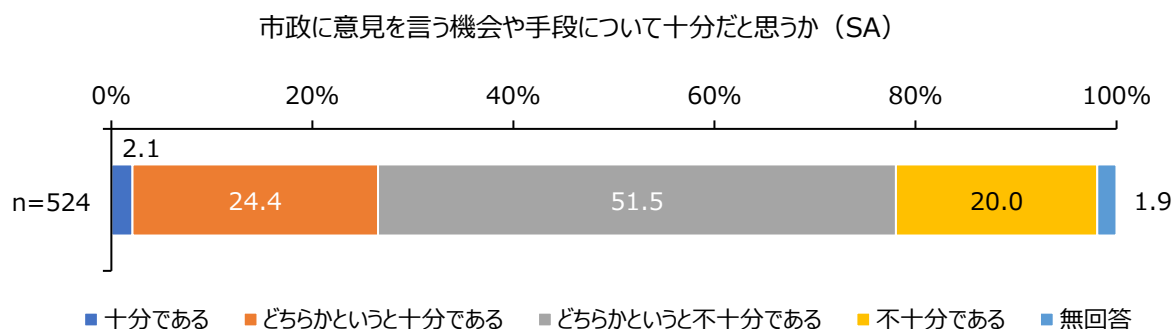
ほとんどの属性において、『反映されていない』が高くなっている。

(%)

		『反映されている』		『反映されていない』		無回答
		良く反映されている	どちらかというと反映されている	どちらかというと反映されていない	ほとんど反映されていない	
性別	女性(n=276)	1.1	27.5	54.0	15.2	2.2
	男性(n=239)	1.3	27.2	51.9	18.8	0.8
	その他(n=0)	-	-	-	-	-
	答えたくない(n=6)	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0
年齢	10・20 歳代(n=75)	1.3	29.3	46.7	20.0	2.7
	30 歳代(n=53)	0.0	30.2	52.8	17.0	0.0
	40 歳代(n=88)	2.3	29.5	52.3	15.9	0.0
	50 歳代(n=139)	1.4	28.1	48.2	20.1	2.2
	60 歳代(n=160)	0.6	24.4	60.0	13.1	1.9
	70 歳以上(n=6)	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0
居住地区	塩山地域(n=362)	1.4	27.6	53.0	16.3	1.7
	勝沼地域(n=135)	0.0	30.4	53.3	14.8	1.5
	大和地域(n=23)	4.3	13.0	52.2	30.4	0.0
居住歴	市内居住のみ(n=145)	1.4	27.6	50.3	19.3	1.4
	市外居住経験(n=162)	1.2	31.5	51.2	15.4	0.6
	県内から転入(n=143)	0.7	25.2	52.4	18.9	2.8
	県外から転入(n=71)	1.4	25.4	63.4	8.5	1.4

問26 あなたは、市政に意見を言う機会や手段について十分だと思いますか。(〇は1つ)

市政に意見を言う機会や手段については、「どちらかという和不十分である」と「不十分である」を合わせた『不十分である』が約7割となっており、「十分である」と「どちらかという和十分である」を合わせた『十分である』を上回っている。



	n	%
十分である	11	2.1
どちらかという和十分である	128	24.4
どちらかという和不十分である	270	51.5
不十分である	105	20.0
無回答	10	1.9
	524	100.0

前回調査からの変化

『十分である』が5.8ポイント減少し、『不十分である』が8.6ポイント増加した。

(%)

	今回 (A) (n=524)	前回 (B) 平成 28 年 (n=1,015)	比較変化 (A-B)
十分である	2.1	3.1	-1.0
どちらかという和十分である	24.4	29.2	-4.8
どちらかという和不十分である	51.5	47.4	4.1
不十分である	20.0	15.6	4.4
十分である	26.5	32.3	-5.8
不十分である	71.6	63.0	8.6

属性別の傾向

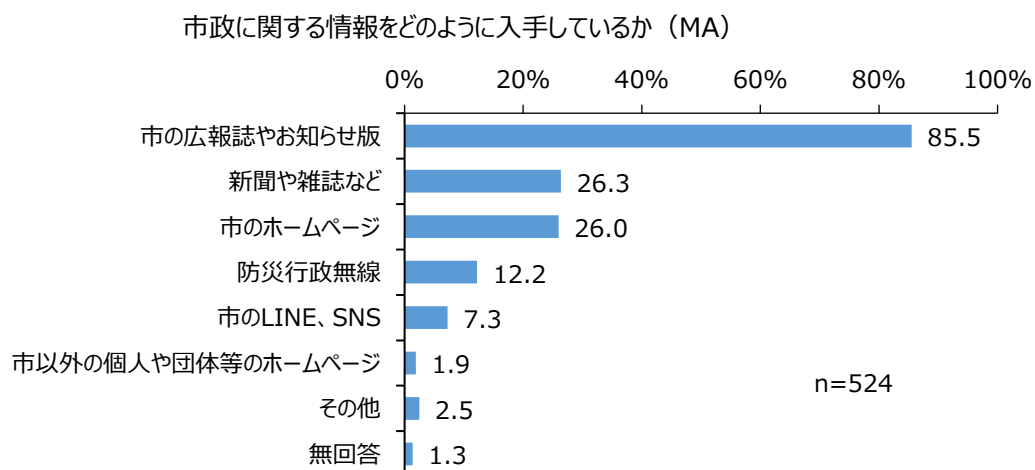
ほとんどの属性において、『不十分である』が高くなっている。

(%)

		『十分である』		『不十分である』		無回答
		十分である	どちらかという 十分である	どちらかという 不十分である	不十分である	
性別	女性(n=276)	1.1	25.0	55.4	15.9	2.5
	男性(n=239)	2.9	23.0	47.7	25.1	1.3
	その他(n=0)	-	-	-	-	-
	答えたくない(n=6)	16.7	33.3	33.3	16.7	0.0
年齢	10・20 歳代(n=75)	8.0	21.3	38.7	29.3	2.7
	30 歳代(n=53)	1.9	24.5	49.1	24.5	0.0
	40 歳代(n=88)	0.0	34.1	44.3	21.6	0.0
	50 歳代(n=139)	2.2	23.0	54.0	18.7	2.2
	60 歳代(n=160)	0.6	20.6	60.0	15.6	3.1
	70 歳以上(n=6)	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0
居住地区	塩山地域(n=362)	2.2	21.8	53.0	20.7	2.2
	勝沼地域(n=135)	0.7	30.4	51.1	16.3	1.5
	大和地域(n=23)	8.7	26.1	34.8	30.4	0.0
居住歴	市内居住のみ(n=145)	3.4	28.3	46.9	20.0	1.4
	市外居住経験(n=162)	1.9	24.1	53.1	19.8	1.2
	県内から転入(n=143)	1.4	23.1	51.0	21.0	3.5
	県外から転入(n=71)	1.4	19.7	59.2	18.3	1.4

問27 あなたは、市政に関する情報をどのように入手していますか。(〇は2つまで)

市政に関する情報の入手方法について、「市の広報誌やお知らせ版」が85.5%と最も高く、次いで「新聞や雑誌など」が26.3%、「市のホームページ」が26.0%となっている。



	n	%
市の広報誌やお知らせ版	448	85.5
新聞や雑誌など	138	26.3
市のホームページ	136	26.0
防災行政無線	64	12.2
市のLINE、SNS	38	7.3
市以外の個人や団体等のホームページ	10	1.9
その他	13	2.5
無回答	7	1.3
	524	100.0

前回調査からの変化

新たに追加された「市のLINE、SNS」を除き、項目の順位は前回と同じとなった。

(%)

	今回 (A) (n=524)	前回 (B) 平成 28 年 (n=1,015)	比較変化 (A-B)
市の広報誌やお知らせ版	85.5	89.5	-4.0
新聞や雑誌など	26.3	30.2	-3.9
市のホームページ	26.0	19.8	6.2
防災行政無線	12.2	17.0	-4.8
市のLINE、SNS	7.3	-	-
市以外の個人や団体等のホームページ	1.9	2.6	-0.7

※「市のLINE、SNS」については、今回新たに追加された項目のため、比較不可

属性別の傾向

いずれの属性においても、「市の広報誌やお知らせ版」が最も高くなっている。

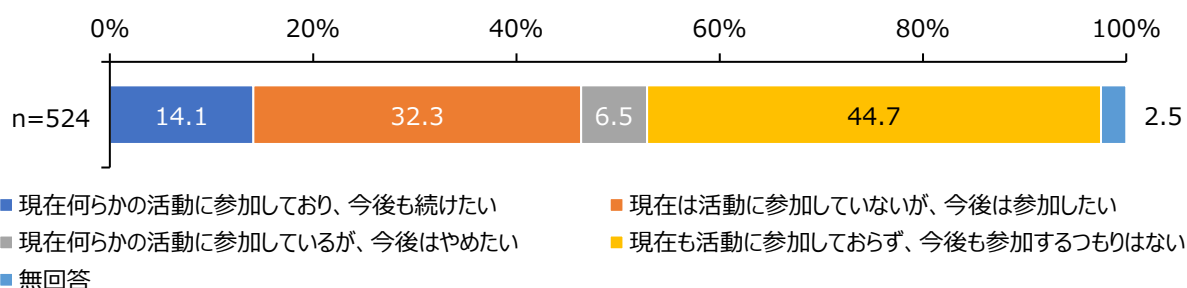
(%)

		市の広報誌やお知らせ版	市のホームページ	新聞や雑誌など	市以外の個人や団体等のホームページ	防災行政無線	市のLINE、SNS	その他	無回答
性別	女性(n=276)	87.7	24.3	27.5	1.1	13.4	8.0	3.3	1.1
	男性(n=239)	83.3	28.0	25.5	2.5	10.5	6.3	1.3	1.7
	その他(n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-
	答えたくない(n=6)	83.3	16.7	0.0	16.7	16.7	16.7	0.0	0.0
年齢	10・20 歳代(n=75)	65.3	17.3	26.7	2.7	12.0	10.7	8.0	5.3
	30 歳代(n=53)	81.1	28.3	20.8	1.9	13.2	7.5	0.0	1.9
	40 歳代(n=88)	85.2	38.6	19.3	3.4	4.5	12.5	0.0	0.0
	50 歳代(n=139)	91.4	25.2	28.1	1.4	10.1	5.8	3.6	0.0
	60 歳代(n=160)	91.3	23.1	30.6	1.3	16.9	3.8	1.3	1.3
	70 歳以上(n=6)	100.0	16.7	16.7	0.0	16.7	16.7	0.0	0.0
居住地区	塩山地域(n=362)	85.9	24.9	26.5	2.5	12.7	6.9	2.2	1.7
	勝沼地域(n=135)	84.4	28.9	25.2	0.7	10.4	6.7	3.0	0.7
	大和地域(n=23)	87.0	21.7	30.4	0.0	13.0	17.4	0.0	0.0
居住歴	市内居住のみ(n=145)	85.5	23.4	24.1	2.1	11.7	9.0	4.1	0.7
	市外居住経験(n=162)	83.3	30.9	25.3	1.9	9.9	7.4	1.9	1.2
	県内から転入(n=143)	86.7	23.1	28.0	2.1	14.0	5.6	2.1	2.8
	県外から転入(n=71)	88.7	23.9	29.6	1.4	14.1	7.0	1.4	0.0

問28 あなたは、自分の本来の仕事とは別に、地域や社会のために時間や労力・技術などを無償で提供する地域活動やボランティア活動などに、現在参加していますか。また、今後参加したいと思いますか。（〇は1つ）

地域活動やボランティア活動について、「現在も参加しておらず、今後も参加するつもりはない」が44.7%と最も高く、次いで「現在は活動に参加していないが、今後は参加したい」が32.3%、「現在何らかの活動に参加しており、今後も続けたい」が14.1%となっている。

地域や社会のために時間や労力・技術などを無償で提供する地域活動やボランティア活動などに、
現在参加しているか、また、今後参加したいと思うか（SA）



	n	%
現在何らかの活動に参加しており、今後も続けたい	74	14.1
現在は活動に参加していないが、今後は参加したい	169	32.3
現在何らかの活動に参加しているが、今後はやめたい	34	6.5
現在も活動に参加しておらず、今後も参加するつもりはない	234	44.7
無回答	13	2.5
	524	100.0

前回調査からの変化

『参加したい』が14.4ポイント減少し、『参加したくない』が14.8ポイント増加した。

(%)

	今回 (A) (n=524)	前回 (B) 平成 28 年 (n=1,015)	比較変化 (A-B)
現在何らかの活動に参加しており、今後も続けたい	14.1	19.9	-5.8
現在は活動に参加していないが、今後は参加したい	32.3	40.9	-8.6
現在何らかの活動に参加しているが、今後はやめたい	6.5	4.0	2.5
現在も活動に参加しておらず、今後も参加するつもりはない	44.7	32.3	12.4
参加したい	46.4	60.8	-14.4
参加したくない	51.1	36.3	14.8

属性別の傾向

年齢別でみると、10・20歳代は『参加したい』が『参加したくない』を唯一上回っている。一方で、30歳代では『参加したくない』が『参加したい』を約20ポイント上回っている。

居住歴別では、県内から転入してきた方は『参加したくない』が『参加したい』よりも20ポイント以上高くなっている。

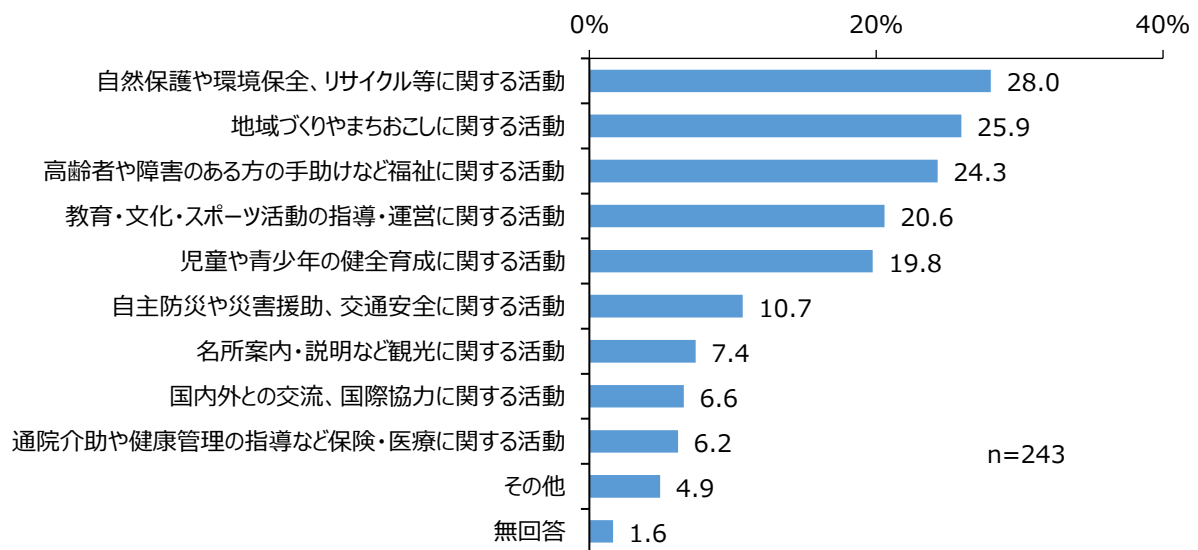
(%)

		『参加したい』		『参加したくない』		無回答
		現在何らかの活動に参加しており、今後も続けたい	現在は活動に参加していないが、今後は参加したい	現在何らかの活動に参加しているが、今後はやめたい	現在も活動に参加しておらず、今後も参加するつもりはない	
性別	女性(n=276)	10.5	32.2	4.0	50.0	3.3
	男性(n=239)	18.4	32.2	7.9	39.7	1.7
	その他(n=0)	-	-	-	-	-
	答えたくない(n=6)	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0
年齢	10・20 歳代(n=75)	5.3	45.3	4.0	42.7	2.7
	30 歳代(n=53)	9.4	30.2	1.9	58.5	0.0
	40 歳代(n=88)	12.5	31.8	8.0	45.5	2.3
	50 歳代(n=139)	12.9	32.4	8.6	43.2	2.9
	60 歳代(n=160)	20.0	28.1	6.9	41.9	3.1
	70 歳以上(n=6)	33.3	16.7	0.0	50.0	0.0
居住地区	塩山地域(n=362)	14.4	30.7	6.9	46.1	1.9
	勝沼地域(n=135)	12.6	36.3	4.4	43.0	3.7
	大和地域(n=23)	17.4	34.8	13.0	30.4	4.3
居住歴	市内居住のみ(n=145)	14.5	31.7	11.7	40.7	1.4
	市外居住経験(n=162)	17.9	34.0	4.3	39.5	4.3
	県内から転入(n=143)	9.1	28.7	4.9	55.2	2.1
	県外から転入(n=71)	14.1	38.0	4.2	42.3	1.4

問28－1 問28で「現在何らかの活動に参加しており、今後も続けたい」または「現在は活動に参加していないが、今後は参加したい」と回答した方に伺います。あなたは、今どのような活動に参加していますか、または参加したいと思いますか。（○は2つまで）

参加中の活動や、希望する活動について、「自然保護や環境保全、リサイクル等に関する活動」が28.0%と最も高く、次いで「地域づくりやまちおこしに関する活動」が25.9%、「高齢者や障害のある方の手助けなど福祉に関する活動」が24.3%となっている。

今どのような活動に参加しているか、または参加したいと思うか（MA）



	n	%
自然保護や環境保全、リサイクル等に関する活動	68	28.0
地域づくりやまちおこしに関する活動	63	25.9
高齢者や障害のある方の手助けなど福祉に関する活動	59	24.3
教育・文化・スポーツ活動の指導・運営に関する活動	50	20.6
児童や青少年の健全育成に関する活動	48	19.8
自主防災や災害援助、交通安全に関する活動	26	10.7
名所案内・説明など観光に関する活動	18	7.4
国内外との交流、国際協力に関する活動	16	6.6
通院介助や健康管理の指導など保険・医療に関する活動	15	6.2
その他	12	4.9
無回答	4	1.6
	243	100.0

前回調査からの変化

「自然保護や環境保全、リサイクル等に関する活動」が1.9ポイント増加、「高齢者や障害のある方の手助けなど福祉に関する活動」が2.6ポイント増加した。

一方で、「地域づくりやまちおこしに関する活動」が5.5ポイント減少、「教育・文化・スポーツ活動の指導・運営に関する活動」が5.7ポイント減少、「児童や青少年の健全育成に関する活動」が3.5ポイント減少した。

(%)

	今回 (A) (n=243)	前回 (B) 平成 28 年 (n=617)	比較変化 (A-B)
自然保護や環境保全、リサイクル等に関する活動	28.0	26.1	1.9
地域づくりやまちおこしに関する活動	25.9	31.4	-5.5
高齢者や障害のある方の手助けなど福祉に関する活動	24.3	21.7	2.6
教育・文化・スポーツ活動の指導・運営に関する活動	20.6	26.3	-5.7
児童や青少年の健全育成に関する活動	19.8	23.3	-3.5
自主防災や災害援助、交通安全に関する活動	10.7	9.2	1.5
名所案内・説明など観光に関する活動	7.4	9.2	-1.8
国内外との交流、国際協力に関する活動	6.6	5.8	0.8
通院介助や健康管理の指導など保険・医療に関する活動	6.2	4.4	1.8

属性別の傾向

性別でみると、男性では「地域づくりやまちおこしに関する活動」が最も高く、次いで「自然保護や環境保全、リサイクル等に関する活動」となっているが、女性では「高齢者や障害のある方の手助けなど福祉に関する活動」が最も高く、次いで「児童や青少年の健全育成に関する活動」となっている。

居住歴別では、県外から転入してきた方において「自然保護や環境保全、リサイクル等に関する活動」が5割近くとなっている。

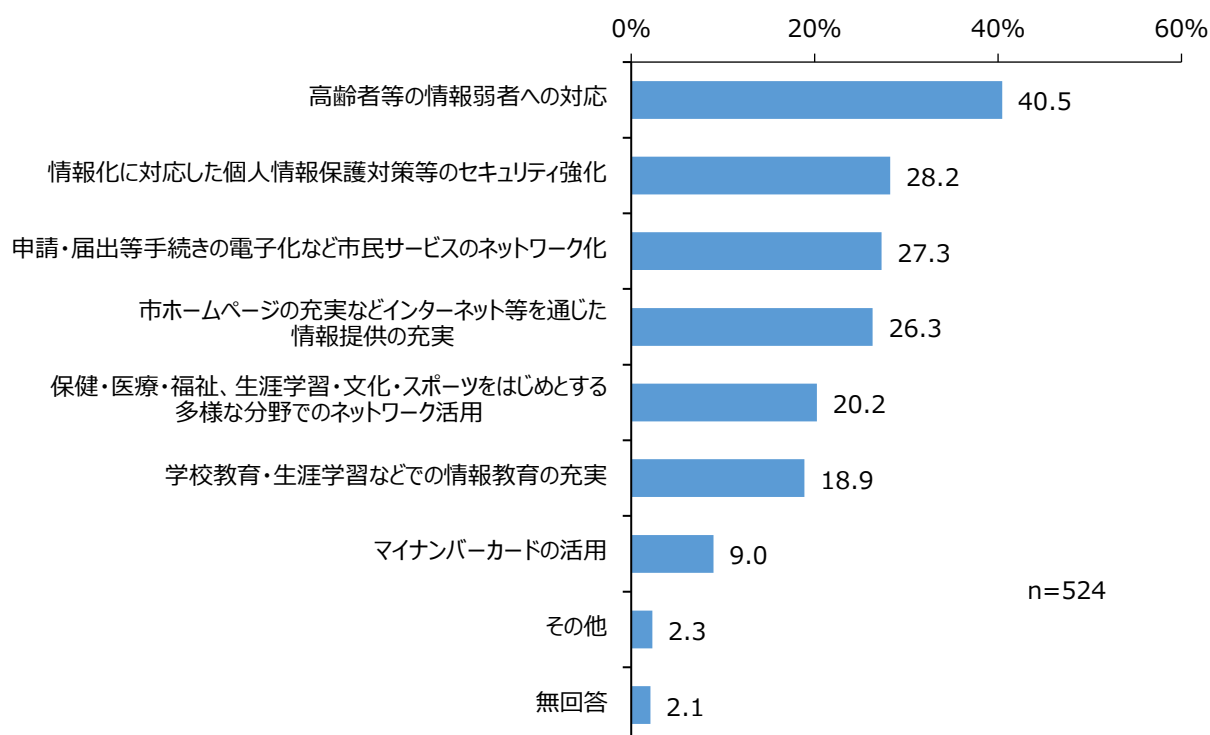
(%)

		自然保護や環境保全、リサイクル等に関する活動	児童や青少年の健全育成に関する活動	教育・文化・スポーツ活動の指導・運営に関する活動	名所案内・説明など観光に関する活動	高齢者や障害のある方の手助けなど福祉に関する活動	通院介助や健康管理の指導など保険・医療に関する活動	地域づくりやまちおこしに関する活動	自主防災や災害援助、交通安全に関する活動	国内外との交流、国際協力に関する活動	その他	無回答
性別	女性(n=118)	26.3	28.8	17.8	7.6	29.7	11.9	19.5	5.1	6.8	6.8	0.8
	男性(n=121)	29.8	10.7	23.1	7.4	19.0	0.8	33.1	16.5	6.6	3.3	1.7
	その他(n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	答えたくない(n=2)	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
年齢	10・20 歳代(n=38)	31.6	23.7	21.1	2.6	34.2	5.3	23.7	7.9	13.2	0.0	2.6
	30 歳代(n=21)	19.0	23.8	33.3	4.8	28.6	14.3	19.0	28.6	4.8	0.0	4.8
	40 歳代(n=39)	15.4	28.2	23.1	7.7	12.8	2.6	33.3	12.8	7.7	2.6	0.0
	50 歳代(n=63)	22.2	14.3	17.5	7.9	28.6	9.5	25.4	6.3	3.2	6.3	3.2
	60 歳代(n=77)	39.0	16.9	16.9	10.4	22.1	3.9	27.3	10.4	6.5	7.8	0.0
	70 歳以上(n=3)	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
居住地区	塩山地域(n=163)	30.1	20.9	16.0	5.5	25.2	6.7	24.5	9.2	8.0	6.1	1.8
	勝沼地域(n=66)	25.8	18.2	28.8	12.1	19.7	6.1	30.3	12.1	3.0	1.5	0.0
	大和地域(n=12)	16.7	8.3	33.3	8.3	41.7	0.0	25.0	25.0	8.3	8.3	0.0
居住歴	市内居住のみ(n=67)	23.9	22.4	19.4	3.0	29.9	6.0	17.9	11.9	9.0	3.0	3.0
	市外居住経験(n=84)	28.6	17.9	19.0	9.5	23.8	4.8	31.0	14.3	8.3	3.6	2.4
	県内から転入(n=54)	18.5	18.5	18.5	11.1	29.6	7.4	24.1	9.3	1.9	7.4	0.0
	県外から転入(n=37)	48.6	18.9	27.0	5.4	8.1	8.1	32.4	2.7	5.4	8.1	0.0

問29 あなたは、ICT（情報通信技術）の発展、DX（デジタル技術の浸透によるより良い生活への変革）の推進などにより進む社会の変化に対応するため、甲州市において今後どのような取り組みが必要だと思いますか。（○は2つまで）

ICTの発展などの社会の変化に対応するために必要な取り組みについて、「高齢者等の情報弱者への対応」が40.5%と最も高く、次いで「情報化に対応した個人情報保護対策等のセキュリティ強化」が28.2%、「申請・届出等手続きの電子化など市民サービスのネットワーク化」が27.3%となっている。

ICTの発展、DXの推進などにより進む社会の変化に対応するため、
甲州市において今後どのような取り組みが必要だと思うか（MA）



	n	%
高齢者等の情報弱者への対応	212	40.5
情報化に対応した個人情報保護対策等のセキュリティ強化	148	28.2
申請・届出等手続きの電子化など市民サービスのネットワーク化	143	27.3
市ホームページの充実などインターネット等を通じた情報提供の充実	138	26.3
保健・医療・福祉、生涯学習・文化・スポーツをはじめとする多様な分野でのネットワーク活用	106	20.2
学校教育・生涯学習などでの情報教育の充実	99	18.9
マイナンバーカードの活用	47	9.0
その他	12	2.3
無回答	11	2.1
	524	100.0

前回調査からの変化

「申請・届出等手続きの電子化など市民サービスのネットワーク化」が10.1ポイント増加し、「保健・医療・福祉、生涯学習・文化・スポーツをはじめとする多様な分野でのネットワーク活用」が9.8ポイント減少した。

(%)

	今回 (A) (n=524)	前回 (B) 平成 28 年 (n=1,015)	比較変化 (A-B)
高齢者等の情報弱者への対応	40.5	46.2	-5.7
情報化に対応した個人情報保護対策等のセキュリティ強化	28.2	29.3	-1.1
申請・届出等手続きの電子化など市民サービスのネットワーク化	27.3	17.2	10.1
市ホームページの充実などインターネット等を通じた情報提供の充実	26.3	28.7	-2.4
保健・医療・福祉、生涯学習・文化・スポーツをはじめとする多様な分野でのネットワーク活用	20.2	30.0	-9.8
学校教育・生涯学習などでの情報教育の充実	18.9	21.0	-2.1
マイナンバーカードの活用	9.0	-	-

※「マイナンバーカードの活用」については、今回新たに追加された項目のため、比較不可

属性別の傾向

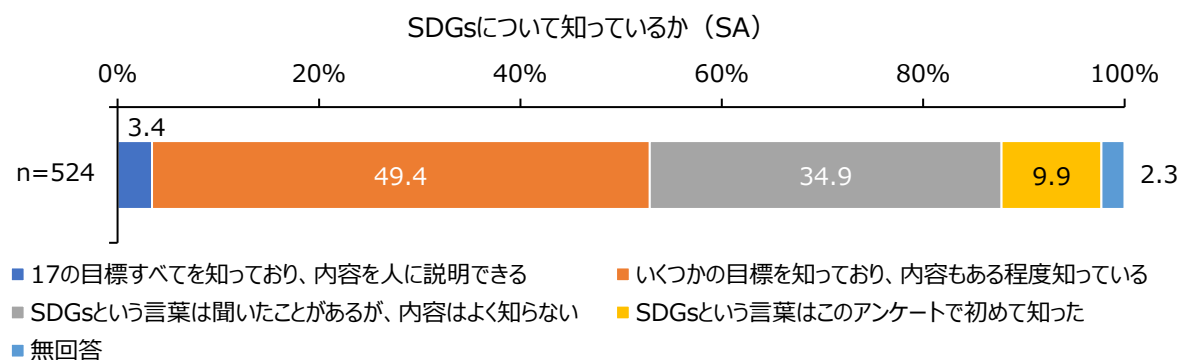
年齢別でみると、「高齢者等の情報弱者への対応」が年齢が高くなるにつれ、割合も高くなっている。

(%)

		市ホームページの充実などインターネット等を通じた情報提供の充実	申請・届出等手続きの電子化など市民サービスのネットワーク化	保健・医療・福祉、生涯学習・文化・スポーツをはじめとする多様な分野でのネットワーク活用	学校教育・生涯学習などでの情報教育の充実	情報化に対応した個人情報保護対策等のセキュリティ強化	高齢者等の情報弱者への対応	マイナンバーカードの活用	その他	無回答
性別	女性(n=276)	26.4	23.6	20.7	18.5	30.1	43.1	8.0	1.8	2.9
	男性(n=239)	26.8	31.0	20.5	19.7	25.9	36.8	10.0	2.9	1.3
	その他(n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	答えたくない(n=6)	16.7	50.0	0.0	0.0	16.7	66.7	0.0	0.0	0.0
年齢	10・20 歳代(n=75)	32.0	30.7	25.3	26.7	22.7	22.7	13.3	1.3	2.7
	30 歳代(n=53)	20.8	37.7	35.8	24.5	24.5	28.3	7.5	0.0	0.0
	40 歳代(n=88)	27.3	33.0	17.0	20.5	30.7	34.1	11.4	0.0	2.3
	50 歳代(n=139)	24.5	26.6	20.1	14.4	28.8	43.2	4.3	3.6	1.4
	60 歳代(n=160)	26.9	20.6	15.0	15.6	30.6	52.5	10.0	3.8	3.1
	70 歳以上(n=6)	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7	83.3	0.0	0.0	0.0
居住地区	塩山地域(n=362)	28.2	23.5	19.3	19.3	28.2	42.0	9.4	3.0	1.9
	勝沼地域(n=135)	23.0	34.1	22.2	15.6	27.4	38.5	8.1	0.7	3.0
	大和地域(n=23)	21.7	47.8	26.1	30.4	26.1	26.1	4.3	0.0	0.0
居住歴	市内居住のみ(n=145)	31.7	25.5	22.1	17.2	28.3	35.9	9.0	1.4	1.4
	市外居住経験(n=162)	22.2	29.0	22.2	17.9	28.4	43.8	8.6	2.5	3.7
	県内から転入(n=143)	23.8	25.2	18.9	16.8	26.6	42.7	11.9	1.4	2.1
	県外から転入(n=71)	31.0	32.4	15.5	28.2	29.6	36.6	2.8	5.6	0.0

問30 あなたは、SDGsについて知っていますか。(〇は1つ)

SDGsの認知度について、「17の目標すべてを知っており、内容を人に説明できる」が3.4%、「いくつかの目標を知っており、内容もある程度知っている」が49.4%で、合計すると52.8%となっている。



	n	%
17の目標すべてを知っており、内容を人に説明できる	18	3.4
いくつかの目標を知っており、内容もある程度知っている	259	49.4
SDGsという言葉は聞いたことがあるが、内容はよく知らない	183	34.9
SDGsという言葉はこのアンケートで初めて知った	52	9.9
無回答	12	2.3
	524	100.0

※新規の設問のため、前回と比較不可

属性別の傾向

ほとんどの属性において「いくつかの目標を知っており、内容もある程度知っている」が最も高くなっている。

(%)

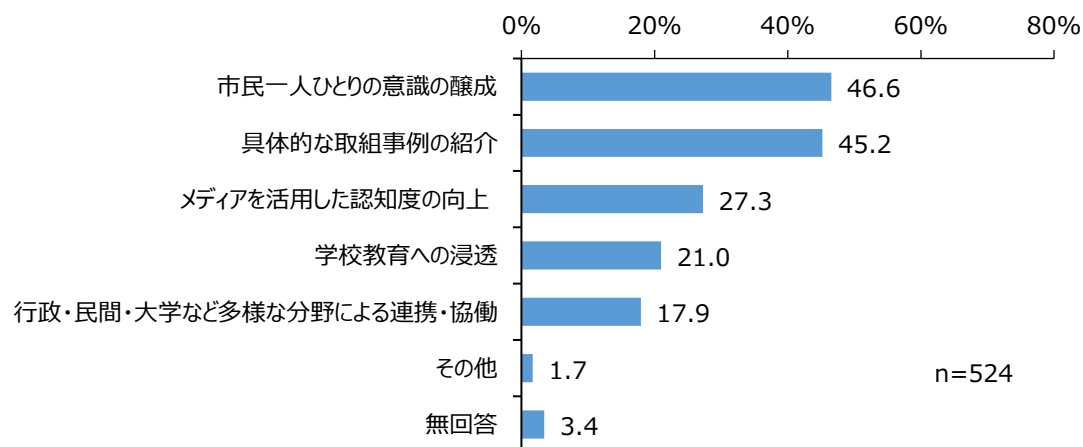
		17の目標すべてを知っており、内容を人に説明できる	いくつかの目標を知っており、内容もある程度知っている	SDGsという言葉は聞いたことがあるが、内容はよく知らない	SDGsという言葉はこのアンケートで初めて知った	無回答
性別	女性(n=276)	2.2	49.3	35.5	10.5	2.5
	男性(n=239)	4.2	50.2	34.3	9.2	2.1
	その他(n=0)	-	-	-	-	-
	答えたくない(n=6)	33.3	16.7	33.3	16.7	0.0
年齢	10・20歳代(n=75)	6.7	44.0	36.0	9.3	4.0
	30歳代(n=53)	0.0	52.8	39.6	7.5	0.0
	40歳代(n=88)	4.5	54.5	34.1	4.5	2.3
	50歳代(n=139)	2.9	48.2	34.5	12.9	1.4
	60歳代(n=160)	3.1	49.4	33.1	11.3	3.1
	70歳以上(n=6)	0.0	33.3	50.0	16.7	0.0
居住地区	塩山地域(n=362)	3.3	49.4	34.8	9.9	2.5
	勝沼地域(n=135)	3.7	46.7	37.8	9.6	2.2
	大和地域(n=23)	4.3	60.9	21.7	13.0	0.0
居住歴	市内居住のみ(n=145)	0.7	46.2	37.2	13.8	2.1
	市外居住経験(n=162)	6.2	51.9	32.7	5.6	3.7
	県内から転入(n=143)	3.5	49.7	35.0	9.8	2.1
	県外から転入(n=71)	2.8	47.9	36.6	12.7	0.0

問31 SDGsを推進していくためには、どのような取り組みが必要だと思いますか。

(〇は2つまで)

SDGsの推進に必要な取り組みについては、「市民一人ひとりの意識の醸成」が46.6%と最も高く、次いで「具体的な事例の紹介」が45.2%、「メディアを活用した認知度の向上」が27.3%となっている。

SDGsを推進していくためには、どのような取り組みが必要だと思うか (MA)



	n	%
市民一人ひとりの意識の醸成	244	46.6
具体的な取組事例の紹介	237	45.2
メディアを活用した認知度の向上	143	27.3
学校教育への浸透	110	21.0
行政・民間・大学など多様な分野による連携・協働	94	17.9
その他	9	1.7
無回答	18	3.4
	524	100.0

※新規の設問のため、前回と比較不可

属性別の傾向

ほとんどの属性において「市民一人ひとりの意識の醸成」および「具体的な取組事例の紹介」が高くなっている。

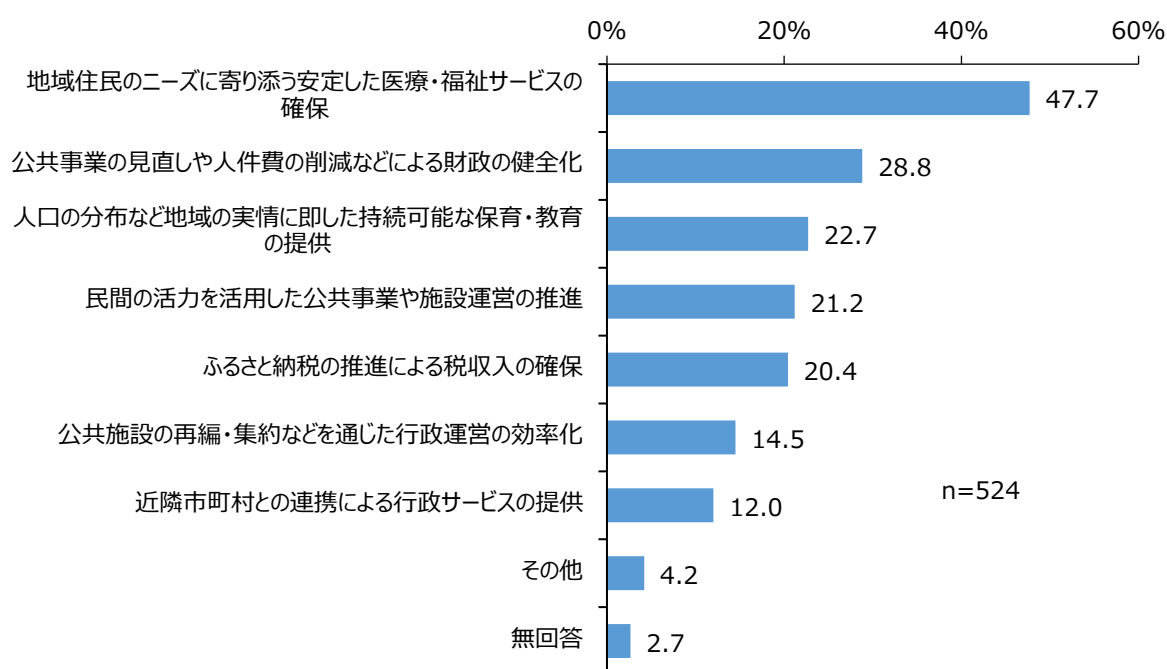
(%)

		向上 メディアを活用した認知度の	市民一人ひとりの意識の醸成	具体的な取組事例の紹介	行政・民間・大学など多様な分野による連携・協働	学校教育への浸透	その他	無回答
性別	女性(n=276)	27.5	46.7	46.7	17.8	24.3	1.1	4.3
	男性(n=239)	27.6	46.9	42.7	18.0	17.6	2.5	2.5
	その他(n=0)	-	-	-	-	-	-	-
	答えたくない(n=6)	16.7	33.3	50.0	16.7	16.7	0.0	0.0
年齢	10・20 歳代(n=75)	34.7	26.7	30.7	34.7	30.7	0.0	4.0
	30 歳代(n=53)	26.4	43.4	43.4	20.8	22.6	3.8	1.9
	40 歳代(n=88)	21.6	50.0	38.6	18.2	35.2	0.0	3.4
	50 歳代(n=139)	27.3	47.5	48.9	16.5	17.3	0.7	2.9
	60 歳代(n=160)	26.3	55.6	53.1	11.3	11.3	3.8	3.8
	70 歳以上(n=6)	50.0	16.7	33.3	0.0	16.7	0.0	16.7
居住地区	塩山地域(n=362)	27.3	46.1	47.5	18.5	21.5	1.9	3.6
	勝沼地域(n=135)	28.1	48.9	41.5	11.1	20.7	1.5	3.0
	大和地域(n=23)	26.1	39.1	21.7	47.8	17.4	0.0	4.3
居住歴	市内居住のみ(n=145)	29.0	40.0	42.8	19.3	19.3	0.0	2.8
	市外居住経験(n=162)	24.7	51.2	46.9	21.0	21.0	3.1	3.7
	県内から転入(n=143)	28.7	45.5	43.4	14.0	22.4	2.1	4.9
	県外から転入(n=71)	28.2	50.7	47.9	16.9	22.5	1.4	1.4

問32 あなたは、人口減少を背景に行財政が厳しさを増す中、甲州市において今後どのような行政運営における取り組みが必要だと思いますか。（〇は2つまで）

行財政が厳しさを増す中で必要な行政運営における取り組みについて、「地域住民のニーズに寄り添う安定した医療・福祉サービスの確保」が47.7%と最も高く、次いで「公共事業の見直しや人件費の削減などによる財政の健全化」が28.8%、「人口の分布など地域の実情に即した持続可能な保育・教育の提供」が22.7%となっている。

人口減少を背景に行財政が厳しさを増す中、
甲州市において今後どのような行政運営における取り組みが必要だと思うか（MA）



	n	%
地域住民のニーズに寄り添う安定した医療・福祉サービスの確保	250	47.7
公共事業の見直しや人件費の削減などによる財政の健全化	151	28.8
人口の分布など地域の実情に即した持続可能な保育・教育の提供	119	22.7
民間の活力を活用した公共事業や施設運営の推進	111	21.2
ふるさと納税の推進による税収入の確保	107	20.4
公共施設の再編・集約などを通じた行政運営の効率化	76	14.5
近隣市町村との連携による行政サービスの提供	63	12.0
その他	22	4.2
無回答	14	2.7
	524	100.0

※新規の設問のため、前回と比較不可

属性別の傾向

いずれの属性においても「地域住民のニーズに寄り添う安定した医療・福祉サービスの確保」が最も高くなっている。

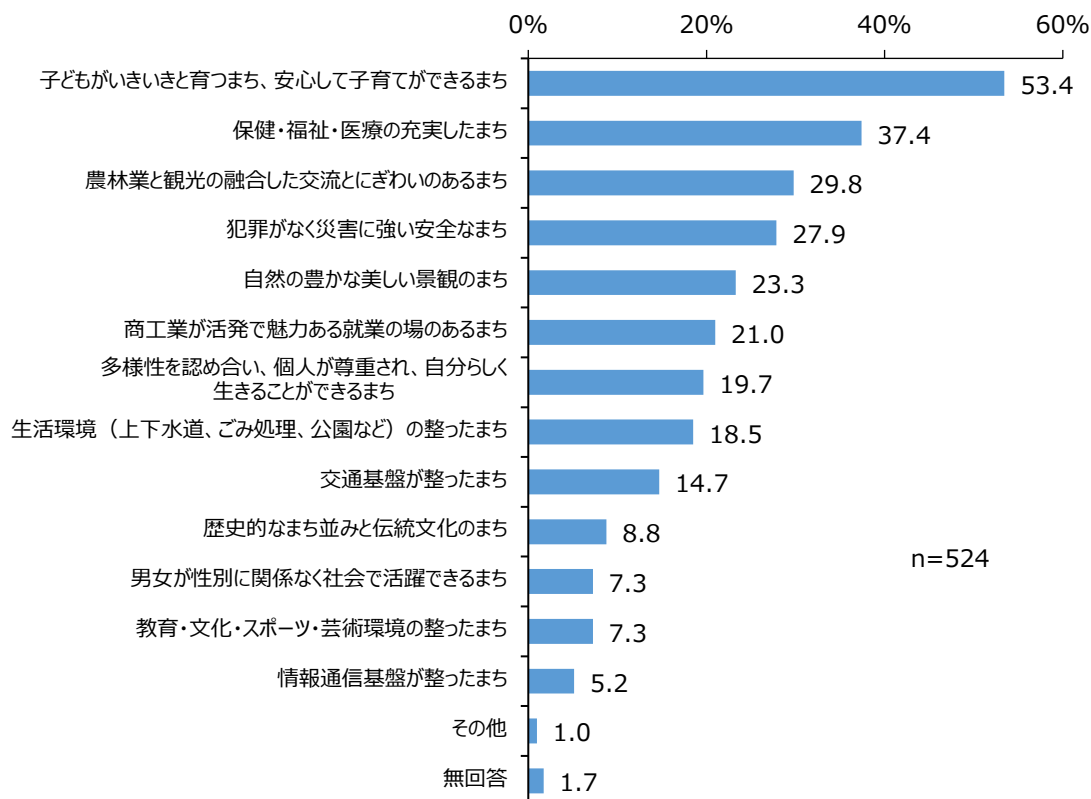
(%)

		地域住民のニーズに寄り添う安定した医療・福祉サービスの確保	人口の分布など地域の実情に即した持続可能な保育・教育の提供	ふるさと納税の推進による税収入の確保	民間の活力を活用した公共事業や施設運営の推進	公共事業の見直しや人件費の削減などによる財政の健全化	近隣市町村との連携による行政サービスの提供	公共施設の再編・集約などを通じた行政運営の効率化	その他	無回答
性別	女性(n=276)	54.0	24.3	20.7	20.3	28.6	8.3	13.4	2.9	2.9
	男性(n=239)	40.6	20.9	20.5	21.8	29.7	15.9	15.9	5.9	2.5
	その他(n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	答えたくない(n=6)	66.7	0.0	16.7	16.7	16.7	33.3	16.7	0.0	0.0
年齢	10・20 歳代(n=75)	42.7	32.0	28.0	18.7	24.0	9.3	14.7	2.7	4.0
	30 歳代(n=53)	37.7	24.5	20.8	32.1	32.1	15.1	11.3	3.8	1.9
	40 歳代(n=88)	47.7	25.0	27.3	21.6	22.7	4.5	17.0	5.7	3.4
	50 歳代(n=139)	44.6	23.0	18.7	18.0	29.5	12.2	12.9	5.8	1.4
	60 歳代(n=160)	55.0	16.3	14.4	21.9	33.1	16.3	15.6	3.1	3.1
	70 歳以上(n=6)	83.3	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	16.7	0.0	0.0
居住地区	塩山地域(n=362)	49.2	22.7	18.5	18.8	31.8	13.3	14.4	4.4	2.2
	勝沼地域(n=135)	45.9	21.5	23.0	25.9	23.0	9.6	14.1	4.4	3.7
	大和地域(n=23)	43.5	21.7	39.1	26.1	17.4	8.7	21.7	0.0	4.3
居住歴	市内居住のみ(n=145)	50.3	24.1	20.7	17.2	29.0	12.4	17.2	1.4	3.4
	市外居住経験(n=162)	50.0	20.4	19.1	22.8	27.2	13.6	13.6	3.7	3.7
	県内から転入(n=143)	42.7	23.1	22.4	23.8	26.6	11.2	12.6	5.6	2.1
	県外から転入(n=71)	49.3	21.1	19.7	19.7	36.6	9.9	15.5	8.5	0.0

問33 あなたは、今後のまちづくりについて、甲州市をどのような特色のあるまちにするべきだと思いますか。（〇は3つまで）

甲州市をどのような特色あるまちにするべきかについて、「子どもがいきいきと育つまち、安心して子育てができるまち」が53.4%と最も高く、次いで「保健・福祉・医療の充実したまち」が37.4%、「農林業と観光の融合した交流とにぎわいのあるまち」が29.8%となっている。

今後のまちづくりについて、甲州市をどのような特色のあるまちにするべきだと思うか（MA）



	n	%
子どもがいきいきと育つまち、安心して子育てができるまち	280	53.4
保健・福祉・医療の充実したまち	196	37.4
農林業と観光の融合した交流とにぎわいのあるまち	156	29.8
犯罪がなく災害に強い安全なまち	146	27.9
自然の豊かな美しい景観のまち	122	23.3
商工業が活発で魅力ある就業の場のあるまち	110	21.0
多様性を認め合い、個人が尊重され、自分らしく生きることができるまち	103	19.7
生活環境（上下水道、ごみ処理、公園など）の整ったまち	97	18.5
交通基盤が整ったまち	77	14.7
歴史的なまち並みと伝統文化のまち	46	8.8
男女が性別に関係なく社会で活躍できるまち	38	7.3
教育・文化・スポーツ・芸術環境の整ったまち	38	7.3
情報通信基盤が整ったまち	27	5.2
その他	5	1.0
無回答	9	1.7
	524	100.0

前回調査からの変化

上位 6 項目については、前回と同じ順位となっている。

(%)

	今回 (A) (n=524)	前回 (B) 平成 28 年 (n=1,015)	比較変化 (A-B)
子どもがいきいきと育つまち、安心して子育てができるまち	53.4	52.7	0.7
保健・福祉・医療の充実したまち	37.4	42.3	-4.9
農林業と観光の融合した交流とにぎわいのあるまち	29.8	33.2	-3.4
犯罪がなく災害に強い安全なまち	27.9	31.1	-3.2
自然の豊かな美しい景観のまち	23.3	25.6	-2.3
商工業が活発で魅力ある就業の場のあるまち	21.0	23.6	-2.6
多様性を認め合い、個人が尊重され、自分らしく生きることができるまち	19.7	-	-
生活環境（上下水道、ごみ処理、公園など）の整ったまち	18.5	17.1	1.4
交通基盤が整ったまち	14.7	12.7	2.0
歴史的なまち並みと伝統文化のまち	8.8	13.5	-4.7
男女が性別に関係なく社会で活躍できるまち	7.3	10.2	-2.9
教育・文化・スポーツ・芸術環境の整ったまち	7.3	11.7	-4.4
情報通信基盤が整ったまち	5.2	3.2	2.0

※「多様性を認め合い、個人が尊重され、自分らしく生きることができるまち」については、今回新たに追加された項目のため、比較不可

属性別の傾向

ほとんどの属性において「子どもがいきいきと育つまち、安心して子育てができるまち」が最も高くなっている。

(%)

		子どもがいきいきと育つまち、安心して子育て ができるまち	保健・福祉・医療の充実したまち	生活環境（上下水道、ごみ処理、公園など）の 整ったまち	農林業と観光の融合した交流とにぎわいのある まち	商工業が活発で魅力ある就業の場のあるまち	交通基盤が整ったまち	情報通信基盤が整ったまち	犯罪がなく災害に強い安全なまち	自然の豊かな美しい景観のまち	歴史的なまち並みと伝統文化のまち	男女が性別に関係なく社会で活躍できるまち	教育・文化・スポーツ・芸術環境の整ったまち	多様性を認め合い、個人が尊重され、自分らし く生きることができるまち	その他	無回答
性別	女性(n=276)	56.5	41.3	19.2	26.4	17.8	14.1	3.3	29.3	23.6	9.4	7.6	5.8	23.9	1.1	1.1
	男性(n=239)	49.0	32.6	18.0	33.9	25.5	15.5	7.1	26.4	23.4	8.4	6.3	8.8	14.6	0.4	2.5
	その他(n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	答えたくない (n=6)	66.7	50.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	16.7	16.7	0.0	33.3	16.7	33.3	16.7	0.0
年齢	10・20 歳代 (n=75)	50.7	28.0	16.0	18.7	24.0	16.0	5.3	26.7	22.7	10.7	14.7	12.0	25.3	0.0	2.7
	30 歳代(n=53)	69.8	26.4	22.6	26.4	34.0	13.2	3.8	22.6	26.4	5.7	9.4	3.8	17.0	0.0	0.0
	40 歳代(n=88)	60.2	30.7	6.8	37.5	22.7	10.2	5.7	28.4	23.9	12.5	4.5	8.0	20.5	3.4	2.3
	50 歳代 (n=139)	49.6	38.1	18.7	37.4	18.7	18.0	7.2	26.6	21.6	7.2	5.0	5.0	18.0	1.4	2.2
	60 歳代 (n=160)	46.3	47.5	25.0	25.6	16.9	15.0	3.1	30.6	24.4	8.8	5.0	8.1	19.4	0.0	1.3
	70 歳以上(n=6)	100.0	50.0	16.7	16.7	16.7	0.0	0.0	33.3	16.7	0.0	33.3	0.0	16.7	0.0	0.0
居住地域	塩山地域 (n=362)	53.0	38.4	18.0	26.8	22.9	15.5	4.1	27.6	21.5	9.9	7.2	6.9	19.9	0.8	1.7
	勝沼地域 (n=135)	52.6	36.3	22.2	35.6	14.8	13.3	7.4	31.1	28.1	5.9	6.7	7.4	21.5	1.5	0.7
	大和地域 (n=23)	56.5	30.4	4.3	34.8	30.4	13.0	4.3	13.0	21.7	8.7	13.0	13.0	8.7	0.0	8.7
居住歴	市内居住のみ (n=145)	57.2	42.1	16.6	24.8	18.6	17.2	4.8	33.1	15.2	8.3	9.0	7.6	21.4	0.7	0.7
	市外居住経験 (n=162)	55.6	35.8	16.7	34.6	22.2	9.9	4.9	17.9	31.5	9.9	4.3	7.4	16.7	1.2	3.1
	県内から転入 (n=143)	49.0	38.5	23.8	23.8	24.5	15.4	4.2	32.9	21.0	8.4	8.4	7.7	19.6	0.0	2.1
	県外から転入 (n=71)	47.9	29.6	16.9	39.4	16.9	19.7	7.0	29.6	25.4	8.5	8.5	5.6	23.9	2.8	0.0

問34 最後に、市の行政に望むことやまちづくりについてのご意見がありましたら、率直なお考えをお聞かせください。(自由記述)

※全文掲載

- 悩みを聞いてくれる機会をたくさんつくってほしい。たくさんお祭りを開いて地域を活性化してほしい。(10・20 歳代/女性)
- 駅前にコンビニを設置してほしい。温泉・旅館街の活性化・整備。空き家・空き地の管理の徹底・再利用（リノベーション）。室内遊び場の設置。(10・20 歳代/女性)
- いつもありがとうございます。(10・20 歳代/女性)
- 保育士への支援制度の充実。(10・20 歳代/女性)
- イオンやロフトなどの大型商業施設、スターバックスなどのカフェ等、若者の娯楽の場を拡充してほしい。(10・20 歳代/女性)
- 個人個人の意見も大切だと思うが、市全体に目を向けたらもっと大事なことがあると思うので、ただ意見を聞くだけではなく、市民の意見を形として残すことが今は重要だと思う。自然を感じられたり、暮らすには十分な施設が多くあるので、あとは外側からではなく内側から変えることが大切だと思う。(10・20 歳代/女性)
- 若者が甲州市に住み続けたいと思えるような場所にしてほしい。(生活する場所、遊ぶところ、カフェや服を買うところなどが充実しているとか) それとともに、高齢者にとっても優しい町にしてほしい。ずっと住み続けたいと思わせるような。(サービス {生活・介護} の充実。交通の利便性をよくするとか) そのためには、まず若い働ける人を増やして、サービス等を充実させていかなきゃだと思います。県立大学生より(10・20 歳代/女性)
- 小学生の頃から危険箇所の修復について言及しているのに、何年経っても変わっている気がしません。このアンケートをして、甲州市は私たち市民が納得のいく町になるのですか？書いて変わるのだったらいくらでも書きます。変わらないのだったら、このアンケートは意味がないと思います。(10・20 歳代/女性)
- 未だに残業申請が電子化（カードによるもの）ではなく、紙で行っているのは本当ですか？正直、時代に逆行しているのではないですか。(10・20 歳代/女性)
- 街づくりのためにありがとうございます。(10・20 歳代/女性)
- 甲州市、眠っている様な市だと思う。もっと活力ある市になってほしい。活き活きとした楽しい市。もっと市長さんが一般の人と活動・話ができる、楽しくすごすとか考えてほしい。道路もせまい。(10・20 歳代/女性)
- 市の現在の状況や情報を知る手段が少なく、行政について分からない点が多い。取り組んでいる事をもっと様々な人に向けて発信してほしい。(10・20 歳代/女性)
- バスの本数を増やして欲しい。最低でも1本/h ぐらい。できれば2本/h ぐらいほしい。塩山駅前には北口南口ともにさびれているので、もうちょっと施設がほしい。旧校舎の跡地は別の建物として再利用できると思う。図書館をもっと大きくして欲しい。特に子ども図書館。特に塩山の北側で再開発を行ってほしい（けっこうさびれているため、南口に比べて商店が少ない）(10・20 歳代/男性)

- 大日影トンネル遊歩道を補修してもらいたい。(10・20 歳代/男性)
- 質問の選択3つまでとかあるけれど、優先順位つけてすべてはじからしっかりやっていけば。これだけの項目が出せているわけであるから、その項目が市とすると気になっていることなのだろうし、選べと言われてもよくわからんから記入しにくい。(10・20 歳代/男性)
- お年寄り向けの政策は良いと思うが、若者向けにも政策を出さないと、今は良くても後退する一方である。昔の古く固まった考えは捨て、柔軟に幅広い考えを持ち、未来の財政安定に向け、今はお金を使った方が良くと思います。若者への投資は、今ではなく数年後のリターンが大きいと思います。(10・20 歳代/男性)
- 「補助金」をうまく利用した政策を望みます。(10・20 歳代/男性)
- アンケートを書いてみて、自分にはあまりわからない部分もありましたが、自分に分かるところは一生懸命答えたつもりです。少しおかしな部分もあるかもしれませんが、私の意見が少しでもこれからの未来に役立つことを願います。ありがとうございました。(10・20 歳代/男性)
- いつまでも、川や山といった自然が綺麗な町であってほしいです。(10・20 歳代/男性)
- 市や県の古くなった団地の建て直しをして、市民が自立するのに安い家賃で生活出来る環境を作ってほしい。(10・20 歳代/男性)
- スポーツが出来る施設や広い公園がもっとほしい。格闘技ジム、バスケコート、サッカー場（学生たちが気軽に利用できる）施設がほしい。例：甲斐市のやはた公園のバスケットコート、小瀬スポーツ公園の芝生の広場、押原公園のような公園。(10・20 歳代/男性)
- 大学や専門学校へ進学する事への補助金や支援金などの制度創設。近年、上下塩後地区の店舗の閉店や開店が激しい為、長期的な商業店舗の誘致や住宅地内へのコンビニ誘致支援。(10・20 歳代/男性)
- 子供たちが活動できる場が少ないと思います。様々なイベントがなくなり、学校以外の交流もなくなり、勉強だけでなく心の育成につながるような行事をたくさんしてほしい。(30 歳代/女性)
- 「子育て世帯」にとって子育てしやすいというのはとても有り難いことなので、強化していただきたいと思います。市の中心部、山の方など全体的に街灯が少ないイメージがあるので、必要な場所には安全面のために設置していただきたいと思います。今回せっかく 1,000 人の中の 1 人に選ばれたので、少しでも市民の声が届くことを祈っています。私は東京から山梨に来て 3 人の子どもを出産しました。山梨でなければ 3 人の子育ては難しいと思っています。更に子育てしやすくなれば良いなと思っています。(30 歳代/女性)
- 誰もがスポーツをしたい、身近に感じられるような施設やイベントを充実させてほしいです。地域の交流の場が増えると思う。給食費の無料化は本当に助かっています。子供が 3 人居るので、少しでも補助があるとありがたいです。甲州市の自然が豊かなところは大好きです。(30 歳代/女性)

- 電動自転車ぐるりんが塩山駅前に置いてあるが、雨よけもなくせっかくの自転車がもったいない気がする。せめて屋根下に置くのが良い気がするのですが。塩山駅が改装され、現在バスターミナルの整備がされているが、駅前にお店がないため観光客が困惑していた。以前コンビニ等はないのかと聞かれ、ないと答えるとガッカリしていたので、観光客誘致をしたいなら検討すべきかと。(30 歳代/女性)
- 保育園の無償化。子育て世帯への支援。子供が 4 人。保育園が入れなく、主人のみの収入。少子化に協力していても、自分が苦しくなるだけ。支援されるのは母子家庭のみ。離婚した方が得なのでしょう。(30 歳代/女性)
- 農家をないがしろにしないでほしいです。(30 歳代/女性)
- 子育て支援の充実をお願いします。経済的支援など。(30 歳代/女性)
- アンケートをとるだけで終わらないように。(30 歳代/女性)
- 松里地区に住んでいます。10 月に行われている地区の運動会たる行事を廃止して下さい。(30 歳代/女性)
- 前澤さんが市町村に納税する話ですが、応募の一覧に甲州市はありませんでした。吉田と河口湖は 1000 万もらっています。PR できるものはあるのに…。あと、楽天内のことですが、富士吉田が県内寄付 5 年連続 No1、月間ふるさと納税賞などを獲っています。ショップの返礼品 No1 と No2 はシャインマスカットです。市場のシャインは甲州産だと思うので、量を増やしたりして他の市より優位にすべきです。私は吉田の人間ですが、久々に帰ったら、道路がたくさんできていて、新しい道には企業やお店がたくさんできていました。(30 歳代/女性)
- バスをもっと利用できるようにしてほしい。(30 歳代/女性)
- 不妊治療の費用はもちろんのこと、子供を産みたいと思えるように（3 歳までの保育料の負担を減らしたり、公園を作ったり）してほしい。(30 歳代/女性)
- 出生率を上げる為の政策、子育てに関する政策を最重視していただきたい。子供の数が増えるのが一番の経済政策になります。(30 歳代/男性)
- 塩山以外の地域も開発してください(30 歳代/男性)
- 自転車をレンタルしているが自転車が走るには危ない道がまだまだ多く存在する。広い歩道や広い道路を整備する必要があると思う。子供が自転車で通学したり出掛けたりする時にも狭い道路は危ない。子供の遊び場も少ないと思う。みんな同じ公園などに行くので満足に遊べない事が多い。普通に生活する分には食品などの購入には困らないが、大きい商業施設がないので遠出ししないとならないので、市内にあると便利。(30 歳代/男性)
- こういったアンケートの実施を増やすなど、もっと多くの市民の声に耳を傾けて市政の運営等に活かして欲しい。(30 歳代/男性)
- 環境センター跡地への企業誘致をしてください。公園や公共施設の場合、維持費が継続的にかかるので財政を圧迫する要因になると思う。企業の地方移転が進む中、あれだけの広さを持つ土地であれば何かしらの企業誘致が可能では。(30 歳代/男性)

- このアンケートに常にかかせて頂いているのと、項目にも多くありますが、子育てや教育の充実。また、公共事業や介護の充実をお願いしたい。特に子育ては保育時間が短い所は働く人にとって利用しやすいようにするため、時間延長かまたは放課後サービス（小学生のように）を充実させてほしい。できれば土日の開放も。そしてそのスタッフは資格のない人ではなく有資格の専門的な方をお願いしたい。なぜならファミサポさんの方で預かっているにもかかわらず、外に車でつれて外出したり、自宅にいる小中学生の子どもに見させて本人は外出したり見ていなかったりする現状を何度も見たり聞いたりした。それで預けるのが不安で利用をしたいのに拒んでいる方も多い。よってこの要望が一番高いので、是非見直して実践をお願いしたい。保険があるからということではなく（これも何かあってからでは遅いし、保険で子どもの命のかわりにはならない）、利用したい方が多く利用できる様にするためにです。乱筆乱文ですみません。何年も前から同様のことを記入しているが改善されないのも不安です。(40 歳代/女性)
- 甲州市はとても住みやすく、子育てもしやすい市だと思うので、そこに力を入れれば住む方も増えるのではないかと思います。お店もたくさんありよい街です。(40 歳代/女性)
- こまめな草・木の手入れ→不法投棄防止、害虫・害鳥などの被害減など。常にキレイなまちと認識される＝意識改革につながる。(40 歳代/女性)
- 子どもの数が減ってきているので、学校の児童数も減ってきています。何か対策を考えていただきたいです。若い方が移住してみようと考えていただけるような、魅力的な施策をぜひよろしくお願いします。(40 歳代/女性)
- 行政をなかなか意識することは日常生活の中では少なく、それは不満なく生活できているからだと思う。子育て支援については国政でも力を入れている政策ではあるが、年をとることに対してみんな不安をかかえている。「としをとってもいいことはない」そんな高齢者が今後ふえていく中、行政の方でもいい知恵があればずっと住んでいたい町につながっていくのではないのでしょうか。(40 歳代/女性)
- 健康診断や学校教育のゆとりなど、移住して良かったと感じております。土砂災害、河川の増水など、今後どうなるか分かってなくなっています。私は川を通過して山のそばに避難が決められている。今の避難場所へは行きたくありません。東日本大震災でも、避難場所にて多数の被害にあわれる方が出てしまいました。避難経路、場所の見直しをお願い申し上げます。無理でしたら、地区毎に避難場所の指定は無くしていただきたいと思います。(40 歳代/女性)
- 全体的に出身者でないと分からない点が多いと感じています。勤務先が甲州市内でなく子どももいないため、地域との繋がりが薄いのは仕方ないのかもしれませんが、帰属意識が薄いままです。「勝沼」というと県外の友人も知らない人がいないほど有名で、その点については誇らしく思っているだけに、なかなか地域コミュニティに入ることができず、寂しい思いがあります。病気になった際も、どこに行けばいいかインターネット頼りの状態です。このまま高齢になるのが不安です。(40 歳代/女性)

- ゴミの分別について、もしかしたらまだ周知が十分ではないのかな、と覚ることがあります。塩山駅周辺に早くコンビニができると良いです。観光客の方に何回か「コンビニはどこですか？」と道で聞かれたことがあり、近くに無いことにガッカリされていました。なんだか申し訳なく思いました。(40 歳代/女性)
- もっと市が頑張っていることや課題など情報を出してもいいのではないかと思います。中が見えない、知らないことに不満だけがふくらんでいるように思います。周囲からは不満の声ばかり聞きますが、時に私も言いますが、そうはいっても誇れる町でありたい。これからの行政に期待を込めて…微力たる一個人も頑張ります。(40 歳代/女性)
- こういうアンケートを通して、市民の声を市政に反映してもらえるといい。アンケートでは選択項目に本意ではないものもあったので、自由記述ができる箇所も増やしていただけるといいと思う。(40 歳代/女性)
- 行政に新しいことを許容する、お金を生む努力が足りていないと感じます。市民にとって変えるべきことは変えていく、持続可能な行政の仕組みを考えていくべきだと思います。(40 歳代/女性)
- 子育て世帯なので給食費や医療費等でとても助かっています。パートナーシップなど甲州市は他の市町村よりも早く取り組んでいて素晴らしいと思います。子育て環境が良ければ住居を構える世帯が増えると思います。あとは仕事先がなかなかないのが難点です。男女共同参画もあります、まだまだ母親が子育ての主体となる事が多いので甲州市に働きやすい環境があれば、甲州市を拠点に生活する世帯が増えるのではないかと思います。(40 歳代/女性)
- 市民病院に産婦人科の設置。上水道の老朽化の改善。必要性が疑問視される新規道路工事（交通量の割に無駄に道路が多く大きい）。(40 歳代/男性)
- ワクチン接種会場にあんなにたくさんの職員はいらないと思う。税金のむだ。公務員の人員削減を希望します。(40 歳代/男性)
- 人口減少が進む中、若い世代が住みやすいまち作りが必要だと思う。その為には教育と働く場が充実した活気のあるまちにしたい。移住しやすい助成金などの拡充も必要だと思う。(40 歳代/男性)
- 松里地区に住んでいます。直近 2、3 年は新型コロナウイルスの為、開催されていませんが、松里地区（10 月）の運動会ですが、廃止してほしいです。お金の無駄です。しかも飲酒し、その後激しい運動をする為非常に危険です。(40 歳代/男性)
- ワイン県・州というのなら、いよいよ本腰入れて醸造用ブドウへの支援をしてほしい。どんどんシャインに改植されています。このままでは醸造用を栽培する人いなくなりますよ。ワイン商工も元の形へ。(40 歳代/男性)
- 中学校の統合について。大反対です。周辺の地域を切り捨てる政策はやめてほしい。松里を衰退させる行為、学校の無い所に若い人は住んでくれません。街中、中心だけでなく、地方を活性させるような政策に転換してください。若い夫婦が好んで移り住みたいと思える環境を構築してもらいたい。(40 歳代/男性)
- 駅の美化（鳥多すぎです）。ICT 技術を取り込んだ各種申請手続きのデジタル化。ふれあいの森をメガソーラー発電。(40 歳代/男性)

- 道路や水路など危険な箇所が多いので、早く改良・修繕をしてほしい。(40 歳代/男性)
- 人口を増やす施策。(40 歳代/男性)
- 市議会議員の定数削減、機動性の高い消防団の組織づくり、水道料金の値下げ、障害者への支援の充実(40 歳代/男性)
- 勝沼町菱山の住民ですが、駅から勝沼の中心部、ワイナリーを歩く際に歩道がなく危ないので早急に整備して下さい。(40 歳代/男性)
- まず市役所で働く人の負担を減らすために、無駄なアナログ作業をやめて、デジタル化を進めてほしいです。(40 歳代/答えたくない)
- ムダが全体的に多いと思うので、効率化できるものを進めていけばよいと思う。このアンケートも紙でなく、ハガキ等で通知し、ネットで回答する等のシステムや仕組みが全国に比べて遅れていると思いました。個人の見解で勝手を書き失礼しました。(50 歳代/女性)
- 玉宮地区はバスの本数が少なく、中学通学の際は 4~5km の道のりを歩いて帰った。デマンドバスの利用を電話で聞いたが、前例がないのでダメと断られた (5~6 年前の事)。甲府の高校に通うには間に合うバスがなく親が送迎した。子育てをするにはとても不便であった。このままでは子育て世代が、子育て不便を感じて玉宮には住まなくなる。また、甲州市内には職場が少なく通勤時間がかかるため、仕事時間に制限がでてしまうとを感じる。職場が遠いと農業の手伝いにも支障を感じる事がある。(50 歳代/女性)
- 市民が長く住み心地のいい市政であってほしいと願います。また、甲州市の良さを多くの人に知ってほしいと願います。市の財政が厳しいことはわかりますが、一部の人のためにそこにお金をかけるのか？と思うところもあり、多くの市民の願いを幅広く受け止めていただけるとありがたいです。また、その声をどこへどうやって届けばいいのかということがわからず、自分自身も行動力もないため、このアンケートをその場にできたことをラッキーと思いました。参考になるかどうかわかりませんが、協力させていただきました。ただ、アンケート数が多くて大変だと感じました、その事はお伝えさせていただきます。(50 歳代/女性)
- 訪れる人がもう一度訪れたい、なんだったらここに住みたい、と思える街が理想です。特別な街ではなく、どこにでもある街だけどこか気になる、そんな街づくりが出来ればいいなと思います。移住者に優しい街でもあってほしいです。(50 歳代/女性)
- 私は精神障害者なので、障害者でもできる仕事を作ってほしいです。今まで働いたことがありますが、いじめにあって辞めていて、ひどいことを言われやめているので、今はたまにデイケアへ行っています。これから福祉施設が増えてくれることを祈ります。交通も不便なのでバスや電車の数を増やしてほしいです。車は持っていないので、車がなくても生活できる交通の便をスムーズにしてほしいです。甲州市は、桃の花が咲いたりぶどうができたり、環境は良いと思います。塩山北口の甘草屋敷もとても良いと思います。これからも歴史のある、魅力的な街にしてください。仕事ができる職場をたくさん作ってほしいです。私は健康なようでも体が弱く精神的にも弱いので、福祉の充実をお願いします。これからもよろしくお願いします。母と父が亡くなって、今は訪問看護の人とヘルパーさんにきてもらっています。これでなんとか生活しています。この甲州市が素敵な街になってくれることを祈ります。これからも美しい街であり続けることを祈っています。(50 歳代/女性)

- 市民に優しく住みやすい市に出来ますようにお願いします。(50 歳代/女性)
- 大和町の国道 20 号にある国土交通省の下歩道橋は、鉄の所に穴がところどころあき、崩壊の危険を感じる。小学生が毎日通ることを考えると大至急直していただきたい。合併してから大和の役場は支所となり、同じように税金を払っているが非常に不公平感をもっている。何か大きな事故があってからでは遅いので、市として対策を考え対応していただきたい。大和中学校の閉校に関して大和町民の意見がほとんど反映されぬまま「コロナ」という名のもと、歴史ある学校があつという間に幕をとじた。CATV で閉校の様子が流れるのみで、他市部の閉校のように、写真などの展示や学校を開放しての見学もなかった。卒業生の中に納得いかない声も多い。その地域に納得のいくような行政・取組をぜひお願いしたい。歴史的な建造物のアピールをした方がよい。すばらしい寺社などをもっとアピールしてもよいと思う。(50 歳代/女性)
- 勝沼保育園がなくなり、保育園を 1 つ作ってほしい。(50 歳代/女性)
- 長期的な考え方で「まちづくり」を行ってほしいです。100 年後にどのような「まち」になるかイメージして生活していきたいと思っています。(50 歳代/女性)
- 昨年登山客が塩山駅で「いちばん近くのお店はどこですか？」と聞いてきた。今の状況だと「近く」と言っても実際は「遠く」になってしまう。もう少し駅の近くにお店があると登山客は助かると思う。駅周辺に活気が戻ってくれるとうれしいと思った。(50 歳代/女性)
- 於曽公園の周りの木を切ってほしい。(50 歳代/女性)
- 市民一人一人が安心して豊かにいきいきと生活できるまちづくりに期待しています。(50 歳代/女性)
- 甲州市から人が出ていかにようにする。人が入ってくるためには、工業用地を考え働く場所を作るべきです。求人を見ても峡東地域の求人は少なく、若い人が出ていってしまう。働く場所が増えると、住む場所（住宅）の充実が必要。甲州市は他市に比べると宿泊施設が少ない。ワインや果物を買っても、泊まる場所がないので、日帰りか他市に宿泊して帰る。もったいない。甲州市は緑豊かで、自然がいっぱいなのを売りにしているのに、活用できていない。グランピング施設やキャンプ場、大久保グリーンロッジの場所の再利用など、他市に比べて宿泊施設・観光・道の駅など売りがない。ワイン・果物だけでは、その季節だけ日帰りで栄える。年寄りに免許の返納を求めているのに、何もかも不便すぎて、母親には返納をさせられない。そのことを考えると、自分は不便な所で永住することは考えられない。税金を毎月多く納めているが、何に使われているのか？と思う。市議員も大勢いる割に、上記の内容が全く満たされていない。人数確保だけが目的なのではないでしょうか。会議の内容が、PDCA サイクルで見えないので、進んでいるのかただただ会議をしているパフォーマンスを見せているのか、結果が見えないです。(50 歳代/女性)
- 駅周辺も観光スポットが充実して、電線の無い街並み、植樹は花の木（はなみずき etc.）が理想です。(50 歳代/女性)
- 豊富な観光資源を上手にアピールし、人が集まる元気なまちづくりをしてほしい。(50 歳代/女性)

- 他の市に比べて、粗大ごみの出し方が面倒くさくなったので、前のようにしてほしいです。(50 歳代/女性)
- 子どもたちが元気に安心して生活ができ、医療や福祉が充実し、農林業や観光のさかんな街となしてほしい。(50 歳代/女性)
- 納付税の有効活用（透明化）。空き家、空き農地等の有効活用方法の情報提供。医療介護の質の向上。子育て環境の保護（共働き世帯、ひとり親世帯等）。高齢者の生活保護（独り世帯、医療を必要とする老人等）。安定した就業場所確保と賃金向上。(50 歳代/女性)
- 今、住んでいる勝沼はとても住みやすい町です。自然が豊かで人ものびのびとしています。ただ、身近で、高齢化やぶどう畑の後継者がいない問題を、ひしひしと感じています。美しいこの土地の景観や産業を守るためにどうしたらいいのかと一般市民である私も、日ごろから考えさせられます。この土地が今のまま素晴らしいぶどうとワインの故郷であるよう、たくさんの方の知恵を持ち合い、どうぞ行政の方々の力をお貸しください。よろしくお願いします。(50 歳代/女性)
- 市役所に私用で行ったとき、必ず、受付をする人が対応して事務処理できるとよいと思います。いつも最初の方が私用事のことをわからず奥の人が来て二度手間になっているケースが多いです。一度に私用の件がわかるように職員の教育をしてほしいです。各課ごとに事務をされている人たちは、その課の仕事内容を把握していれば、一度で事が済むし、時間の短縮にもつながります。その点、よろしくお願いします。(50 歳代/女性)
- 勝沼インターの周辺を整備して大規模な道の駅をつくることで、観光客の増員につながると思います。（中道の交流センターの施設は県外者で平日もいっぱいです）今以上に、果物、ワインの特産物を活かしてもらいたい。公園は金川森公園（笛吹市）のような自然豊かな公園がいいです（公園の場所は、インターを降りて中央道上の周辺）。旧市役所の跡地にできた広場は、あまり実用的ではないように思いました。(50 歳代/女性)
- 送付が遅くなり申し訳ありませんでした。地域の声、一人の声を市議会議員が聞き取り、行政に反映してくださっていることを感じます。市役所の方々も丁寧に対応してくれており、市民に寄り添ってくださっています。感謝しています。今後も引き続き、安心、安全に市民が生活していけるよう、よろしくお願いいたします。(50 歳代/女性)
- 定年後はこの町を離れたい(50 歳代/男性)
- このようなアンケートから市民の意見を聞き入れ、ぜひとも実行してほしい。がんばりましょう。(50 歳代/男性)
- 高齢者のための施策よりも、結婚・出産・子育ての施策に力を入れるべき。(50 歳代/男性)
- 今の行政に意見などを提案してもほぼ無理な気がしています。甲州市を良くするには時間がかかる。時間が必要。企業を増やして税収のアップ。(50 歳代/男性)
- 楽天等の 5G 環境などをはやく整備してほしいです。(50 歳代/男性)
- 若い人材を育てていく取り組みが、今後の世の中を変化させていく。議員削減等、税金の在り方使い方の方法を変えることを望みます。(50 歳代/男性)
- 近所でも空き家が目立つようになり、防犯上もよくないと思う。畑も、後継者がいなくて空き地になっている所も多く、問題だと思う。(50 歳代/男性)

- 伊勢神宮や熊野大社のように、身が引き締まる本当の観光地をつくる意思があるのかどうかだと思います。(50 歳代/男性)
- 老若男女それぞれの年代で、これイイネ！がたくさんある（街・町）作りが、活性化に繋がると思う。何がイイネ！か、アンケートをとってみてはどうでしょう？甲州市は、まだ残念だなあとすることがよくあります。歩道については、点字ブロック、車椅子、親子の自転車、安全に通れる状態ですか？道路の舗装状態が残念。広場は整備されていても、樹木がなく日影がない為休めない。(50 歳代/男性)
- 移り住んで 30 年程になりますが、年々畑が減ってきているような気がします。道路はもういらないと思います。畑が無くなると、フルーツ王国ではなくなりますね。(50 歳代/男性)
- 自然を汚さないでほしい。山梨の魅力は自然。いくら果樹王国と言ったって、化学農薬・除草剤バンバン使用して、土地を、地下水を汚していたら元も子もない。建築も要らない。土に還らない建材で造った建物がバンバン建っている。数十年後解体して、その廃材どうするの？レジ袋（プラごみ）1 枚だって問題なのに。もう手遅れなのだろうなあ。(50 歳代/男性)
- 毎日ごくろうさまです。せっかく一生懸命がんばってくれる為のアンケートだと思いますが、内容がもりだくさんで難しく、途中でやめようと思ってしまいました。もう少しわかりやすく簡単なものがよいと思いました。返信率が低くなってしまっはもったいないと思いましたので。意見してしまいすみません。(50 歳代/男性)
- ゴミの処理がとても不便。月 1 回のガレキの日、有価物の日を作ってほしい。他の市や町は実施しています。塩山に処理場があった時の方が便利でした。フットワークが悪い。甲州市の職員はとにかく行動が遅い。ちゃんと働いてほしいものだ。(50 歳代/男性)
- 市役所職員受け付け（特にベテランと見られる）に、接客マナー・対応を教育させる事。山梨県で一番態度が悪い市役所だと言われている事を、まずもって対策して頂きたい。市役所は町の顔である。(50 歳代/男性)
- 甲府市まで通勤していますが、市内に於いて道路が狭い箇所があるので、整備・拡張してもらいたいです。(向岳寺から岩手橋間、山梨市側は道幅も広く整備されている)(50 歳代/男性)
- 治安が以前より悪くなっている感じがします、防犯カメラなどの防犯対策を充実させて欲しいです。(50 歳代/男性)
- 燃えないゴミ、資源ごみが他の市町村に比べて出しにくい。家がゴミだらけ、ゴミのサービスを充実してもらいたい。市役所の窓口で、自分の住所、氏名を紙に書く手続きが苦手です。パソコンやタブレットを活用してほしい、今どき、手書きは無いと思います。またマイナンバーカードも持っているので毎回、住所、氏名を書かなくてもよいようにしてほしいです。(50 歳代/男性)
- 甲州市の人口増加と魅力アップの為に、他県の良い所を取り入れるなど柔軟で行動力のある行政（各課の担当者）を行ってほしいと思います。(50 歳代/性別不明)

- 高齢化・独居老人が増加しているが、県外で居住している子供に甲州市に帰ってきてもらいたいが、就職先もなくそれとも言えないという話をよく聞く。市内でも就労場所を確保することは必須だと思う。若い人が生活できる基盤の整備を考えてほしい。(60 歳代/女性)
- ここに居てもつまらなくほとんど毎日甲府に出かけています。近所づきあいがなく淋しいです。隣の家が何人住んでいるのかも知りません。1 軒 1 軒核家族の逆で、1 家族ごとに独立していて他人を寄せつけない感じがします。広い庭の奥で皆過ごしています。特に夏は皆畑で忙しく、話しかけるのも気が引けます。だから私はボランティア・習い事・買い物は全部甲府で、毎日出かけています。年寄りばかりで農家をしています、これから車の運転ができなくなり、出荷ができなくなる人が多くなる。対策をとらないと空地・空家が増える。DIY をしたいと言う人に体験学習を。いっそのこと「年寄りにやさしい町づくり」を売りにするのも良いのでは。自然を生かした子育ての教育。「おもしろい教室」夏休み体験などで、観光ではなく体験教室を。特に子どもの自然や農業体験を。生活体験。子どもに障子張りなどの生活体験もおもしろいですよ。県外の子どもにも。子供に自然を活かした体験学習をたくさんしてほしい。県民なら OK とかにはなりません。子どものイベント。甲州市民のみ OK とあるのだが。(60 歳代/女性)
- 各設問で「○」の数が「2 つ」とか「3 つ」と限定されているので、迷ってしまい選ぶのに時間がかかってしまった。どれも甲乙つけ難く困った。市民が使う施設をリフォーム又は新設する際に（例えば「市民会館の料理教室」「絵や書を飾るギャラリー」←駅から郵便局の西に移動した）使用・活用する。市民の声をアドバイスとして聞くべきかと思う。予算等もあり、希望通りにはならないまでも参考にすべきだと思う。道路や歩道が良くなっても真っ暗では歩こうという気がおきない。交差点（信号のある）も暗いと危険である。(60 歳代/女性)
- 高齢者が増えてきている最近の町中を、運転免許証返却したあと、歩いて用を足していくのも体がおとろえてくるので、バスの停留所を増やして、循環で廻っているバスがあれば良いと思います。無駄な様でも老いてきて足腰弱くなり、便利な勝沼にしてもらいたい。一番必要だと思います。(60 歳代/女性)
- 市内の介護デイが次々に閉鎖されて、利用できないと母がなげいています。何かしらの対応策を打っていただけないでしょうか。(60 歳代/女性)
- 災害などにいろんな防災対策がとられていますが、実際起きた場合を想定するとかなり怖い感じがします。(住民に危機感があまりない?) その辺りをもっとアピールして防災対策強化につなげてほしいと思います。甲州市の職員さんの対応はとても親切丁寧という評判あり。かたや山梨市の職員さん（特に福祉関係）はつっけんどんで対応悪し、と聞きます。そういう面でも甲州市はいい感じなので、今後がんばって市民のため奮闘してください。(60 歳代/女性)
- おざなりで改革のない行政ではなく、他市町村よりスピーディーな革新的で魅力ある甲州市であってほしいです。駅前商店などもっと観光地としての利便性を充実してほしい。(60 歳代/女性)

- 野焼きは法律で禁止されているにもかかわらず、農家の人たちが剪定した木を焼却している。例外措置で許可されていると聞いているが、昨今農家の人たちの野焼きが多すぎると思う。洗濯物に臭いが付着したり、車での走行中視界を塞いだりする事が多い。また、農家の人たちの消毒も常識以上の早朝・暑い盛りの日中、また、朝夕の子供たちの通学時間に通学路付近で消毒をしている。農家が多く、指導の徹底を望む。(60 歳代/女性)
- 甲府に行かないと何もおしゃれな物を購入できない。他の市から反対に甲州市に行きたいと思わせる様な、大型ショッピングセンター（三井など）誘致をお願いしたい。若者離れもくいとめることができそうに思います。(60 歳代/女性)
- 現在の粗大ゴミの回収方法についていけません。もう少しいい方法はないでしょうか？(60 歳代/女性)
- 防災について。いつでも我が身にふりかかることを思うと、もっと現実的に考えてほしい。避難所を増やし、避難訓練を度々して、いざというときの行動を身につけておきたい。駅前にコンビニを。駅北口・南口どちらにもコンビニがないのは、地域住民にとっても観光客にとっても不便である。(60 歳代/女性)
- 歴史があり平和で住みよい甲州市です。ですから、市の良い所を破壊しないように極端な外資導入は止めてほしい。水源を中心とした土地売買に気を付けてほしい。(60 歳代/女性)
- 広報が唯一の情報を得る手段です。デジタル技術にも疎い年寄りには生き辛い昨今です。生涯学習の中にデジタル制作等、年寄りにもわかりやすく理解できる機会があると助かります。諸々大変かとは思いますが、年寄りの知識が活かせる手段を増やしてほしいと思っています。ご苦労様です。(60 歳代/女性)
- 若い方達が生活しやすい街に！(60 歳代/女性)
- 塩山駅南口の障害者送迎スペースの所ですが、側溝に被せる鉄格子が設置してありますが、幅も狭いですし、角があり車イスだと段差を昇るのが大変だと思います。北口の方が段差も少なく使いやすかったです。(60 歳代/女性)
- 市民の目線・市民の実態を正確に把握し、それに即した人間味豊かな温かな行政を望みます。時に、ありきたりで通り一遍としか解釈できないような、いわゆる”お役所仕事”と受けとれるような場面を目にすると、非常に残念に思います。(60 歳代/女性)
- 林業に力を入れてほしい。林業の人材を育ててほしい。(60 歳代/女性)
- これからも安心して暮らしていけるまちを。福祉を利用する場合に、あまりお金がかからない施設があるまちを考えてもらいたい。(60 歳代/女性)
- 高齢者にとっての移動手段の充実。学校の統合について。今のところでも市の伝えていることと、保護者の思いの違いが多く聞かれる。通学に対して、特に大藤・神金の子どもは坂道を下るだけでかなりのスピードが出て、大変危険です。先生方もこのスピードを体験してください。事故があってからでは遅いです。自転車は重いカバンをつけているので、かなりフラフラします。本当に心配です。(60 歳代/女性)
- 市民バスの 1 日の本数を増加してほしい。野良猫の増加で、ゴミ収集所で生ごみを食べ、食い散らかすなど問題が起きていますが、市に相談しても改善がみられない。(60 歳代/女性)

- 現在の甲州市は人口の割合から議員さんが多すぎる、また何も活動ができていない議員さんが多すぎる。市の財政を考えて議員さんの数を減らしていくことは今後大切だと思う。市長さんもお金を配布することばかりでなく市民の税金を大切に有効に使ってほしい。市民と語る会などもっと市民の意見を聞く機会を作ることが必要である。(60 歳代/女性)
- 本アンケートの有効性に疑問を感じる。市民が参加したまちづくりを行うべきである。(60 歳代/女性)
- 甲州市駅前の活性化を望む。街の顔である塩山駅があまりにも貧弱である。駅を通じ街の魅力度を増幅してもらいたい。(60 歳代/男性)
- 計画だけでなく実行性を伴う具体的な取り組みの推進を。例えばカーボンニュートラルを宣言したなら、本気でそれをめざす具体的な活動をしてほしい。形だけのものではなく、子供たちが安心して暮らす基盤を整えるために、様々な叡智を結集して実行を。その他の事についても同様に本気で取り組んでほしい。(60 歳代/男性)
- 議員・議会活動が形として表に出ていない。議員質問の内容が弱い。活動状況を明確にして、市政への発展にしているか？質問で止まっている様子（一般質問をすればいいとは思わない）。(60 歳代/男性)
- 市民一人一人が安心安全に生活する事が出来るよう望みます。(60 歳代/男性)
- 野良ネコの繁殖で飼い主の不明なネコの増加を減らす。耕作放棄地に、タヌキ・ハクビシン等野生動物が住宅地に近づいている。週3回のゴミ収集はありがたい。祝日も止まることなくたいへんよいことだと思う。大変だろうけど続けてほしい。(60 歳代/男性)
- 市行政のさらなるスリム化。IT 化の充実。民間活力の有効活用。ハード的な土木建築の整備ではなく、民がそのままの生活文化の姿を市政と一緒に整えていく、ソフト的充実を図る。それが外来者を誘引する材料となると考える。ただし、そのためには民の人々が幸せで健康で生きがいをもつ街に暮らすことは当然の前提となる。(60 歳代/男性)
- 市職員のアイディアや発案で新たなムーブメントを起こすべき。市民にアイディアを頼るのもいいが活かされるのか。もっとプライドを持って日本・世界に誇れる街にしようという気持ちで職務に当たってください。日本各地の自治体には素晴らしい地方公務員がいますし、先進的な取り組みをしている自治体があります。そういう所へ恐らく視察にいったりしていると思いますが、それが我が市に活かされていますか？”単なる旅行”で終わっているのではありませんか？(60 歳代/男性)
- 農業従事者の高齢化、農業後継者の減少が極めて速い速度で進展しており、この先5～10年後には、甲州市の重要な産業である農業（特に果樹栽培）は大きな転換期を迎えることは間違いない状況にある。したがって、できる限り早い時期から新規就農者の確保に向けた努力が必要と考える。(60 歳代/男性)
- 1 人の子供を産んで大人にするまでに 1000 万円以上かかると言われている。それに今の物価高を目にしては子供を産もうとは思えない。国や行政からの支援がないと人口は絶対に増えないと思う。(60 歳代/男性)

- 問 13 の 9 にある 6 次産業化が聞きなれない言葉でした。スマホで検索できる時代ですが※（問 13 メモより引用：ブドウ農家がボトルやラベルを考案し、ワインをネット販売すること。生産者が販売者やプロデューサーになること）の必要を感じます。複数回市民アンケート調査に協力してきました。それなりに考え回答してきましたが、苦痛を感じ徒労感を覚える作業でした。今後はアンケート調査に協力したくありません。この類の文章を郵送してきたらゴミ箱に捨てます。スマホで回答できるシステムでも同様の処置をとります。回答した人が満足感を得られるアンケートを考えなさい。そのためなら unnecessary アンケート項目があってもいいと思います。以上(60 歳代/男性)
- 現下の厳しい財政の中での、様々な事柄への対応は困難です。短期・中期・長期というスパンの中で、何を優先するか何を優先しなければならないかの判断が最も重要であると考えます。何より命を守り、少しでも安心して生活できる施策に取り組んでいただくとともに、甲州市の未来を託する子供達が住みたいまちと思う地域づくりが大切であると考えます。(60 歳代/男性)
- 首都圏（山梨も含まれていますが）からの移住人気が非常に高い県にあって、甲州市も肌感覚として人を呼び寄せる魅力にあふれていると思います。実際中古の住宅はすぐに買い手が見つかったという話をいくつも耳にしています。甲州市がここに力を入れているようには感じません。北杜市や八ヶ岳周辺が人気なのはわかりますが、甲州市はそれらの地域より更に東京に近いことを考えると、やれることすべきことがもっとあるように思います。勿体ないです。(60 歳代/男性)
- 市の税金で無駄にしないで。劣化するよ。大切に。駅前のチャリ、屋根付けてね。(60 歳代/男性)
- 給食費の全額無料は必要ない。一部負担なら理解できるが全額無料にする必要はない。その分を違う面での教育費にあてた方が良くと思う。他の地域（市町村）に比べて住民税が高すぎる。(60 歳代/男性)
- 安易なお金のばらまき反対。税金の無駄遣い調査し、税金の引き上げ阻止。自治会への役割の軽減。(60 歳代/男性)
- 私は甲州市の公営住宅に住んでいます。私の妻は自律神経失調症の病気です。障害者 2 級です。2 人家族です。隣の家フローリングをたたき音がすごくて病気が悪化しています。市の方に何度も長屋の真ん中から隅に移動してもらえませんか、と申し入れをしたのですがだめですと言われました。私も普通の子育てだったら我慢をしますが、病気なので我慢できません。この地で最後の人生を送りたいと思い住んでまいりました。空気はおいしい、日当たりはよく、利便性がよく、いい地だと思い喜んで住んだのですが、もう無理です。別の地をさがしていますが収入が少ないので移れない。安い住宅をさがしています。この世は思い通りには行きません、もう頑張れないかもしれない。甲州市が山梨県で、子育て・福祉で 1 番になるように人口も増えますように心から願っています。私の行政への望むことでした。(60 歳代/男性)
- 社会と自分の接点が解りにくい世の中になってきている。今後の進むべき道をより解りやすい世の中になって行くことを望んでいます。(60 歳代/男性)

- この様なアンケートを実施して、どの様に実行に移されるかはわかりませんが、市民一人一人色々な要望や意見があると思います。しかしながら実際には要望等を言う事なく生活しています。もう少し要望の言いやすい行政であってほしいと願っています。(60 歳代/男性)
- 甲州市全体に大型商業施設の誘致と周辺に住宅地の確保。現在、東京～大月迄の電車を、直通で塩山駅迄行けるよう交渉してほしい。(60 歳代/男性)
- アンケートもいいと思いますが、同じような質問で長すぎて、あまりわかりません。(60 歳代/男性)
- 何度かお願いはしていますが、良い機会なのでお伝えします。塩山温泉場に流れる県河川には、大量の土砂が積もり、雑草が生い茂り、塩ノ山周遊の景観を損ね、大雨の時にはいつも溢れそうになる場所があります。県であろうが市であろうが、縦割りの意識をなくし、住環境改善へ市民からの陳情に耳を傾け、行動していただけることを願っています。河川氾濫などの災害事故があってからでは遅いです。(60 歳代/男性)
- 元気な甲州市になるために。1.人が基本（誕生ゆりかご～墓場まで）社会福祉保証制度。Ex 長野野條村。2.甲州市の魅力（ブランディング）づくり。峡東の奥座敷からの脱却。3.具体的に何する？塩山駅を活かすこと（ホテル・スーパー・コンビニ・中央線の乗り入れ（大月からの延伸）・有名大学の誘致（サテライト）・文化ホールを駅前につくる）。国道 411 号プロジェクト（甲州街道の裏街道から表街道へ）。住記名の変更（上於曾・下於曾じゃワカラん、もう少し、〇丁目〇番地などの名称へ）。日本一暑い街を逆手にとってアピール（屋外温度計の設置）。ご苦労さまです。(60 歳代/男性)
- 高齢者福祉の充実をお願いします。(60 歳代/男性)
- 人口減少についての対策として、若者が住みたくなる若者にも魅力ある街づくりを望みます。人口が増えないことには栄えないと思います。(60 歳代/男性)
- 早急に、近隣の市と合併を進めるべきだと思う。(60 歳代/男性)
- 問 33 の設問、答えの選択肢 1. 2 については達成され、安心して住むことができる市です。11 の選択肢については、これから私たちが頑張って意識を変えていく努力が必要だと思っております。いずれにせよ甲州市は住みよい町だと思います。これから育つ子どもたちや若い人たちに期待します。いろいろな意見を聞いていただける市の方々、ありがとうございました。(年齢不明/女性)
- 土曜日午前中だけでもいいので役所を開いてほしいです。(年齢不明/性別不明)
- 子どもたちの未来のために活気あるまちづくりをお願いします。ブランドぶどうを利用した町おこしで、人の集まるまちづくりをお願いします。(年齢不明/性別不明)

資料編（アンケート調査票）



第2次甲州市総合計画中間見直しに関する 市民アンケート調査ご協力のお願い

市民の皆様には、日頃から市政に対し格別のご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、このたび甲州市では、第2次甲州市総合計画（平成30（2018）年度～令和9（2027年度））について、策定5年目となることから中間見直しを行います。

今回、中間見直しにあたり、市民の皆様のご意見を今後の市政運営に生かしていくため、アンケート調査を実施することといたしました。そのため、市内在住者の中から無作為に抽出した1,000名の皆様に調査へのご協力をお願いを差し上げた次第であります。

なお、回答につきましては、統計処理をして利用いたしますので、個々の回答が公表されることはございません。また、本調査の目的以外に利用することはありません。

ご多忙とは存じますが、今後の甲州市におけるまちづくりのため、是非ともご協力いただきますよう、お願い申し上げます。

令和4年6月

甲州市長 鈴木 幹夫

⚠️ ご回答にあたってのお願い

- 宛名の方ご本人がお答えください。
- 本アンケートは、一つまたは複数の選択肢に○をお付けいただく設問と、具体的な内容を記述していただくものがあります。設問にしたがって、鉛筆か、黒または青のボールペンではっきりと記入してください。
 - ▶ 当てはまる選択肢の数字に○をつけてください。
 - ▶ 「○は1つ」、「○は3つまで」などの指示に従ってください。
 - ▶ 「その他」の後に（ ）がある場合は、具体的な内容を記入してください。
- ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れ、**7月7日（木）**までに投函いただきますよう、お願いいたします（切手は不要です）。

【本アンケートに関するお問い合わせ】

甲州市役所 政策秘書課 政策調整担当

TEL 0553-32-5064（直通）

FAX 0553-32-1818

■ はじめに、あなたご自身のことについて伺います。

※記入日時点の状況でお答えください。

F1 あなたの性別をお答えください。(○は1つ)

1. 女性	2. 男性	3. その他	4. 答えたくない
-------	-------	--------	-----------

F2 あなたの年齢についてお答えください。(○は1つ)

1. 10・20歳代	2. 30歳代	3. 40歳代	4. 50歳代
5. 60歳代	6. 70歳以上		

F3 あなたが住んでいる地区についてお答えください。(○は1つ)

1. 塩山	2. 奥野田	3. 大藤	4. 神金
5. 玉宮	6. 松里	7. 勝沼	8. 祝
9. 東雲	10. 菱山	11. 大和	

F4 あなたの職業（主たるもの）についてお答えください。(○は1つ)

1. 会社員	2. 契約・派遣社員	3. パート・アルバイト	4. 経営者・役員
5. 自営業（農業）	6. 自営業（製造業）	7. 自営業（その他）	8. 医療関係者
9. 保育士	10. 教職員	11. 公務員・団体職員	12. 学生
13. 主婦（夫）	14. 無職	15. その他（	）

F5 あなたの勤務先・通学先についてお答えください。(○は1つ)

1. 甲州市内	2. 山梨市	3. 笛吹市	4. 甲府市
5. 大月市	6. その他県内	7. 県外	8. 勤務・通学していない

F6 あなたの甲州市における居住歴についてお答えください。(○は1つ)

1. 生まれてからずっと甲州市に住んでいる	2. 甲州市出身だが、市外での居住経験がある
3. 県内の他の市町村から転入してきた	4. 県外から転入してきた

F7 あなたの世帯構成についてお答えください。(○は1つ)

1. 夫婦のみ（一世代家族）	2. 親と未婚の子ども（二世代）	3. 親と子ども夫婦（二世代）
4. 親と子どもと孫（三世代）	5. ひとり暮らし	6. その他（

■ 甲州市の現状について伺います。

問 1 あなたは、甲州市の暮らしやすさについて、全体的にみてどのように感じていますか。

(○は1つ)

- | | |
|--------------|------------------|
| 1. 満足している | 2. どちらかという満足している |
| 3. どちらともいえない | 4. どちらかという不満である |
| 5. 不満である | |

問 2 あなたは、これからも甲州市に住み続けたいと思いますか。(○は1つ)

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 住み続けたい | 2. どちらかという住み続けたい |
| 3. どちらかという住みたくない | 4. 住みたくない |

問2-1へ

問2-1へ

問 2 で「3. どちらかという住みたくない」または「4. 住みたくない」と回答した方に伺います。

問 2-1 甲州市に住みたくないと思う主な理由は何ですか。(○は1つ)

- | |
|------------------------------|
| 1. 自然の減少や環境の悪化が進んでいるから |
| 2. 日常の買い物が不便だから |
| 3. 道路事情や交通の便が悪いから |
| 4. 地域の行事や近所付き合いが面倒だから |
| 5. 子どもの保育・教育のことが心配だから |
| 6. 市内に適当な職場が少ないから |
| 7. 保健・医療分野のサービスや施設が不十分だから |
| 8. 福祉分野のサービスや施設が不十分だから |
| 9. スポーツ・レジャー施設や文化施設が不十分だから |
| 10. 上下水道などの生活環境施設の整備が遅れているから |
| 11. 消防、防災、防犯体制に不安を感じるから |
| 12. その他 () |

問 3 甲州市に定住したいと思う人を増やすために、どのような取り組みが必要だと思いますか。

(○はいくつでも)

- | | |
|---------------------|----------------------|
| 1. 豊かな自然環境の保全と活用 | 2. 交通機関の充実 |
| 3. 防犯・防災体制の強化 | 4. 医療・福祉のサービスの充実 |
| 5. 保育・教育などの子育て環境の充実 | 6. 働く場の確保 |
| 7. 住環境の充実 | 8. 住宅補助などの助成制度の充実 |
| 9. まちの知名度の向上 | 10. 買い物・娯楽などの商業施設の充実 |
| 11. その他 () | |

問 4 まちづくりに関する（１）～（３２）の項目について、①満足度と②重要度をお答えください。

①満足度

各項目の現状についてどの程度満足をしているか、
５段階のうち、あてはまる番号１つに○印

②重要度

まちづくりのために重要だと思う度合について、
３段階のうち、あてはまる番号１つに○印

①満足度 ②重要度 それぞれ１つに○ 設問項目 以下の全ての項目について 満足度・重要度を記入してください。		①満足度					②重要度		
		満足している	どちらかという満足している	どちらともいえない	どちらかという不満である	不満である	重要である (ほかの分野より優先する)	どちらともいえない	重要でない (縮小してもよい)
(記入例) (●) ○○○○○の振興		1	2	3	4	5	→ 1	2	3
活力あるまちづくり	(1) 果樹・農林業の振興	1	2	3	4	5	→ 1	2	3
	(2) ワイン産業の振興	1	2	3	4	5	→ 1	2	3
	(3) 観光交流の振興	1	2	3	4	5	→ 1	2	3
	(4) 商工業の振興	1	2	3	4	5	→ 1	2	3
	(5) 雇用・勤労者福祉施策	1	2	3	4	5	→ 1	2	3
健康福祉のまちづくり	(6) 保育や子育てへの支援	1	2	3	4	5	→ 1	2	3
	(7) 健康診断の実施や健康づくりへの支援	1	2	3	4	5	→ 1	2	3
	(8) 地域医療施設の充実や救急体制	1	2	3	4	5	→ 1	2	3
	(9) 地域福祉・高齢者福祉に対する施策	1	2	3	4	5	→ 1	2	3
	(10) 介護や介護予防に対する施策	1	2	3	4	5	→ 1	2	3
	(11) 障害者の自立を支援する施策	1	2	3	4	5	→ 1	2	3
	(12) 国民健康保険などの社会保障の施策	1	2	3	4	5	→ 1	2	3
快適で安心なまちづくり	(13) 土地利用や市街地・公園の整備	1	2	3	4	5	→ 1	2	3
	(14) 美しい景観形成の促進	1	2	3	4	5	→ 1	2	3
	(15) 道路・公共交通網の整備	1	2	3	4	5	→ 1	2	3
	(16) 公営住宅や良好な宅地の確保	1	2	3	4	5	→ 1	2	3
	(17) 行政サービスの電子化	1	2	3	4	5	→ 1	2	3
	(18) 河川や急傾斜地など危険箇所の整備	1	2	3	4	5	→ 1	2	3
	(19) 消防・防災体制の充実	1	2	3	4	5	→ 1	2	3
	(20) 交通安全・防犯への取り組み	1	2	3	4	5	→ 1	2	3
	(21) 消費者トラブル対策の充実	1	2	3	4	5	→ 1	2	3

①満足度 ②重要度 それぞれ1つに○ 設問項目 以下の全ての項目について 満足度・重要度を記入してください。		①満足度					②重要度			
		満足している	どちらかという満足している	どちらともいえない	どちらかという不満である	不満である	重要である (ほかの分野より優先する)	どちらともいえない	重要でない (縮小してもよい)	
まちづくり 環境保全の	(22) 環境保全の推進	1	2	3	4	5	→	1	2	3
	(23) ごみ処理やリサイクル対策の推進	1	2	3	4	5	→	1	2	3
	(24) 簡易水道、上水道の整備	1	2	3	4	5	→	1	2	3
	(25) 下水道などの生活排水処理施設の整備	1	2	3	4	5	→	1	2	3
まちづくり 教育文化の	(26) 義務教育の充実	1	2	3	4	5	→	1	2	3
	(27) 生涯学習・生涯スポーツの推進	1	2	3	4	5	→	1	2	3
	(28) 地域文化・歴史資源の保護や活用	1	2	3	4	5	→	1	2	3
まちづくり 参画と協働の	(29) 協働のまちづくりの推進	1	2	3	4	5	→	1	2	3
	(30) 地域活動の推進	1	2	3	4	5	→	1	2	3
	(31) 男女共同参画の推進・人権の尊重	1	2	3	4	5	→	1	2	3
	(32) 効率的な自治体経営の推進	1	2	3	4	5	→	1	2	3

問4-1 問4の項目のうち、特に他の分野より優先した方がよい（重要度が高い）と思う項目を、重要だと思うものから順番に3つ選んで、（1）～（32）の番号を以下の欄に記入してください。

最も重視する項目	2番目に重視する項目	3番目に重視する項目

■ 保健・医療・福祉について伺います。

問 5 あなたは、健康づくり施策について、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。
(○は 2 つまで)

1. 生活習慣病予防など健康づくり事業の充実
2. 健康に関する情報提供や相談体制の充実
3. 総合検診などによる病気の早期発見・早期予防事業の充実
4. 「食育※」の推進
5. 心の健康づくりのためのメンタルケアの推進
6. 地域の健康づくりを育成・支援する事業の充実
7. その他 ()

※食育：市民一人ひとりが自らの「食」について考える習慣を身につけ、健康で安心な食生活の実現を目指すもの。

問 6 あなたは、保健・医療対策について、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。
(○は 2 つまで)

1. 市内医療機関の診療内容や設備の充実
2. 救急・休日・夜間医療の充実
3. 往診・訪問看護など在宅医療の充実
4. 予防接種など感染症対策の充実
5. 小児救急医療の充実
6. その他 ()

問 7 あなたは、高齢者が安心して暮らせる社会を築くため、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(○は 2 つまで)

1. 高齢者のための介護予防事業や在宅福祉の充実
2. 身近なところで多様なサービスが受けられる施設の充実
3. 社会参加の場の確保による生きがいづくりの推進
4. シルバー人材センターの充実、高齢者の就業の場の確保
5. 高齢者向けの住宅、リフォームなど生活環境の整備と援助
6. 公共交通機関の整備など移動手段の充実
7. 高齢者が集える温泉場などふれあいの場の充実
8. 軽スポーツの振興など健康増進事業の充実
9. その他 ()

問8 あなたは、障害のある方が地域でいきいきと暮らすために、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(〇は2つまで)

1. 障害のある方の就業の場の確保
2. ホームヘルパー、ガイドヘルパーなど障害のある方の家庭への支援の充実
3. バリアフリー化の促進による障害のある方に優しいまちづくりの推進
4. 障害のある方のための窓口サービスの充実
5. 障害についての啓発活動や福祉教育の推進
6. 健常者とのふれあい・交流の場の拡充
7. 緊急時の受入や専門人材の確保など支援体制の整備
8. その他 ()

問9 少子化が急速に進行していますが、あなたは「少子化」問題をどのように捉えていますか。(〇は1つ)

1. ただちに解決すべき重要な問題だと思う
2. できるだけ解決すべき重要な問題だと思う
3. 重要な問題ではあるが、仕方ないことだと思う
4. 特に問題と感じていない

問10 あなたは、保育や子育て支援、少子化対策の施策を充実していくために、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(〇は3つまで)

1. 保育所の施設整備・充実
2. 保育所再編などによる適正規模と適正な保育環境の確保
3. 保育内容の充実
4. 児童館の設置や児童クラブの拡充
5. ファミリーサポート※1事業の推進や子育てボランティアの育成・活用
6. 各種学級・講座など子育てに関する総合相談体制の確立
7. 子育てサロン※2・サークルなど子育てに関する交流の場の充実
8. 育児休暇や子どもの看病のための休暇が取りやすい職場環境づくりの推進
9. 時差・時短勤務、在宅勤務など多様な働き方の推進
10. 乳幼児健診の充実や妊産婦・乳幼児等の訪問指導の充実
11. 児童虐待の予防・解消対策の推進
12. 子育て家庭に対する経済的支援の推進
13. その他 ()

※1 ファミリーサポート：「子育てを手助けしてほしい人」と「子育てを手助けしたい人」が会員となり、地域の子育てをお互いに支えあう事業。たとえば、保育所の開始前や終了後の子どもの預かりや送迎のサービスなど。

※2 子育てサロン：就学前の子どもとその親のための子育て広場。

■ 環境対策について伺います。

問11 あなたは、環境保全対策について、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。
(○は3つまで)

1. ごみの減量・リサイクルの推進体制の維持強化
2. ごみ収集業務の充実
3. 下水道など生活排水施設の整備促進による河川の浄化推進
4. 大気汚染や水質汚濁などの監視・指導体制の強化
5. 不法投棄防止監視体制の強化
6. 森林や河川、生き物などの自然環境の保全
7. 市内の美化運動や清掃運動の推進
8. 太陽光、水力、風力などの再生可能エネルギーの利用促進
9. 省エネルギー行動の促進
10. 電気自動車等のエコカーの利用
11. 環境教育・環境学習の推進と広報活動の充実
12. その他 ()

■ 産業振興について伺います。

問12 あなたは、市の農林業を振興するために、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。
(○は3つまで)

1. 農地の流動化など専業農家の規模拡大の推進
2. 農林業後継者の育成
3. 農業法人など新たな経営主体・経営手法の推進
4. 農道や林道、水路など生産基盤の充実
5. 共撰所などの集出荷施設や農産物加工施設などの充実
6. 高品質果樹の栽培や通年性を高めるなど更なる果樹産地化の推進
7. ワインやこころ柿など特産品のブランド化と販売促進
8. 観光農園や体験農園などによる直売やインターネットなどを利用した販路拡大
9. 森林の間伐事業や保全活動などの推進
10. 森林の整備を担うべき人材の育成及び確保
11. 森林のレクリエーション・保養の場としての整備活用
12. 地元生産物を地元で消費する地産地消の促進
13. その他 ()

問13 あなたは、市の商工業を振興するために、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。
(〇は3つまで)

1. 融資制度の充実
2. 既存商店街の活性化（空き店舗の効果的活用など、まちを元気にする取り組み）
3. 商店街の道路の拡幅、駐車場の整備など既存商店街のまち並みの再整備
4. 商業イベントの開催や消費者サービスなど販売促進対策の充実
5. 地場企業の育成や優良企業の誘致などによる商工業の振興
6. 雇用創出施策（雇用創出事業者への奨励金、創業者への助成金等）の充実
7. 大型のスーパーマーケット・専門店などの商業施設の誘致
8. 高齢者や障害のある方などの買い物弱者に対する生活利便性の向上
9. 6次産業化の推進
10. 流通の国際化に向けた取り組み
11. その他（)

問14 あなたは、市の観光振興のために、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。
(〇は3つまで)

1. 自然や景観を活かした新たなフットパスコースの設定など観光基盤整備の推進
2. 歴史や文化遺産を生かした施設やまち並みの活用
3. 各種イベント・行事の整理・充実
4. 祭りやイベントなど特色ある行事の企画・開催
5. 甲州種ワインなど地場の特産品や材料を使った食の開発
6. 特産品、民芸品の創作など魅力ある地域ブランドの確立
7. 観光交流拠点施設の充実
8. 観光拠点をつなぐ交通網の整備促進
9. 各種の研修や観光ボランティアの育成など受入れ・もてなし体制の充実
10. テレビ、ホームページ等各種のメディアを利用した宣伝・情報発信の強化
11. 農林業など市の産業と連携した体験や交流型観光の推進
12. 周辺の観光地と連携した広域的な観光政策の充実
13. その他（)

■ 生活環境について伺います。

問15 あなたのまわりの身近な生活環境を改善しようとする場合、どのような施設の整備が必要だと思いますか。(〇は3つまで)

1. 道路や歩道	2. 河川、水路
3. ガードレール等交通安全施設	4. 上水道・簡易水道
5. 下水道・排水処理施設	6. 子どもの遊び場（ひろば）
7. 文化施設	8. 運動施設
9. 高齢者福祉施設	10. 街路灯・防犯灯
11. 防火水槽・消火栓	12. ごみ集積場
13. その他（	）

■ 教育・文化・スポーツについて伺います。

問16 あなたは、学校教育の充実のために、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(〇は3つまで)

1. 生きる力を育てる学習の推進	
2. 適正な学校・学級規模による良好な教育環境の確保	
3. 特色ある学校教育の推進と充実	
4. 社会生活のルールを身につけ、命の大切さなどがわかる心の教育の充実	
5. デジタル技術の習得・活用など時代に即した教育内容の充実	
6. 個性や才能を伸ばす教育の充実	
7. 国際化を視野に入れた教育内容の充実	
8. 子ども同士のつながりを深める学年を超えたグループ活動等の推進	
9. 環境教育や福祉教育を通じた地域の人たちとの交流による子どもの育成活動	
10. 基礎的な学力の向上を目指す教育	
11. 不登校、いじめなどの心の問題への対応	
12. 学校内や通学路における子どもの安全対策の強化	
13. その他（	）

問17 あなたは、生涯学習活動や社会教育、社会人の学び直しを推進するために、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(〇は3つまで)

1. 生涯学習活動や社会教育、学び直しに関する情報の提供や窓口相談の充実	
2. 生涯学習における講座の充実	
3. 大学や民間事業者等と連携した学習機会の提供	
4. 社会人が大学などで学び直しをする際の経済的な支援	
5. 指導者やボランティアなどの育成	
6. 団体やサークル活動等への支援	
7. 小中学校と地域、家庭の交流・連携を通じた社会教育の推進	
8. 学校施設（グラウンド、学校図書館など）の地域への開放	
9. 公民館や図書館などの社会教育施設における設備の充実	
10. 施設の利用時間や手続きなどの利便性の向上	
11. その他（	）

問18 あなたは、生涯スポーツ活動をより活発にしていくために、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(〇は2つまで)

1. 生涯スポーツに関する情報の提供や窓口相談の充実
2. スポーツ教室等の内容や機会の充実
3. 市民体育祭や市民スポーツ大会の開催
4. 指導者の育成と活用
5. 総合型地域スポーツクラブ※の設立と支援
6. スポーツ協会など関係団体の活動強化
7. スポーツ施設など活動の場の整備・充実
8. その他 (

)

※総合型地域スポーツクラブ：その地域に住んでいる人が、年代、性別に関係なく、誰でも参加できる自主運営型複合型スポーツクラブ。

■ 消防・防災対策について伺います。

問19 あなたは、災害に強いまちづくりのために、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。

(〇は3つまで)

1. 常備消防・救急体制（消防署）の充実
2. 市の消防団体制の充実
3. 避難所、避難場所、避難経路の整備充実
4. 寝具や食料など災害対策用品の備蓄
5. 災害時の情報連絡体制、給水体制、救急体制などの体制整備
6. ガソリン等燃料の備蓄・供給体制の整備
7. 地域の自主防災組織の育成・充実
8. 公共施設、一般建物の耐震化の推進
9. 市民参加の防災訓練の充実
10. 救急救命講習や器具の充実
11. 防火水槽や消火栓などの消防用施設の整備
12. その他 (

)

■ 土地利用、道路・交通について伺います。

問20 市の発展には計画的な土地利用の推進が必要となりますが、今後、どのような用途の土地を優先的に整備していくことが必要だと思いますか。(〇は2つまで)

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 住宅用地 | 2. 農林業育成のための施設用地 |
| 3. 工業用地 | 4. 商業用地 |
| 5. 観光・レクリエーション用地 | 6. 公園・緑地用地 |
| 7. 道路用地 | 8. 学校等の教育施設用地 |
| 9. 文化・スポーツ施設用地 | 10. 保健・福祉施設用地 |
| 11. その他 (|) |

問21 あなたは、甲州市及びその周辺では、どのような道路、交通手段が必要だと思いますか。(〇は2つまで)

- | |
|-------------------------------|
| 1. 広域幹線道路（国・県道）の整備充実 |
| 2. 市内各地区や主要施設などを結ぶ市内幹線道路の整備充実 |
| 3. 地区内の身近な生活道路の整備充実 |
| 4. 鉄道や路線バスの利便性向上 |
| 5. その他 (|

■ 男女共同参画について伺います。

問22 あなたは、男女共同参画社会を形成するために、どのような取り組みが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

- | |
|-----------------------------------|
| 1. 女性の働く場所の充実 |
| 2. 保育所や介護・福祉サービスなど働きやすい環境の整備 |
| 3. 育児・介護休業制度の一層の普及 |
| 4. 男性の育児休業の取得奨励・推進 |
| 5. 女性の就労条件改善など企業に対する啓発 |
| 6. ワークライフバランスの推進に向けた企業に対する啓発 |
| 7. 女性のための職業訓練の機会提供 |
| 8. 男女の固定的な役割分担意識をなくすための啓発 |
| 9. 市の審議会、委員会、地域組織などへの女性の登用 |
| 10. 学校教育・生涯学習の場で男女共同参画について学ぶ機会の充実 |
| 11. その他 (|

■ 地域間交流について伺います。

問23 あなたは、市内外との地域間交流について、今後どのような取り組みが必要だと思いますか。
(〇は2つまで)

1. 姉妹都市・友好都市（国内外）交流の推進
2. 市民を対象とした近隣地域との交流
3. 教育・文化やスポーツなどを通じた幅広い地域との交流
4. 農産物など市の特産品などを紹介する催しやイベントの実施
5. 地域間交流を行う市民団体の支援
6. その他（ ）

■ 広聴・広報、市民参画、情報化について伺います。

問 24 あなたは、市政にどの程度関心がありますか。(○は1つ)

1. 非常に興味がある 2. どちらかというに興味がある
3. どちらかというに興味が無い 4. まったく興味がない

問 25 あなたは、市民の声がどの程度行政に反映されていると思いますか。(〇は1つ)

1. 良く反映されている 2. どちらかというと反映されている
3. どちらかというと反映されていない 4. ほとんど反映されていない

問 26 あなたは、市政に意見を言う機会や手段について十分だと思いますか。(○は1つ)

1. 十分である 2. どちらかというと十分である
3. どちらかというと不十分である 4. 不十分である

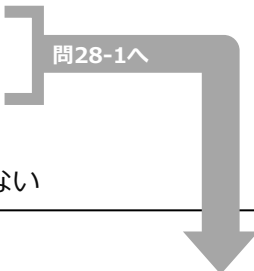
問 27 あなたは、市政に関する情報をどのように入手されていますか。(〇は2つまで)

1. 市の広報誌やお知らせ版
2. 市のホームページ
3. 新聞や雑誌など
4. 市以外の個人や団体等のホームページ
5. 防災行政無線
6. 市のLINE、SNS
7. その他（ ）

問28 あなたは、自分の本来の仕事とは別に、地域や社会のために時間や労力・技術などを無償で提供する地域活動やボランティア活動などに、現在参加していますか。また、今後参加したいと思いますか。(○は1つ)

1. 現在何らかの活動に参加しており、今後も続けたい
2. 現在は活動に参加していないが、今後は参加したい
3. 現在何らかの活動に参加しているが、今後はやめたい
4. 現在も活動に参加しておらず、今後も参加するつもりはない

問28-1へ



問 28 で「1. 現在何らかの活動に参加しており、今後も続けたい」または「2. 現在は活動に参加していないが、今後は参加したい」と回答した方に伺います。

問 28-1 あなたは、今どのような活動に参加していますか、または参加したいと思いますか。

(○は2つまで)

1. 自然保護や環境保全、リサイクル等に関する活動
2. 児童や青少年の健全育成に関する活動
3. 教育・文化・スポーツ活動の指導・運営に関する活動
4. 名所案内・説明など観光に関する活動
5. 高齢者や障害のある方の手助けなど福祉に関する活動
6. 通院介助や健康管理の指導など保険・医療に関する活動
7. 地域づくりやまちおこしに関する活動
8. 自主防災や災害援助、交通安全に関する活動
9. 国内外との交流、国際協力に関する活動
10. その他 ()

問29 あなたは、ICT（情報通信技術）の発展、DX（デジタル技術の浸透によるより良い生活への変革）の推進などにより進む社会の変化に対応するため、甲州市において今後どのような取り組みが必要だと思いますか。(○は2つまで)

1. 市ホームページの充実などインターネット等を通じた情報提供の充実
2. 申請・届出等手続きの電子化など市民サービスのネットワーク化
3. 保健・医療・福祉、生涯学習・文化・スポーツをはじめとする多様な分野でのネットワーク活用
4. 学校教育・生涯学習などでの情報教育の充実
5. 情報化に対応した個人情報保護対策等のセキュリティ強化
6. 高齢者等の情報弱者への対応
7. マイナンバーカードの活用
8. その他 ()

■ SDGs について伺います。

問30 あなたは、SDGs[※]について知っていますか。(○は1つ)

1. 17の目標すべてを知っており、内容を人に説明できる
2. いくつかの目標を知っており、内容もある程度知っている
3. SDGsという言葉は聞いたことがあるが、内容はよく知らない
4. SDGsという言葉はこのアンケートで初めて知った

※SDGs : Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標) の略。2015 年 9 月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」にて記載された 2016 年から 2030 年までの国際目標。持続可能な世界を実現するための 17 のゴール・169 のターゲットから構成され、地球上の「誰一人として取り残さない」ことを誓っている。

問31 SDGs を推進していくためには、どのような取り組みが必要だと思いますか。(○は2つまで)

1. メディアを活用した認知度の向上
2. 市民一人ひとりの意識の醸成
3. 具体的な取組事例の紹介
4. 行政・民間・大学など多様な分野による連携・協働
5. 学校教育への浸透
6. その他 ()

■ 今後の行政運営について伺います。

問32 あなたは、人口減少を背景に行財政が厳しさを増す中、甲州市において今後どのような行政運営における取り組みが必要だと思いますか。(○は2つまで)

1. 地域住民のニーズに寄り添う安定した医療・福祉サービスの確保
2. 人口の分布など地域の実情に即した持続可能な保育・教育の提供
3. ふるさと納税の推進による税収入の確保
4. 民間の活力を活用した公共事業や施設運営の推進
5. 公共事業の見直しや人件費の削減などによる財政の健全化
6. 近隣市町村との連携による行政サービスの提供
7. 公共施設の再編・集約などを通じた行政運営の効率化
8. その他 ()

問33 あなたは、今後のまちづくりについて、甲州市をどのような特色のあるまちにするべきだと思いますか。（〇は3つまで）

1. 子どもがいいきと育つまち、安心して子育てができるまち
2. 保健・福祉・医療の充実したまち
3. 生活環境（上下水道、ごみ処理、公園など）の整ったまち
4. 農林業と観光の融合した交流とにぎわいのあるまち
5. 商工業が活発で魅力ある就業の場のあるまち
6. 交通基盤が整ったまち
7. 情報通信基盤が整ったまち
8. 犯罪がなく災害に強い安全なまち
9. 自然の豊かな美しい景観のまち
10. 歴史的なまち並みと伝統文化のまち
11. 男女が性別に関係なく社会で活躍できるまち
12. 教育・文化・スポーツ・芸術環境の整ったまち
13. 多様性を認め合い、個人が尊重され、自分らしく生きることができるまち
14. その他（

問34 最後に、市の行政に望むことやまちづくりについてのご意見がありましたら、率直なお考えをお聞かせください。

<自由記載欄>

この調査票は、7月7日（木）までに同封の返信用封筒にてご返送ください。